

産業建設委員協議会 資料1 令和7年12月17日 担当：産業観光部観光振興課 総務部課税課	総務政策委員協議会 資料1 令和7年12月18日 担当：産業観光部観光振興課 総務部課税課
--	--

宿泊税の導入に向けた方向性について

1 宿泊税の導入について

伊勢市においては人口減少や少子高齢化が進む中、第63回神宮式年遷宮に向け、来訪者の増加を見込んでおり、市民生活にも良い影響を与えるよう「住んでよし、訪れてよし」の持続可能な観光地づくりのための施策を進めていく必要がある。

市民生活と調和した持続可能な観光地の実現を目指し、来訪者の受入環境の充実および観光資源の魅力向上に資する施策に取り組むためには安定的な観光振興のための独自の自主財源が必要であり、市民による税負担だけではなく市の行政サービスを一定程度享受している宿泊者にも負担いただく法定外目的税として宿泊税の導入を検討している。

2 宿泊税の活用について

宿泊税を活用してめざすべき方向性は「観光客、市民双方の満足度の向上」、「市内宿泊客の増加」、「伊勢市へ訪れる観光客の宿泊割合の増加」とし、市民生活と調和した持続可能な観光地の実現を目指し、来訪者の受入環境の充実及び観光資源の魅力向上に資する施策に要する費用に充てる。

3 これまでの経緯

令和6年9月に伊勢市宿泊税検討委員会に宿泊税の導入について諮問し、令和7年2月に答申を受け、令和7年6月までの間において宿泊税を活用する使途や税制度等について検討し、協議を行ってきた。その後も、使途や特別徴収義務者の負担への対応等について引き続き検討を行ってきた。

- 令和7年2月28日 : 伊勢市宿泊税検討委員会より答申提出
- 令和7年3月14日 : 産業建設委員会、総務政策委員協議会
18日 答申について報告し、「宿泊税を導入する」ことを基本的な方針とすることについて説明
- 令和7年3月31日 : 産業建設委員会、総務政策委員協議会
基本的な方針およびパブリックコメント案について説明
- 令和7年4月1日 : パブリックコメント実施
～30日
- 令和7年4月16日 : 宿泊事業者等への説明会実施

- 令和7年5月12日 : 産業建設委員会、総務政策委員協議会
パブリックコメント、説明会の結果について報告
- 令和7年5月28日 : 産業建設委員会、総務政策委員協議会
30日宿泊税条例、特別徴収義務者支援、宿泊税の使途等の案について説明
- 令和7年6月1日 : 宿泊事業者等への説明会実施
- 令和7年6月6日 : 産業建設委員会、総務政策委員協議会
説明会での意見概要報告および特別徴収義務者となる宿泊事業者の理解を得るため、6月の条例案の提出、関連予算案の提出は行わない方針について報告
- 令和7年6月以降 : 宿泊事業者へのヒアリングやセミナーの開催、特別徴収義務者負担軽減等について先行自治体等への調査

4 今後の予定

伊勢市宿泊税検討委員会の答申やこれまでに示してきた市の方向性を前提に、宿泊事業者等の意見を踏まえ、円滑な宿泊税導入に向け使途や特別徴収義務者の負担軽減に向けた検討を進める。

- 令和8年1月下旬 : 宿泊事業者等との意見交換会の開催
- 2月以降 : 産業建設委員協議会、総務政策委員協議会
宿泊事業者等との意見交換会に関する報告および宿泊税の導入に向けた方向性について説明

伊勢市観光振興基本計画について

1. 背景

現在の観光振興基本計画が令和7年度に目標年次を迎えることから、本市における観光施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、令和8年度から11年度までの4か年度を計画期間とする新しい「伊勢市観光振興基本計画」を策定するものである。

2. 経過

学識経験者、観光商工関係団体、宿泊事業者団体、地域団体、まちづくり推進活動を行う特定非営利活動法人、交通事業者等で構成する伊勢市観光振興基本計画推進委員会による審議を経て素案を作成。

令和7年7月31日 第1回 伊勢市観光振興基本計画推進委員会

令和7年9月12日 第2回 伊勢市観光振興基本計画推進委員会

令和7年11月25日 第3回 伊勢市観光振興基本計画推進委員会

3. 計画(案)

(1) 期間

令和8年度から令和11年度までの4年間

(2) 内容

別添資料2－2「伊勢市観光振興基本計画(案)」参照

4. 今後のスケジュール(予定)

令和7年12月18日～ パブリックコメント実施(1か月程度)

令和8年1月22日 伊勢市観光振興基本計画推進委員会へ報告

〃 2月中旬 産業建設委員協議会へパブリックコメント等の報告

〃 3月下旬 伊勢市観光振興基本計画策定

産業建設委員協議会 資料2－2

令和7年12月17日

担当：産業観光部観光振興課

伊勢市觀光振興基本計画（案）



第1章 はじめに

1 計画策定の背景・目的

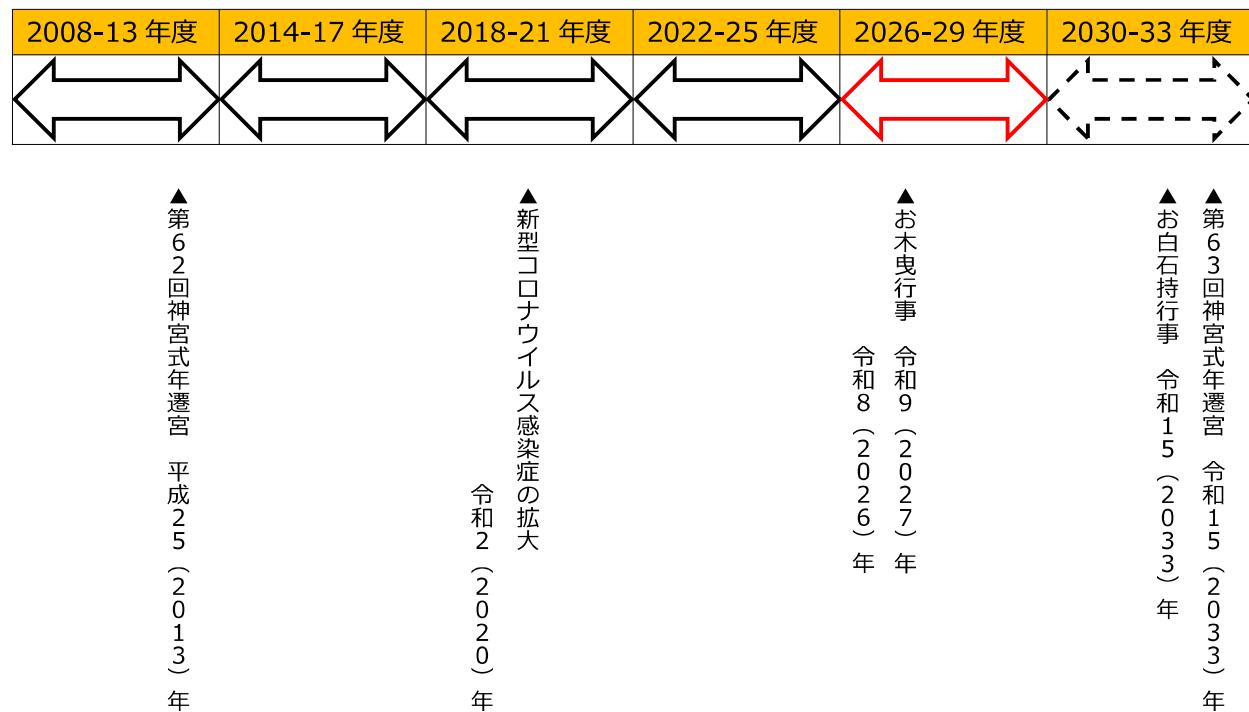
伊勢市は、古くから「日本人の心のふるさと」と呼び親しまれてきた神宮がご鎮座する観光都市として、全国から多くの観光客を迎えてきました。平成25（2013）年の第62回神宮式年遷宮では神宮参拝者数が過去最高を記録し、その後も継続的な観光振興に取り組んできました。しかし、令和2（2020）年の新型コロナウイルス感染症拡大により観光を取り巻く状況は大きく変化し、観光のあり方も変化を迫られています。観光立国推進基本計画に示された持続可能な観光地域づくり、インバウンド回復、国内交流拡大といった国の方針を踏まえ、地域の実情に応じた観光振興を図ることが求められています。さらに、デジタル技術の活用、多様な観光ニーズへの対応、持続可能な観光の推進など、新たな課題への取り組みも必要となっています。

また、本計画の初年度となる令和8（2026）年は、第63回神宮式年遷宮関連行事である民俗行事「お木曳行事」が始まる年です。本計画の計画期間である4年間では、令和15（2033）年に行われる第63回神宮式年遷宮を見据えて、観光地としての受入体制の充実と機運醸成、旅客誘致を図ってまいります。お木曳行事による盛り上がりを観光振興、観光誘客に関する好機と捉え、その盛り上がりを令和10（2028）年以降も継続させるために重要な4年間となります。

このような背景から、観光に関する動向を踏まえ、式年遷宮を見据えた中長期的視点に立ち、4年間に取り組む方針をまとめた新「伊勢市観光振興基本計画」を策定しました。

2 計画の期間

前「伊勢市観光振興基本計画 令和4（2022）年3月策定・令和5（2023）年3月改訂」を引き継ぎ、本計画の対象期間は、令和8（2026）年度から令和11（2029）年度までの4年間とします。

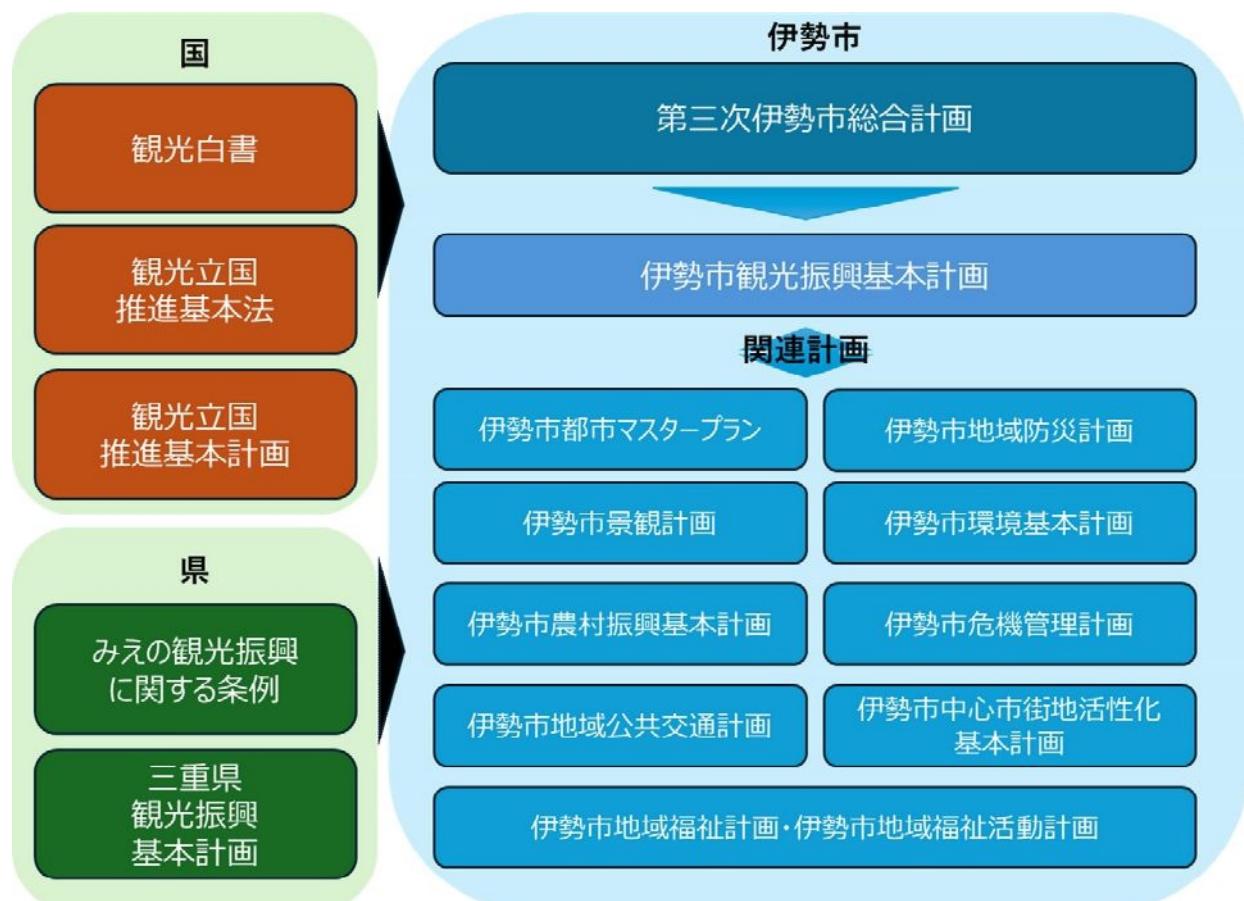


3 計画の位置づけ

本計画は伊勢市のまちづくりを進める上での最上位計画である「第3次伊勢市総合計画」で掲げた目標（目指す姿）の実現に向け、観光分野における施策及び事業の推進指針を示すものになります。

また、伊勢市の他分野の計画や他部局で実施する施策等における観光分野に係る部分は、本計画との整合を図るものとします。

本計画策定にあたり、市の上位計画及び関連計画、国や県の観光振興との関係を以下のように図示します。



第2章 社会動向・観光動向（伊勢市を取り巻く観光の現状）

1 観光を取り巻く社会動向（国の動向）

平成19（2007）年1月に施行された観光立国推進基本法の規定に基づき、観光立国の実現に関する基本的な計画として令和5（2023）年に新たに「観光立国推進基本計画」が閣議決定されました（令和5（2023）年3月31日閣議決定）。この基本計画においては、観光立国の持続可能な形での復活に向け、観光の質的向上を象徴する「持続可能な観光」「消費額拡大」「地方誘客促進」の3つをキーワードに、持続可能な観光地域づくり、インバウンド回復、国内交流拡大の3つの戦略に取り組むこととしています。

（1）持続可能な観光地域づくり戦略

2023年に閣議決定された観光立国推進基本計画では、観光を地域経済を支える基幹産業として位置づけ、持続可能な観光地域づくりを推進することとしています。全国的に観光産業は雇用創出効果が高く、宿泊業、飲食業、交通業、小売業など幅広い産業への経済波及効果をもたらす重要な産業となっています。

一方で、観光業界では深刻な人手不足が課題となっており、特に宿泊業や飲食業における労働力確保が困難な状況が続いている。人手不足の解消に向けては、デジタル技術の活用による業務効率化や、外国人材の活用、働き方改革の推進などが急務となっています。また、一部の人気観光地では観光客の集中によるオーバーツーリズムが問題となっており、地域住民の生活環境への影響や観光体験の質の低下が懸念されています。こうした現状を踏まえて、「住んでよし、訪れてよし」の観光地域づくりの実現に向けて、国は令和2（2020）年に各地方自治体や観光地域づくり法人（DMO）¹が持続可能な観光地マネジメントを行うことができるよう、国際基準に準拠した「日本版持続可能な観光ガイドライン（Japan Sustainable Tourism Standard for Destinations（JSTS-D））」を開発しました。

また、観光地経営の主体については、DMOがその中心的な役割を果たすことが期待されています。DMOが主体となり、持続可能な観光地域づくりの実現に向けて、明確な戦略のもとで地域の稼ぐ力を最大限に引き出し、その地域を訪れる来訪者も、そうした来訪者を迎える地域住民も、双方が観光による社会的・経済的な恩恵を実感できるような持続的な仕組み・体制づくりが求められています。

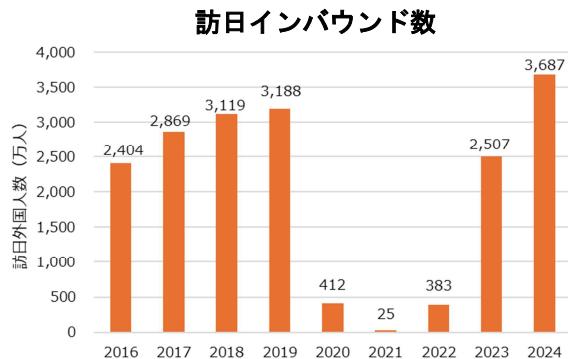
（2）インバウンド回復戦略

新型コロナウイルス感染症の影響により大幅に減少した訪日外国人旅行者（インバウンド）数は、2023年以降急速な回復を見せています。2024年は3,687万人の外国人が日本を訪れ、過去最高であった2019年の3,188万人を上回りました。特に東アジア諸国からの回復が顕著である一方、欧米豪からの訪日客も徐々に増加傾向にあります。

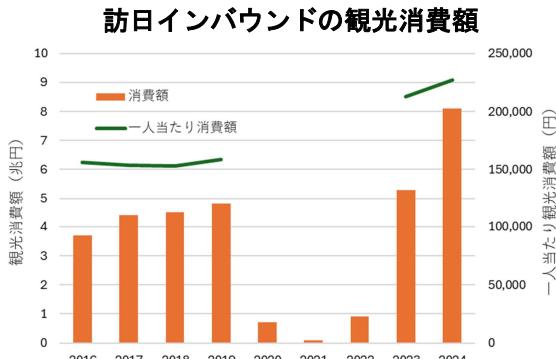
訪日外国人の旅行消費額も2024年は8兆円を上回り、国内経済への貢献度が高まっています。政府は地方部への誘客分散を重要政策として掲げており、東京・大阪などの大都市圏から地方への誘客促進が課題となっています。観光庁では、本市を含む伊勢志摩及び周辺地域エリアをはじめとする全国の14地域を「地方における高付加価値な

¹ 地域の「稼ぐ力」を引き出すとともに、地域への誇りと愛着を醸成する地域経営の視点に立った観光地域づくりの司令塔として、多様な関係者と協働しながら、明確なコンセプトに基づいた観光地域づくりを実現するための戦略を策定し、着実に遂行する機能を備えた法人のこと

インバウンド観光地づくり「モデル観光地」に指定しており、各地域の魅力を活かしたコンテンツの造成などにより、地方への高付加価値旅行者の誘客拡大を図っています。



資料：JNTO 訪日外客統計



資料：観光庁 インバウンド消費動向調査

※2020～2022年はコロナ禍のため一人当たり消費額のデータなし（もしくは参考値）

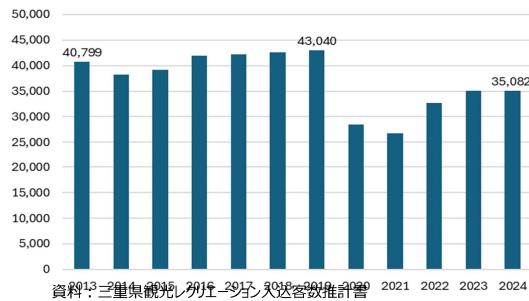
(3) 国内交流拡大戦略

コロナ禍を経て国内観光需要は回復基調にありますが、旅行スタイルの多様化が進んでいます。ワーケーション²やマイクロツーリズム³、アウトドア・自然体験への関心が高まり、従来の団体旅行から個人・小グループ旅行へのシフトが加速しています。平日や閑散期の旅行需要増加に向けた、休暇取得の分散化や企業の働き方改革と連動した施策が行われ、さらにテレワークの普及を背景としたワーケーションの推進や、二地域居住の促進につながる「第2のふるさとづくり」として関係人口の創出・拡大が重要な政策として位置づけられています。また、ユニバーサルツーリズム⁴の推進による高齢者や障がい者を含む全ての人が安心して旅行できる環境整備なども進められています。これらの取り組みにより、あらゆる人が地域との継続的な関わりを持ち、地域経済の持続的な活性化を図ることが期待されています。

2 三重県の観光動向

三重県では、観光産業を県内経済をけん引する産業の1つとして大きく育てていくため、平成23（2011）年に「みえの観光振興に関する条例」を制定し、観光振興に向けた取り組みを展開しています。三重県の観光入込客数及

三重県の観光入込客数（千人）

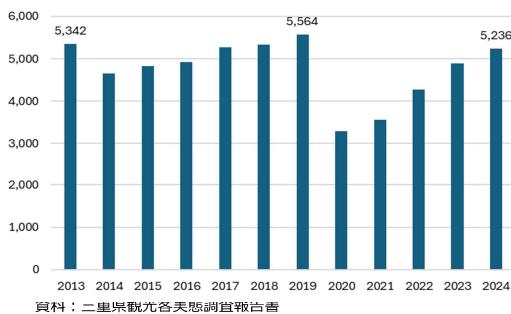


² Work（仕事）とVacation（休暇）を組み合わせた造語で、旅先で休暇を楽しみながら仕事を行うことです。

³ 主に自家用車を使い、自宅から1～2時間圏内の「地元」で観光する近距離旅行のことです。

⁴ 年齢や障がいの有無にかかわらず、誰もが気兼ねなく楽しめることを目指した旅行のことです。バリアフリー対応や多言語対応など、ソフト・ハードの両面での環境整備が求められています。

三重県の観光消費額（億円）

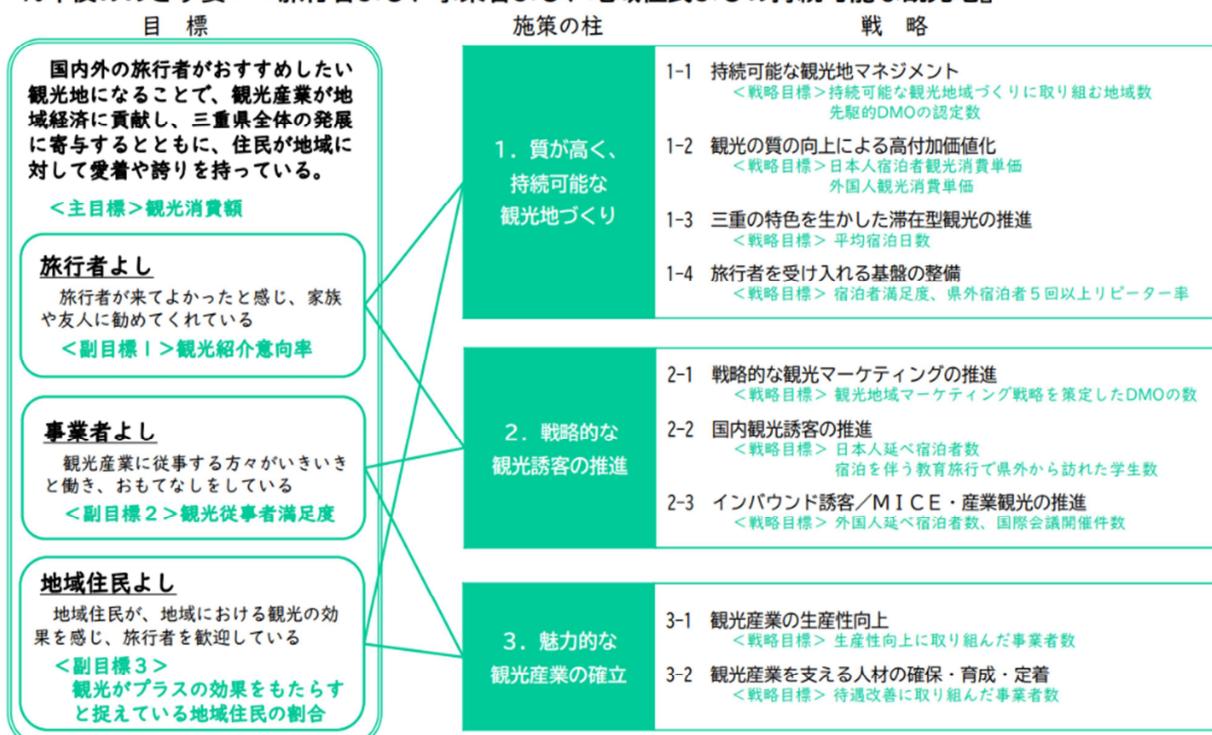


資料：三重県観光レポート「2024年入込客数推計書」

び観光消費額は、前回式年遷宮があった平成 25（2013）年の翌年には一時的に落ち込みましたが、その後順調に回復し、令和元（2019）年にはそれぞれ過去最高を記録しました。その後、コロナ禍での入込客数と消費額の大幅な減少を経験したのちは回復傾向にあり、消費額においてはほぼコロナ前の水準まで回復しています。

こうした中、令和 6（2024）年 3 月には『三重県観光振興基本計画』を策定し、「質が高く、持続可能な観光地づくり」、「戦略的な観光誘客の推進」、「魅力的な観光産業の確立」の 3 つの柱と、それらを支える観光 DX の推進を掲げています。こうした方向性のもとに、国内外の旅行者がおすすめしたい観光地になることで、観光産業が地域経済に貢献し、三重県全体の発展に寄与するとともに、住民が地域に対して愛着や誇りを持つことを目標に、10 年後のめざす姿である「旅行者よし、事業者よし、地域住民よしの持続可能な観光地」の実現に向けた取り組みを進めています。

10年後のめざす姿：『旅行者よし、事業者よし、地域住民よしの持続可能な観光地』



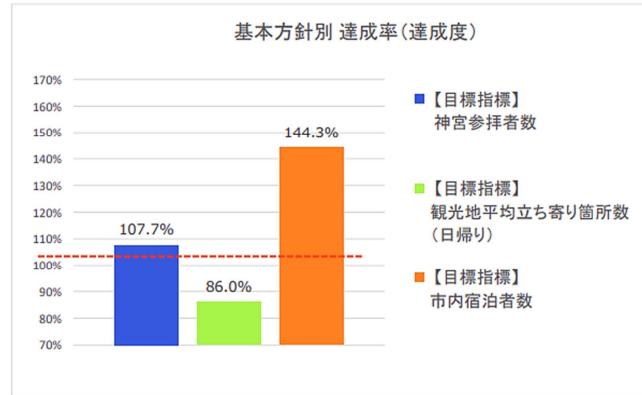
第3章 伊勢市の観光の現状と課題

前計画の検証

(1) 目標指標（KGI）に基づく検証（令和6年度）

新型コロナウイルス感染症に関して、令和6年は年間を通して行動制限がなくなり、伊勢市では観光交流が活発化し、概ね前年を上回るペースで多くの人々が訪れました。

目標指標（KGI）の達成状況を見ると、「神宮参拝者数」と「市内宿泊者数」の2指標は目標を達成したもの、「観光地平均立ち寄り箇所数（日帰り）」は未達に終わりました。具体的には、年間の神宮参拝者数は目標値の107.7%で達成しました。また、市内宿泊者数は、目標値の144.3%で達成することができました。一方で、周遊や分散の指標である観光地平均立ち寄り箇所数（日帰り）は、目標値の86.0%にとどまり未達成でした。



(2) 基本方針に基づく取組みと検証（令和6年度）

基本方針	状況	検証結果
1. 「神宮を中心とした物語性」の発掘・展開	×	<ul style="list-style-type: none">観光客総合満足度は高水準を維持するも、目標95.5%で令和5年度より減少。9項目全て前年を下回りました。リピーターが8割超と、伊勢への良いイメージを持つ方の再訪が多い状況です。さらなる再訪意欲向上には満足度向上が不可欠です。
2. ターゲット別 PR 戦略と関係人口の確保・創出	○	<ul style="list-style-type: none">目標達成率は158.1%と大きく上回る実績でした。令和3年3月のスマートフォン対応リニューアルが貢献しています。SEO対策（SNS運用、特集ページ制作）も奏功し、年間のセッション数は令和5年から大幅に増加しました。
3. 産業視点での観光の推進	○	<ul style="list-style-type: none">日帰りは達成率119.6%で目標達成しましたが、宿泊は96.1%で目標未達となりました。物価上昇で消費額は向上したものの、調査では宿泊費が令和5年度より減少しました。
4. 安全・安心な受入環境・受入基盤の整備	×	<ul style="list-style-type: none">バリアフリー認定は目標達成率55.0%と未達でした。計22施設（宿泊14、飲食5、案内所3）が認定され、研修実施等により受入整備は進んでいます。しかし、飲食店でのスタッフ対応レベルの差への懸念や人材教育への不安が、認定伸び悩みの要因と推察されます。
5. 「共生と競争」の視点での連携の推進	×	<ul style="list-style-type: none">再訪意向率は目標に対し97.9%で未達となりました。令和3年度の過去最高98.8%には及ばないものの、令和6年度実績96.7%は高い水準を維持しています。伊勢市とその周辺が繰り返し選ばれる観光地となり、その中心が伊勢となることを目指す必要があります。
6. 市民・地域の「おかげさまの心」の醸成と連携の強化	○	<ul style="list-style-type: none">目標達成率は116.6%となり、目標を達成しました。モニタリング指標では、検定お伊勢さん合格者が16人増、「伊勢っ子」事業参加者が29人減、「伊勢たびナビの会」参加者が9人増となりました。

2 伊勢市の観光動向

(1) 伊勢市における人口等の現状

本市の総人口は減少し続けることが見込まれ、令和 52（2070）年の生産年齢人口は令和 2（2020）年から約 60%減の見込みです。昭和 60（1985）年の総人口に占める生産年齢人口の割合は 67.3%でしたが、令和 2（2020）年には 56.1%と 11.2pt 減少しています。年少人口は 20.7%から 11.7%と 9pt 減少、老人人口は 12.0%から 22.2%と 10.2pt 増加しており、少子高齢化の傾向が著しく進行しています。

社会増減をみると、平成 18（2006）年以降すべての年で転出超過となっていますが、前回第 62 回神宮式年遷宮（平成 25（2013）年）を含む前後の 4 年間は、社会増減が抑制されています。

生産年齢人口の減少により、労働力・量の低下、経済活動や市場規模の縮小が懸念されています。そのような状況下で、宿泊業や飲食業だけでなく農業や漁業、運送業など幅広い裾野を持ち、地域への経済的なインパクトが大きい観光業への注目が集まっています。中長期的な視点から今後の伊勢市を支えるために、観光で稼ぐことができる体制や、宿泊税等の新たな財源の検討が必要となっています。



※総務省「国勢調査」（2015、2020）

推計方法：国勢調査結果からコホート要因法により、男女別・年齢 5 歳階級別人口に基づく 5 年ごとの人口を算出

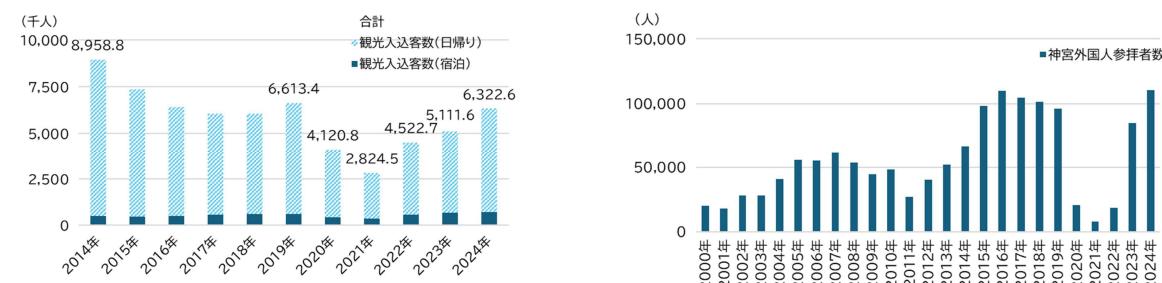
資料：伊勢市地域の未来予測

(2) 伊勢市における観光の現状

①観光客数と神宮外国人参拝者数の推移

本市の令和6（2024）年の観光入込客数は632.3万人と、コロナ禍前の令和元（2019）年比で95.6%まで回復しています。神宮の外国人参拝者はコロナ禍に大きく減少しましたが、令和6（2024）年には11.0万人の過去最高参拝者数を記録するなど、本市においても訪日外国人旅行（インバウンド）が拡大していることがうかがえます。伊勢市においては、ご遷宮に合わせた20年周期での観光客増減があり、平準化対策も今後必要となります。

コロナ禍を乗り越えた本市の観光は、国内外からの来訪者増加という新たな局面を迎えており、この機会を生かした持続可能で質の高い観光地づくりに向けた取り組みが必要となっています。



※観光入込客数（宿泊）…宿泊施設利用者延べ数と平均宿泊日数より算出

観光入込客数（日帰り）…観光地点立ち寄り延べ数と観光入込客数（宿泊）、

市内宿泊客観光地点平均立ち寄り箇所数、日帰り客観光地点平均立ち寄り箇所数より算出

資料：伊勢市観光客実態調査

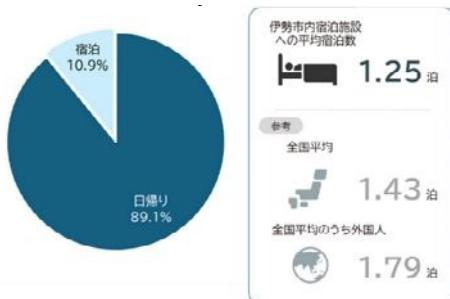
資料：伊勢市観光統計

②宿泊客/日帰り客の割合と宿泊者数の推移

本市の宿泊客・日帰り客の状況については、日帰り客が全体の約9割を占め、宿泊客が約1割しかおらず、宿泊者数の増加が課題と考えられます。宿泊者数の推移をみると、令和元（2019）年にかけて増加、その後コロナ禍で減少していましたが、令和4（2022）年以降は回復傾向にあり、令和6（2024）年には86万人を超え、過去最高の宿泊者数となっています。

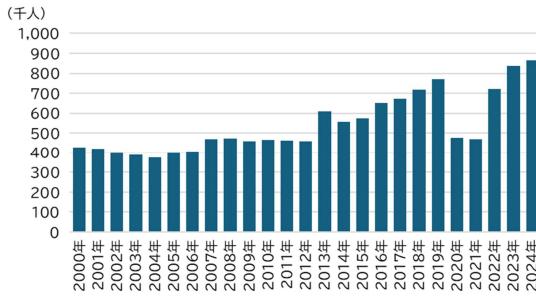
宿泊者数の増加傾向は見られるものの、依然として日帰り客中心の観光構造であるため、滞在時間の延伸と宿泊割合向上に向けた取り組みが必要です。

宿泊者と日帰りの割合（令和6（2024））



資料：伊勢市観光客実態調査（令和6年）

宿泊者数の推移



資料：伊勢市観光統計

③月別の神宮参拝者数と宿泊者数

令和6（2024）年の月別神宮参拝者数は、1月が最も多く、6～9月の夏季期間はやや低い状況となっています。令和6（2024）年の月別宿泊者数は、夏季・冬季等の長期休暇等にピークがみられる全国的な傾向とは異なり、3月がやや多く、6月が全体と比べてやや少なくなっているものの、それ以外は概ね6万人前後で推移しており季節による変動は小さくなっています。外国人割合は7月が最も多くなっていますが、それでも全体の5%未満と低く、日本人を含む宿泊者全体の傾向とは異なる推移となっています。

本市における季節別の観光客数の動向としては、初参りによる1月の集中と夏季の落ち込みという季節変動がある一方で、宿泊需要は比較的安定しています。この特性を生かしつつインバウンドの誘致拡大等、観光客数の平準化に向けた取り組みを検討する必要があります。



④観光消費額

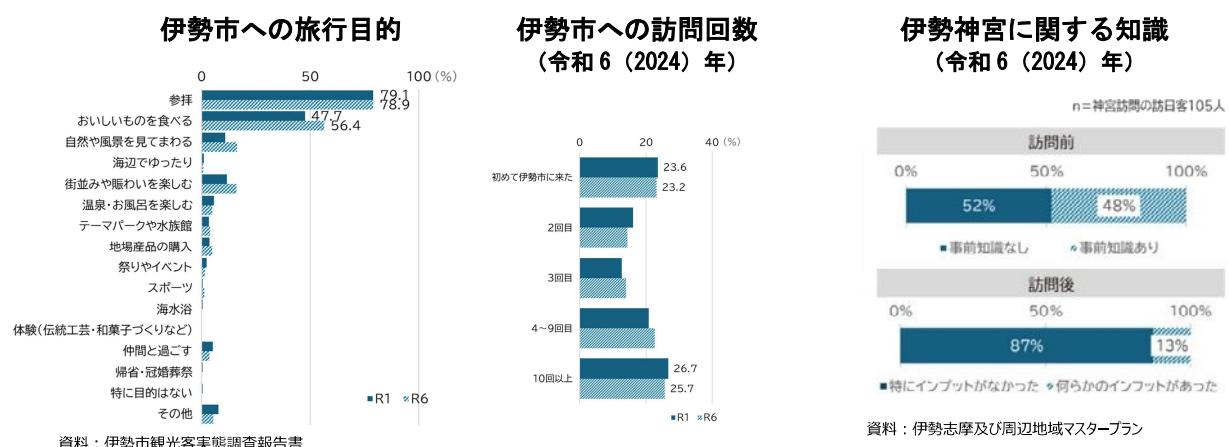
本市の観光消費額は、令和6（2024）年は657.7億円であり、コロナ禍以降増加傾向となっています。伊勢市内における観光客1人当たりの観光消費総額は、日帰り客が8,371円、市内宿泊客が26,908円で、いずれもコロナ禍以降増加傾向にあります。観光消費額の着実な回復と1人当たりの消費額の増加傾向は前向きな動きであるものの、全国水準との格差が依然として大きいのが現状です。その要因としては、伊勢市内には特別な体験ができるコンテンツや観光客向けに夕食を提供する飲食店が少ないと、神宮やその周辺以外に立ち寄れるコンテンツが少ないと、近隣市町と比べて高単価な宿泊施設が少ないことが考えられます。今後は観光地としての付加価値向上や消費促進の強化が課題です。



⑤旅行目的、訪問回数、伊勢神宮に関する知識

本市来訪者の旅行目的は、令和元（2019）年・令和6（2024）年ともに「参拝」が約8割で最も多く、次いで「おいしいものを食べる」が4割半ば～5割半ばと、アンケートからも神宮が本市の主要な観光資源であることがうかがえます。訪問回数をみると、リピーターが全体の7割以上を占め、特に10回以上伊勢市を訪れたことがある人が全体の4分の1を占めるなど、リピーターの割合が多いことが特徴です。神宮に関する知識については、インバウンドを対象に訪問前に事前知識の有無を尋ねたところ、事前知識がある方は概ね半数程度でした。一方で、訪問後に「何らかのインプットがあった」とする割合は1割半ばに留まります。

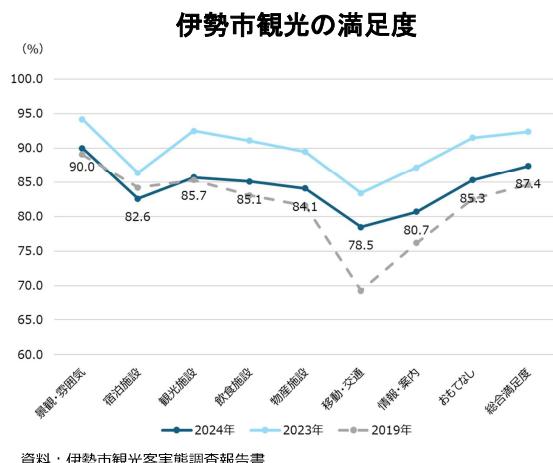
本市は参拝と食を中心とした明確な旅行目的とリピーター率の高さという強みを持つ一方、神宮への知識に触れる機会がないまま伊勢を離れるインバウンドが多いといった課題もあります。神宮をはじめとする本市の伝統・文化の魅力をより深く理解していただくための情報発信や、それを担うガイドの育成が必要です。



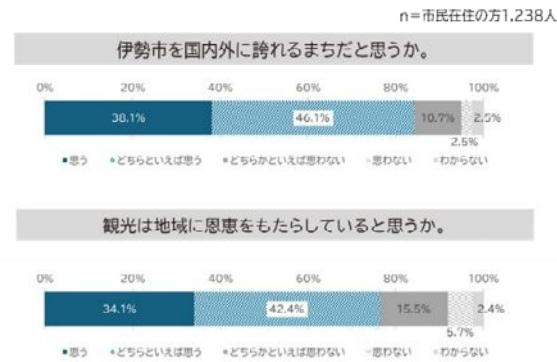
⑥伊勢市の観光満足度、市民アンケートからみえる現状

本市の観光満足度は、令和6（2024）年には景観・雰囲気で約9割、観光施設・飲食施設・おもてなしで8割半ばの方が満足していると回答しており、本市を訪れる観光客の満足度が高いことがうかがえます。年度により数値に違いはあるものの、コロナ禍以降これらの項目における観光満足度が高い傾向が続いている。一方で、市民アンケートからみえる現状については、「伊勢市が国内外に誇れるまちか」、「観光による地域恩恵があると思うか」という質問に「思う」と回答した人の割合はそれぞれ3割半ば～4割程度と、今後の拡大が期待されます。

本市は観光満足度の高さという強みを持つ一方で、市民の観光に対する誇りや恩恵実感が十分でない現状を踏まえ、市民と観光客双方が満足できる持続可能な観光地づくりに向けた取り組みの検討が求められています。



市民アンケートからみえる現状（令和6年（2024））

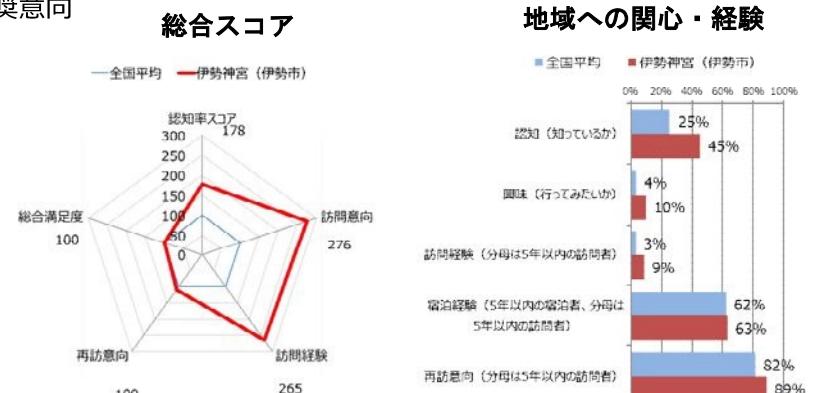
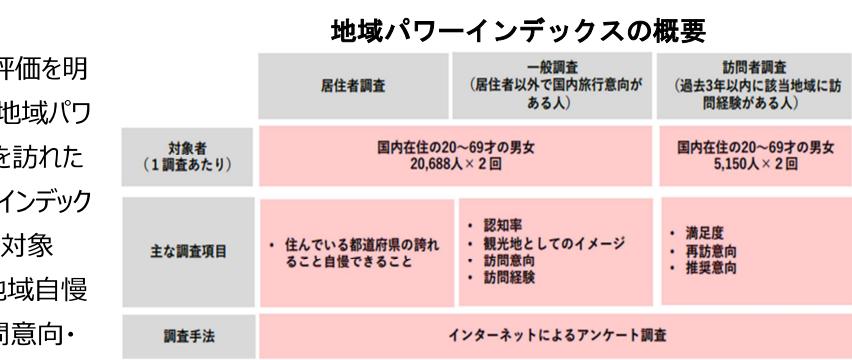


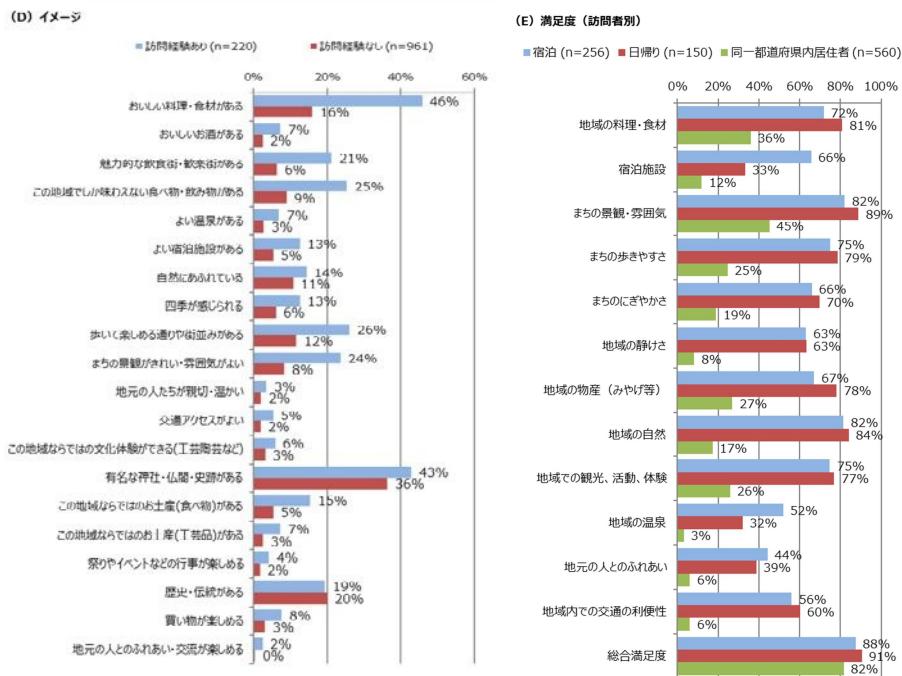
⑦地域パワーアインデックスによる分析

全国的にみた本市の強みや旅行者からの評価を明らかにするために、JTB オリジナルデータ「JTB 地域パワーアインデックス」により、伊勢神宮（伊勢市）を訪れた観光客の声を分析しました。JTB 地域パワーアインデックスは、全国 240 の観光地（都市を含む）を対象に、対象地居住者（都道府県民）が持つ地域自慢などのデータ、旅行者の認知率・イメージ・訪問意向・訪問経験、来訪者の満足度・再訪意向・推奨意向をもとに集計・分析を行った、JTB のオリジナルデータです。

その結果、総合スコアでは認知率・訪問意向・訪問経験の項目が全国と比べて非常に高くなっていました。訪問者特性による比較をみると、地域イメージでは「おいしい料理・食材がある」「魅力的な飲食街・歓楽街がある」「この地域でしか味わえない食べ物・飲み物がある」といった“飲食”に関する選択肢で、本市への訪問経験がある方が、訪問経験がない方に比べて高く評価した回答が多くなっています。同様に景観等に関する項目についても、訪問経験がある方が高く評価していることがわかりました。

本市は認知率・訪問意向・訪問経験の総合スコアが全国平均を大きく上回る高評価を得ている一方で、飲食等に関する地域イメージが訪問経験の有無により大きく異なることから、本市の食文化等の魅力をより広く発信し、未訪問者にもその価値を伝える情報発信の強化が求められています。





⑧受入体制

本市の観光受入体制について、宿泊施設は、令和6（2024）年時点で総収容人数 5,683 人となっています。鳥羽・志摩等の近隣の観光地と比べて収容キャパシティが少ないことや、ラグジュアリーホテルが少ないなどが課題としてあげられます。このことが本市の観光消費額が全国と比べて低いことにもつながっており、インバウンド対応やバリアフリー対応等を促進し、さまざまな観光客を迎える体制を整備することが必要です。

一方で伊勢市駅観光案内所における日本政府観光局（JNTO）認定観光案内所カテゴリーⅡの取得をはじめ、多言語対応や AI チャットボットの導入など、リアルとオンラインの両方でインバウンドの対応強化・拡充に取り組んでいます。

インバウンド対応においてリアルとオンライン両面での受入環境整備が進む一方で、宿泊施設の収容力不足とラグジュアリーホテルの不足が顕著であり、観光需要の拡大に対応した多様なタイプの宿泊インフラの充実が求められています。

(3) 伊勢市を訪れるインバウンドに関する動態調査

各種位置情報データを活用し、伊勢市を訪れるインバウンドの属性や立ち寄り先などを把握することで、今後の施策検討の判断材料とします。

①モバイル空間統計

i) 調査概要

○調査対象データ：「モバイル空間統計」

※docomo回線を利用する携帯電話の基地局データを基にした推計値

○調査対象：伊勢市を訪れたインバウンド

※年間のサンプル数が100以下の国は対象から除外

○調査属性：国籍別の旅行者数/宿泊客数/日帰り客数/宿泊率/平均滞在日数

　重点5エリア（内宮・外宮・河崎・二見・朝熊）における国籍別の旅行者数/宿泊客数

○調査期間：2024年3月～2025年2月 ※季節単位で集計

○集計方法

伊勢市全域：伊勢市内に2時間以上滞在した人数

重点5エリア：各1kmメッシュに1時間以上滞在した人数

○総サンプル数：101,833

ii) 調査結果

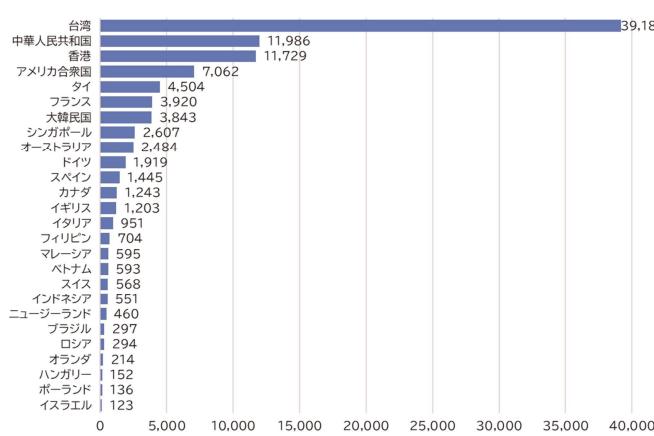
本市を訪れるインバウンドは台湾が約3.9万人と最も多く、2位の中国、3位の香港（ともに約1.2万人）の3倍以上でした。一方で宿泊数をみると台湾が約6,100人と最も多かったものの、2位の香港、3位の中国（ともに約3,600人）との差は約1.7倍と小さくなっています。台湾からの旅行者は日帰りの割合が特に高いことがわかります。季節別構成比ではいずれの国も年間を通じて比較的満遍なく来訪しているものの、宿泊に限ると特に夏に多くの方が訪れていることが分かります。また、宿泊率をみると香港や中国などのほか、欧米豪を中心とした国々が上位に位置しています。これらの国・地域では約3割の方が宿泊しており、日本人の約1割と比べるとその割合は高くなっています。季節別ではおおむねいずれの季節においても満遍なく宿泊していますが、夏と秋の宿泊率がやや高くなる傾向にあります。

一方で、重点5エリアの1kmメッシュ別の旅行者数をみると、内宮エリアと外宮エリアは来訪者数が多く、かつさまざまな国・地域からの旅行者が訪れていることが分かりました。一方で河崎エリアと二見エリアでは伊勢河崎商人館周辺や伊勢忍者キングダムなどがあるメッシュで、香港からの旅行者の割合が1位になるなど、他の地域とは異なる傾向がみられました。朝熊エリアにおいては、ほとんど人流が確認されませんでした。

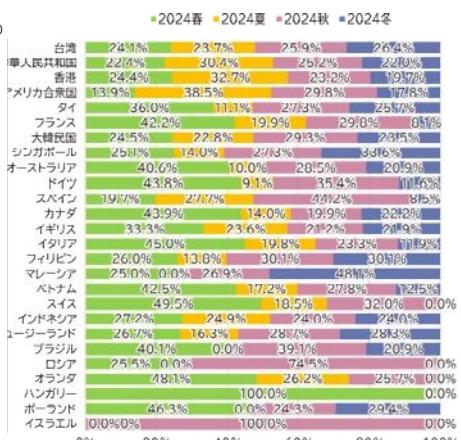
iii) 本調査から得られる示唆

伊勢市では台湾からのインバウンドが最も多いことがわかりましたが、台湾は日帰り傾向が強く、宿泊率の低下に拍車をかけています。一方で欧米からのインバウンドは、日本人と比べて宿泊率が高い傾向にあり、そうした地域をターゲットとした商品開発やプロモーションを行うことなどで、宿泊率向上や夜間の賑わい創出に貢献できる可能性があります。またエリア別では、香港において他国籍のインバウンドとは一部で異なる傾向がみられたため、そうした国・地域別の特徴を把握したインバウンド誘致を行うことで、内宮・外宮以外の市内周遊の促進などにもつながることが期待されます。

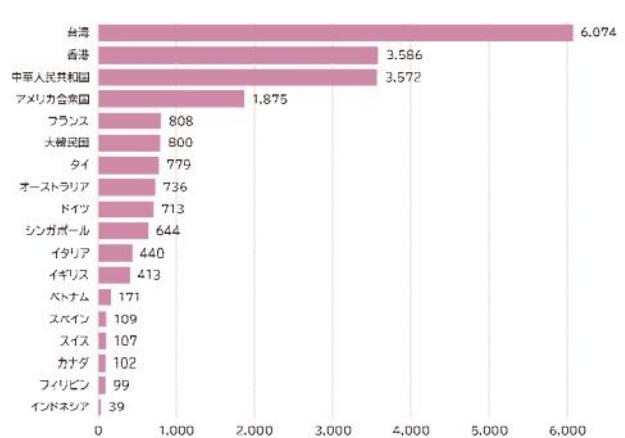
インバウンドの国別旅行者（総数）



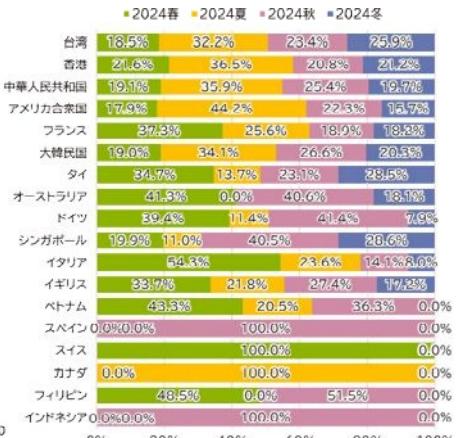
季節別構成比



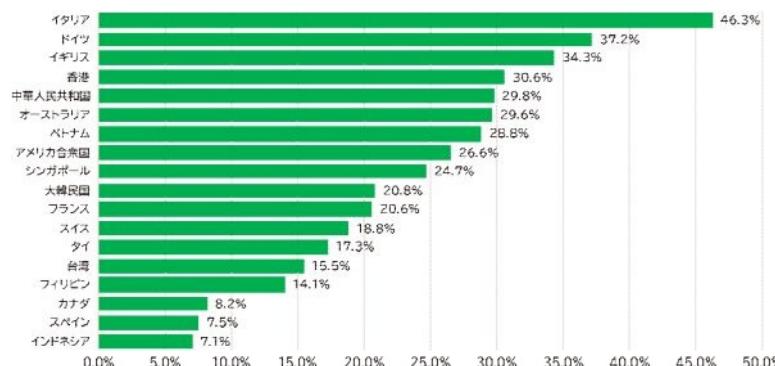
インバウンドの国別宿泊者数



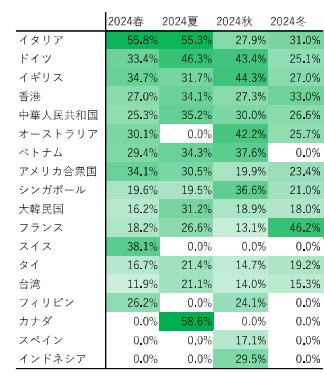
季節別構成比



インバウンドの国別宿泊率



季節別宿泊率





※メッシュコード(8ケタの数字)の表示があるメッシュはデータあり、NAはデータなし

(単位:人・%)

Area (グループ), Area	旅行客数	宿泊客数				
		台湾	中華人民共和国	香港	アメリカ合衆国	カナダ
内宮	51365557 51365547 51365548 51365558	45,407 16,190 7,878 5,293	901	29%	71%	
外宮	51365586 51365585 51365578	22,317 225 44	166	100%	100%	100%
河崎	51365597 51365544	1,398 1,406	567	53%	47%	
二見	51366512 51366602 51366603 51365692	1,027 1,357 805 735	546	10%	43%	47%
朝熊	51365681	64	34	100%		

②Japan Travel Bridge

i) 調査概要

○調査対象データ：「Japan Travel Bridge」

※NTT BP 社保有の Wi-Fi ダウンロードアプリデータを JTB 総合研究所独自開発の技術で分析した人流群データ

○調査対象国：台湾、香港、タイ、アメリカ、フランス、イギリス、オーストラリア

○調査属性：国籍別の性別/年代/伊勢市を訪れる前後 12 時間での立ち寄り先

○調査期間：2024 年 3 月～2025 年 2 月 ※季節単位で集計

○集計方法：伊勢市内で位置情報を残した人

○総サンプル数：9,477

ii) 調査結果

本市を訪れるインバウンドは、名古屋駅・栄周辺の名古屋市中心部やアウトレットやなばなの里があるナガシマリゾート周辺といった「名古屋・北勢方面」、大阪ミナミ・京都市内といった「関西方面」、熊野三山や紀伊勝浦温泉などといった「熊野方面」の主に 3 方面から伊勢市を訪れています。「名古屋・北勢方面」はいずれの国・季節においても一定の

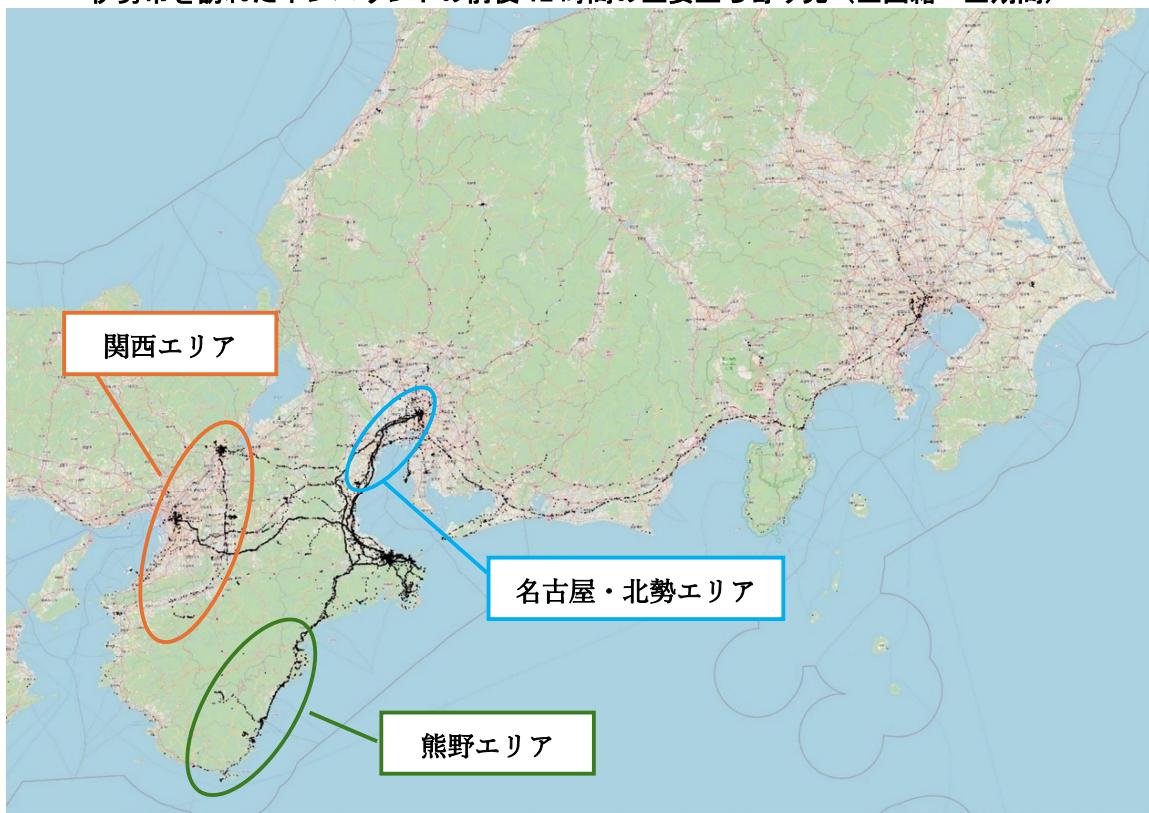
人流がありました。「関西方面」では、台湾は春や冬には全体的に少なく、アメリカは大阪には季節を問わず立ち寄る人が多いが京都には夏に立ち寄る人が多い、「熊野方面」はフランス・イギリス・オーストラリアは春が多く、アメリカは夏が多い等の国・地域による特徴がありました。その他にも一部ではありますが、高山や東京のほか、アメリカやオーストラリアでは熊野古道を歩いていると思われる人や、アメリカやフランスでは渥美半島を訪れる人、イギリスは通年で金沢から福井にかけての北陸地方を訪れている人など、国・地域により特徴的な立ち寄り先が抽出されました。

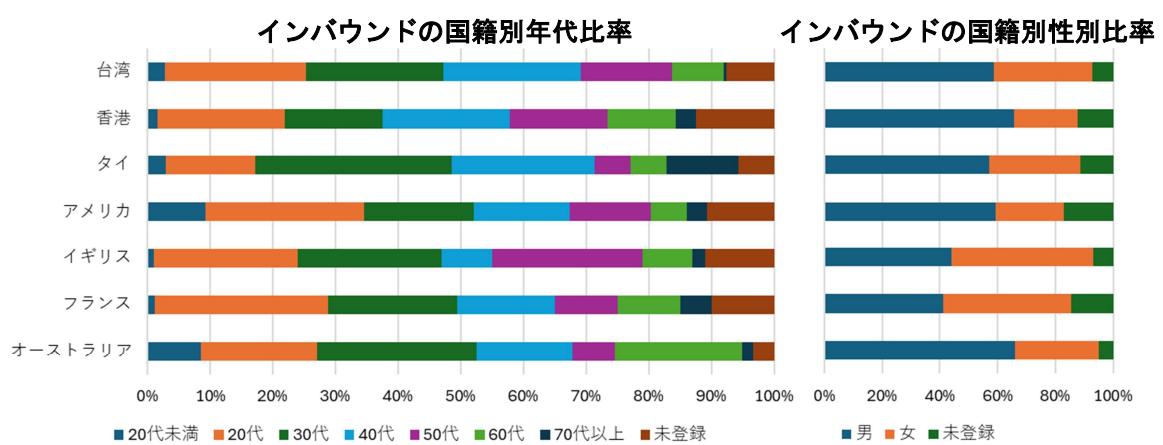
本市を訪れるインバウンドの性別は、アジア各国・アメリカ・オーストラリアでは男性が多い傾向にあり、フランスとイギリスではそれらの国と比べて女性が多くなる傾向がありました。また年代では各国とも 20~40 代の比較的若い層が多く来訪していることがわかりました。

iii) 本調査から得られる示唆

本市を訪れるインバウンドは本市を訪れる前後で、主に名古屋・北勢、関西、熊野の 3 方面を訪れていることがわかりました。このうち名古屋・北勢方面と関西方面は、鉄道駅を中心とした立ち寄りであり、本市へのアクセスのゲートウェイとして機能していることがうかがえます。一方で熊野方面では熊野本宮大社などの熊野古道関連の観光地へ立ち寄っていることがわかります。熊野古道は歴史・文化・宗教観などにより形成された文化的景観を理由に、世界遺産に登録されています。このことは本市に受け継がれてきた神宮を中心とする精神性とも共通する部分が多く、「本物の日本文化」としてインバウンドに訴求できる魅力を秘めています。このようなインバウンドの国・地域別の特徴から嗜好性を把握することで、連携すべきエリアやプロモーションの方法など、具体的な戦略を考える際の参考とすることができます。

伊勢市を訪れたインバウンドの前後 12 時間の主要立ち寄り先（全国籍・全期間）





(4) 観光事業者等の実態調査（アンケート調査）

観光関連事業者等にアンケート調査を実施し、統計データからは把握できない地域の現状・課題を整理したうえで、定量データと比較することでよりミクロな視点での課題をあぶり出し、より具体的で実効性のある計画策定を目指します。

①市内観光事業者アンケート

i) 調査概要

調査対象：神社仏閣、宿泊事業者、土産物店、食事施設、交通事業者、観光関連団体など

調査期間：2025年10月～2025年11月

サンプル数：25件

ii) 調査結果

ア. 回答者の概要と経営状況

回答者の所在地は伊勢市内全域にわたり、業種も多岐にわたります。従業員数については、内宮、外宮、河崎エリアでは比較的小規模な事業者が多く、交通事業者を含む「その他」エリアでは大規模な事業者が目立ちました。売上動向と景況感については、多くの事業者がコロナ禍からの回復傾向にあるものの、コロナ前のピーク時には及んでいないと回答しています。特に、人件費や材料費の高騰が収益性を押し下げており、「売上が上がってない中で利益は減少している」「経費は増大しているが収益はなかなか数字として上がってこない」といった懸念の声が多数聞かれました。平均単価は、宿泊業が約1.8万円と突出しており、その他の業種では1,000円～3,000円前後が主流です。インバウンド顧客については、アジア圏からの来客が中心であり、その嗜好や旅行スタイルが多様化していることが示唆されています。

イ. 顧客層と来訪動向

回答者の施設を訪れるインバウンドの国籍は、台湾、中国、アメリカが上位を占める傾向にありますが、エリアや事業者によってはイタリアが1位となるなど多様性も見られます。2位以下には香港、シンガポール、タイなどのアジア圏が続き、フランス、イギリスなどのヨーロッパ諸国も多く見られました。日本人旅行者とインバウンドの割合では、ほとんどの施設で日本人の比率が90%以上を占めていますが、外宮エリアや食事施設ではインバウンド比率がやや高い傾向にあります。一方で日本人旅行者の主な居住地は、ほぼすべての施設で東海と関西が挙げられましたが、宿泊業においては関東からの来客も多く見られました。

顧客の性別・年代については、土産物店や食事施設では女性がやや多く、宿泊業（特にビジネスホテル）や交通事業者では男性がやや多い傾向が見されました。年代別では、全体的に10代以下と20代が少ない傾向にあり、中高年がメイン層となっています。特にインバウンドでは年代が高いとの意見がありましたが、二見エリアや一部の食事施設では10代以下、20～40代、ファミリー層も多いと回答しています。

繁忙期や前後の立ち寄り先としては、来客が多い季節は春や秋との回答が多かったものの、外宮・内宮エリアでは冬、二見エリアでは夏が多いという特徴も指摘されました。年末年始やGWなどの連休が繁忙期である一方、年間を通じて安定した来客がある施設も存在します。曜日別では土日が多いですが、外宮・河崎エリアでは金曜日も来客が多く、内宮エリアは日曜日により多くの来客があることが示唆されました。時間帯は全体的に14時前後がピークですが、内宮エリアは比較的遅い時間に訪れる人が多い傾向です。顧客の周遊行動としては、伊勢市内では外宮、内宮、二見を訪れるケースが多く、市外では鳥羽・志摩への立ち寄りが一般的です。

ウ. インバウンドへの対応と今後の取組意向

インバウンドへの対応としては、メニュー表や案内表示の多言語対応、翻訳機・翻訳アプリの活用が広く行われています。一部ではSNSでの情報発信、宿泊施設での外国人材採用、海外旅行博への出展や海外旅行会社へのセールスといった積極的な取り組みも見られます。今後取り組みたい内容は「特になし」という回答もありましたが、SNS対応の強化、海外OTA⁵や海外エージェントとの連携強化、情報発信を検討する施設が多く見られます。インバウンド向けメニュー開発などを検討する事業者もいます。ターゲット国・地域としては、台湾を中心とするアジア圏を想定している施設が多いですが、具体的なターゲットは設定せず、歴史・文化への関心が高い層を狙う意見も見られました。

エ. 地域・事業者としての強みと課題

地域全体の強みとしては、神宮の存在そのものに加え、神宮に関連する歴史文化、豊かな自然環境、食の豊かさ、大都市からのアクセス性が挙げられています。年間を通じて安定した来客があることや、「まだインバウンド客が少なく、日本人が観光しやすい」ことを強みと捉える意見もありました。

地域全体の課題として最も多く指摘されたのは、二次交通の弱さとそれに伴う駐車場不足、交通渋滞です。「車がないと不便」「内宮の駐車場が少なく渋滞するため日帰りの観光客は他の施設に行く時間が無くなる」といった具体的な意見が挙がっています。また、宿泊施設の不足、ナイトコンテンツの乏しさによる滞在時間の短さ、夜間営業の飲食店やタクシーの不足も大きな課題です。周辺自治体や公共交通機関との連携不足、神宮の理解を深めるための多言語対応の不足も指摘されています。地域住民を含む一体的な観光振興の不足も課題として挙げられました。

一方で事業者個別の課題としては、人材不足、物価高騰が最も多く挙げられています。これに加え、多言語対応、観光客のニーズに対応した商品開発、設備投資、組織マネジメント、繁閑期の収益差なども課題と認識されています。「案内看板、ウェブサイトなどの情報提供が日本語中心であり、英語や他の言語での情報が不足している」といった具体的な意見もありました。またその他の課題として、観光繁忙期の交通渋滞などに代表される「オーバーツーリズムの懸念、観光客のマナー悪化、気候変動による食資源（伊勢海老、鮑など）への影響を心配する声も聞かれました。

オ. 今後の方向性、必要な支援、行政への期待

各事業者の今後の方向性としては、インバウンドを中心とした顧客獲得や認知度向上を目指すとともに、自施設の独自性を打ち出し、これまでの事業継承をベースにエリア活性化や二次交通課題解決への取り組みを検討しています。事業者からは、海外に向けた魅力あるプロモーション、旅行会社や他事業者とのマッチング機会の提供、人材確保・育成サポート、業務効率化のアドバイスなどが求められています。観光客数の増加に伴うマナー問題への懸念から、「観光地でのマナーアップ」を全国規模で推進する支援を求める声もありました。

行政に対しては、インバウンド誘致に向けたプロモーションの強化、多言語対応を含むハード整備のための補助金拡充、中心市街地の活性化、公共交通機関の改善と利用促進が強く期待されています。特に、観光繁忙期の交通渋滞や規制による市民への影響を考慮した「オーバーツーリズム対策」の早急な取り組みが求められており、地域全体での公共交通のあり方についての理解促進と財政的支援も要望されています。また、伊勢神宮の歴史・文化をストーリーテリングできる人材育成支援も期待されています。

⁵ Online Travel Agent の略で、インターネット上のみで取引を行う旅行会社のことです。一般に店頭での営業を行っている旅行会社のオンライン販売は OTA とは呼びません。近年では特に個人旅行において OTA での取引が増えており、インバウンド誘致にあたっても OTA での販売は有効な手段の 1 つとなります。

②周辺自治体観光協会アンケート

i) 調査概要

調査対象：本市周辺自治体の観光協会

調査期間：2025年10月～2025年11月

サンプル数：2件

ii) 調査結果

ア. ターゲットとインバウンド戦略

ターゲット国・地域としては、台湾、香港、タイ、シンガポールといったアジア圏に加え、フランスも挙げられています。インバウンド誘致への対応として、現在は海外旅行会社への直接セールス（トップセールス含む）、旅行博への出展、ファムトリップの実施、SNSを活用した情報発信、宿泊費助成（連泊等の条件付き）、そして伊勢志摩観光コンベンション機構を中心とした広域連携事業が展開されています。今後は、SNSや旅行博への継続的な取り組みに加え、官民連携によるセールス、プロモーション、受け入れ環境整備を強化していく方針です。

イ. 地域の強みと課題

地域全体の強みとしては、「食の豊かさ」が筆頭に挙げられています。また、雨の日でも楽しめるスポットがある「全天候型」の地域であること、熟年層からカップル、ファミリーまで「幅広い客層に対応できる」多様性も特徴です。伊勢神宮だけでなく、さまざまな観光施設、国立公園としての豊かな自然、新鮮な食材、そして日本を代表するような多様な宿泊施設が集積している点も大きな強みと認識されています。一方で、弱みとしては、地域資源が豊富すぎるがゆえに、海外マーケットに対し「的を射たプロモーションができていない」点が指摘されています。また、地域内の観光施設間の連携不足や、二次交通の案内整理不足が「周遊性の低さ」につながっていることも課題です。

また、個別の事業者からは、インバウンドにおける「宿泊の弱さ」や「人員不足による稼働率の低下」が挙げられています。地域全体としては、情報発信の強化が求められています。中部・関西からの日帰り客が多く、「宿泊客が伸び悩んでいる」現状があり、高い集客力を持つ伊勢神宮の参拝客を自地域まで取り込めていない（自地域の資源のポテンシャルを生かしていない）という認識があります。観光地を結ぶ二次交通の不足は、観光周遊性の向上と観光消費額の増加を阻害しています。さらに、コロナ禍以降、教育旅行や一般団体旅行客の減少も課題です。インバウンド誘客においては、明確なターゲットに対するプロモーションが不足しているとの指摘もあります。その他、二次交通の整備不足とキャッシュレス決済の遅れも課題として挙げられています。

ウ. 今後の方向性と行政への期待

今後の地域全体の事業方向性としては、アジア圏を主軸に「食」を全面的に打ち出したプロモーションを展開し、誘客、周遊促進、団体誘致、インバウンド誘致を強化していく考えです。必要な支援としては、「人材の確保や育成」が喫緊の課題として挙げられています。行政に対しては、海外セールスや宿泊施設の洋室化への補助金、既存の補助金事業の継続実施や拡充、そしてインバウンド対応や誘客に関する事業者向けセミナーの実施が強く期待されています。

(5) 観光市民アンケート・事業提案アンケート

市民の皆さまの観光に関する意識や市の観光政策・施策の方向性を検討する基礎資料として活用するため、また、さまざまな視点から本市が今後実施していくべき事業を検討するために、観光市民アンケートと事業提案アンケートを実施しました。

①観光市民アンケート

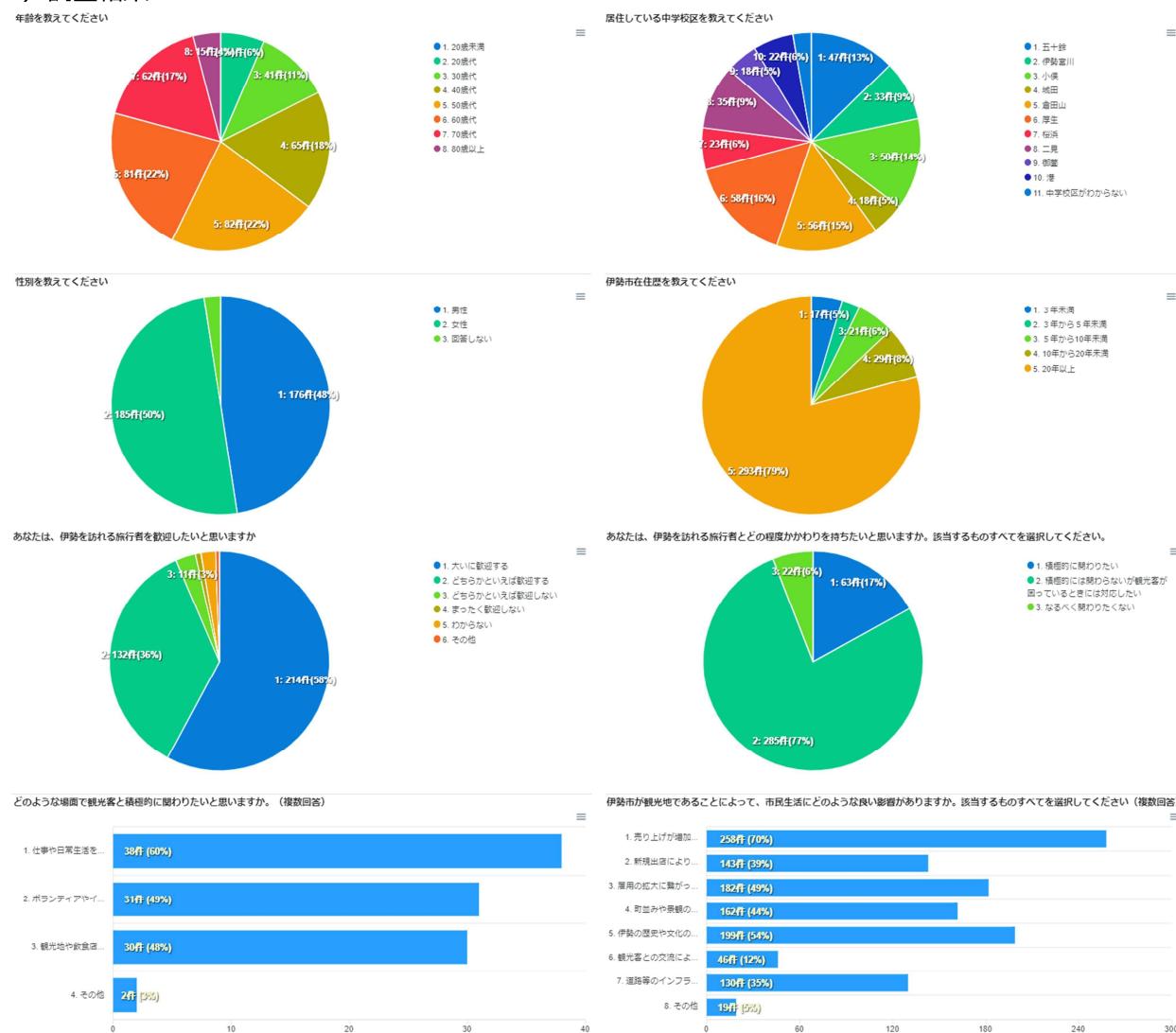
i) 調査概要

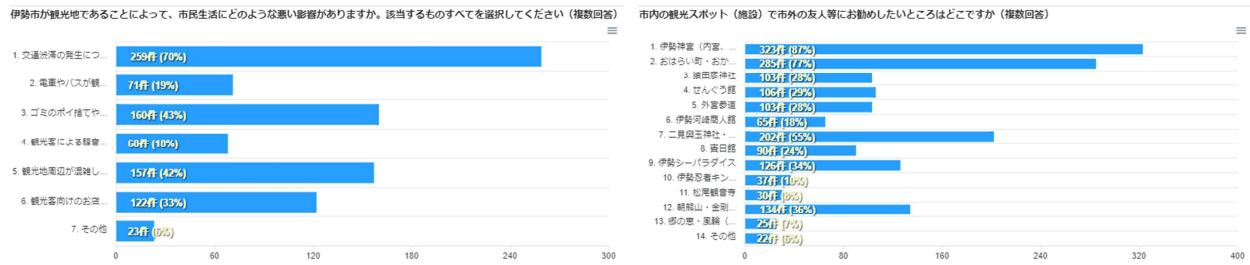
調査対象：本市在住の市民

調査期間：2025年10月31日17時まで

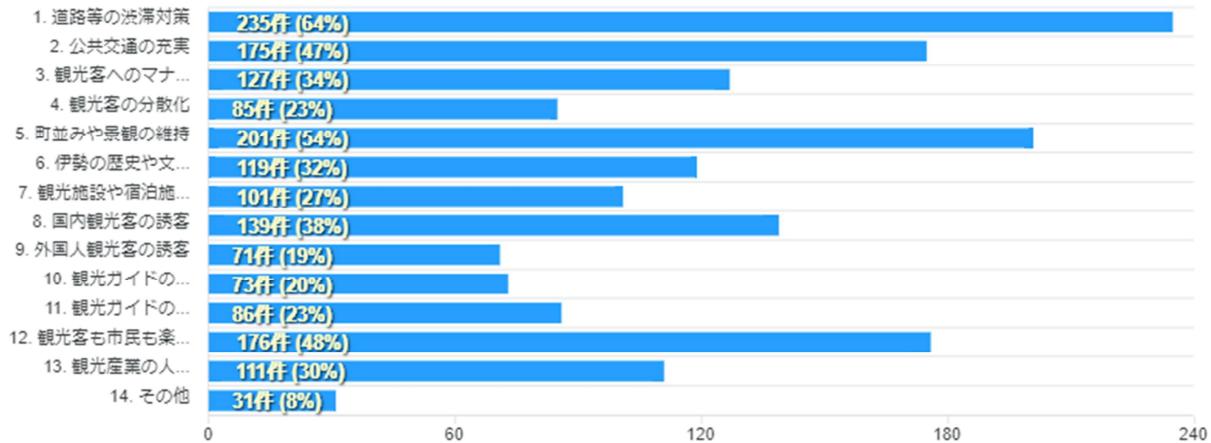
サンプル数：370件

ii) 調査結果

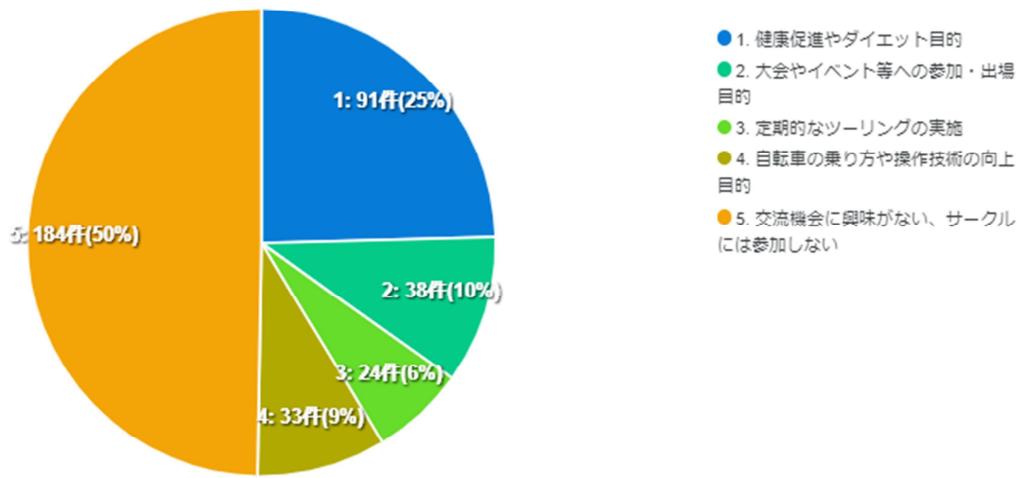




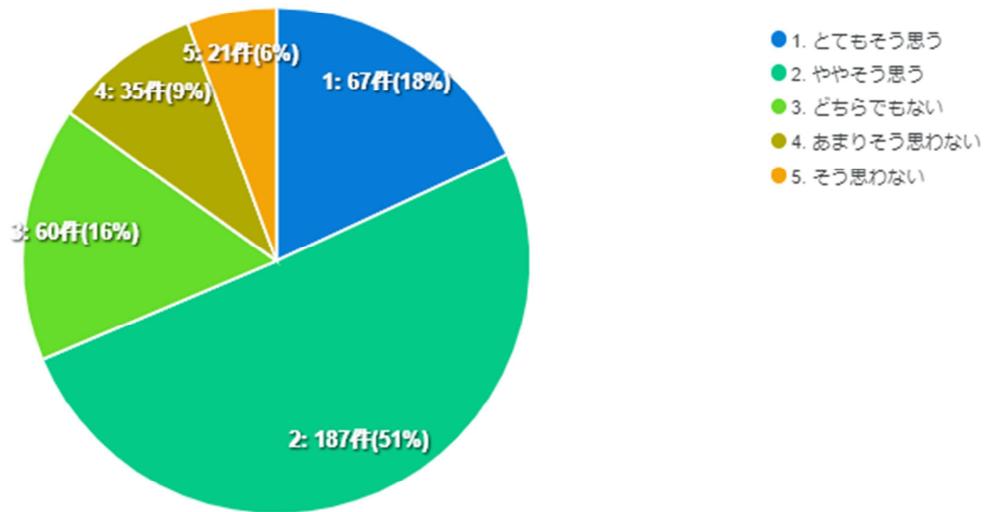
今後伊勢市で実施して欲しい（した方が良い）観光施策をすべて選択してください（複数選択）



サイクリングに関してどのような交流機会、サークルがあれば参加したいですか



伊勢市は市民生活と観光が調和した「住んで良し、訪れて良し」のまちであると思いますか



iii) 計画案検討における主だった意見

- 市民による観光客のおもてなしについて
 - ・ 伊勢市民として、観光客が来て当たり前という意識でいるのではなく、旅行先に伊勢を選んでくれた全ての一人一人に感謝の気持ちを持って迎え入れられる町になってほしいと心から思う
 - ・ 住民と観光客の間には垣根を感じる。解消法の一つに相互コミュニケーションがあるが、伊勢神宮のようなメジャー「観光地」の観光客の大半は住民に興味がない。市民生活との調和を目指すのであれば課題の一つだろう。
- 伝統・文化の継承について
 - ・ これまで、遷宮にあわせ伊勢のまちづくりがされてきました。次回遷宮に向けて、どのように全国からの参拝者をお迎えしていくのかを議論し、そのために必要な街づくりを計画、実行する必要があると思われる。
 - ・ 伊勢市の伝統と文化は是非継続してもらいたいです。私の住んでいる町でも会式は未だに開催されて盛り上がって楽しいです。他の町が無くなっていくのは寂しいです。
- 宿泊施設、ナイトタイムコンテンツについて
 - ・ 人気スポットの営業が午後5時に終了するなど、全くやる気が感じられない。観光客が夕食後やナイトタイムを楽しめる企画がなく時間を持て余す状況を改善する気もない。
 - ・ 素泊まりのホテルが増え、夕食を外でとる観光客の増加に夕食前の17時～18時くらいに時間がつぶせる場所があるとよい。夏場の明るい時間に外宮参道で夕食まで行くところがなく困っている観光客の声をよく聞いた。
 - ・ 式年遷宮に向けて、ホテルの建設も行われるようですが。宿泊する観光客が夜楽しめる場所がない。神宮の参拝時間を遅くする、外宮周辺で夜の飲食店を増やす、おはらい町の閉店時刻を遅くする等、対策が必要。

- 神宮以外の魅力の発信について
 - ・ 観光にとって最も楽しみの 1 つ。魚介類や蓮台寺柿等の特産品もアピールしてほしい。
 - ・ 市民の SNS 発信を活用した観光の情報の拡散の積み重ねで伊勢に興味を持つもらうキメ細かな取り組みが不足していると思う
 - ・ 歴史しかない町、神宮しかない町にならないように、6 次産業化や周遊性の向上を進めて、多様な体験ができる町になってほしい
- オーバーツーリズムへの懸念
 - ・ インバウンドへの投資より市民生活のみに投資が必要と感じる。市民生活に寄り添う計画が全く成されていない。
 - ・ 市民が正常な生活ができなければ観光地があっても受け皿となる人手が無いのは本末転倒である。
 - ・ 観光事業の活性化は良いことだと思いますが、伊勢市及び市民に適切に還元されるように進めていただきたいです。
 - ・ 伊勢市は昔からおもてなしの精神で観光客のみなさんを受け入れてきた。その一方で慢性的な渋滞により内宮周辺に住む地域住民には我慢を強いてきたところである。渋滞対策や駐車場対策は喫緊の課題と思う。

②事業提案アンケート

i) 調査概要

調査対象：本市在住の市民

調査期間：2025 年 10 月 31 日 17 時まで

サンプル数：27 件

ii) 調査結果

● 神宮式年遷宮や伝統行事の活用と深化について

伊勢の観光の核である神宮式年遷宮や地域に根差した伝統行事について、単に観光客が「見る」だけでなく、より深く「参加し、体験する」ことで、伊勢への愛着や理解を深めてもらう機会を創出すべきだという意見が多く寄せられました。これにより、観光客が伊勢の歴史や文化に触れ、長期的な関係人口へつながる可能性が期待されています。

(代表的な意見)

- ・ ご遷宮を見る観光ではなく、長期にわたり踊りを練習、ゴールとして、御木曳、お白石持ち行事に踊りで参加できる機会・環境を提供。
- ・ 伊勢ならではの行事（お祭り・式年遷宮のご奉仕）へのご参加を国内外に募り、伊勢歴史と在り方に触れて頂き、伊勢に来て、見て、体験して、伊勢を好きになってもらい、これからの中伊勢、未来へ続く常若伊勢へと繋げてゆきたい。

●まちづくり・地域活性化（中心市街地、周遊性、魅力創出）について

伊勢神宮周辺の観光客集中と、それ以外の市街地、特に駅周辺の魅力不足が指摘される中で、伊勢市全体としての滞在型観光を促進し、観光客の回遊性を高めるための具体的なまちづくりに関する提案が多数寄せられました。単なる通過点ではなく、訪れる人々がまち全体を楽しみ、繰り返し訪れたくなるような魅力的な空間を創出することを目指しています。

（代表的な意見）

- ・ 伊勢市駅前から外宮までの大通りにおしゃれなカフェや、レストラン、チョコレート専門店、アパレルショップ、ブランドショップ等、今のトレンドに合わせた店を道の両側に作って、人が駅から楽しみながらまっすぐ歩いて外宮に向かう。イメージ的にシャンゼリゼ通りの日本版。
- ・ 宇治山田駅前を（中略）市民と観光客が滞留できるようなスペースにしましょう。（中略）例えばですが、公園広場にした上で休憩ができるような場所も作り、一角には沢村投手や野口みずきさんを紹介するような写真パネルを作るもよし、実物のお木曳の台車を展示するもよし、市民から本の寄付を募って無料の図書コーナーを作ってもよいと思います。週末にはフリーマーケットやキッチンカーイベントを開いたり、ストリートバンドのミニライブを開くなどもいいと思います。
- ・ 内宮周辺以外への観光客の分散化と伊勢市産の農産物等のアピールと販売を目的とし、新しい道の駅の開業を目指してほしい。（中略）多気町の vision のようなインパクトのある施設になれば、観光客の増加も見込めるでは？
- ・ 伊勢市駅前ビル 1 階のモデルハウスが終わったら、レンタルスペースにして、期間限定のチャレンジショップ（カフェの新規開拓）や、イベント会場に利用できるようにする。

●交通アクセスについて

伊勢市における交通渋滞の問題や、公共交通機関の利便性の低さが観光客の周遊性を妨げているという認識から、交通インフラの抜本的な改善を求める声が多く聞かれました。既存の交通手段の改善だけでなく、新たな交通システムの導入や、より広域からのアクセス向上を目指す具体的な提案がなされています。

（代表的な意見）

- ・ 以前走っていた路面電車のようなバス以外の交通機関（たとえばモノレール）を新設する。伊勢市駅の敷地を開発して JR の操車場の敷地にビルを建てて、公的機関を集約する。南勢バイパスと市内を踏切を通らなくてもよい道路を街中に新設する。または鉄道の高架化を再検討する。
- ・ バス料金が高い。伊勢市駅、外宮、内宮、循環で安くする。
- ・ 川舟での移動。浦田から内宮。河崎から内宮。タンデム自転車の特区
- ・ 大阪や名古屋からの高速バスで、観光客に来てもらう。普段から近鉄や JR しかない地元民と違い、国内の他の地域から来られる観光客や、海外からの観光客にとって、初めて行く場所の電車やバスに乗るのは難しいと思う（特急券や乗り場の移動なども含めて）ので、直通で伊勢に来れるバスを運行する。セントレアや関空など空港からが無理ならば、名古屋駅や、難波（上本町）から。1 日に何本もなくても、とりあえず行き帰り一本ずつでも良い。指定席ではなくてもいいので、予約制が良い。電車ではないので、渋滞なども考えると繁忙期は難しいかもしれないが、観光客だけではなく、伊勢市周辺に住む人の移動手段としても使えるので、とても便利だと思う。

●インバウンド誘致について

伊勢市が他の主要観光地に比べて外国人観光客（インバウンド）の誘致において遅れをとっているという現状認識に基づき、伊勢の持つ独特の魅力や神宮の深い歴史・文化を、いかに効果的に国内外に発信していくかに関する具体的な提案が多数寄せられました。多言語対応の強化や、観光客の心に響くような情報提供の工夫が求められています。一方で市としてインバウンド誘致に注力することを疑問視する意見もありました。

（代表的な意見）

- 神宮の敷地内は日本語でも解説がごく僅かで、日本人でさえも説明を聞くまでは理解できない事も多々あります。
（中略）解決のために、駅や案内所等で数か国語の説明パンフレットを配布して頂く事を提案します。それを見ながら神宮を周れば、神宮の歴史を通して文化や伝統、それを受け継ぎ守ってきた日本人の精神世界の理解につながり、伊勢に来てよかったです、日本の事をより深く理解できた、帰国して家族や友人にもその魅力を伝えよう、と思ってもらえると思います
- 百年以上観光地のネームバリューがあり築き上げた「伊勢」という観光地の中でわざわざインバウンドや観光への投資は不要（中略）。伊勢市が観光地への直接投資をするのではなく、生活インフラを整備するだけで空き地などの投資は勝手に民間が考えると思う。

●宿泊施設や体験コンテンツの拡充・多様化について

伊勢市が日帰り観光客に偏りがちな現状を打破し、より長期滞在を促すためには、宿泊施設や体験コンテンツの拡充と多様化が不可欠であるという意見が多く見られました。既存の宿泊施設に加え、新たなコンセプトのホテル誘致や、地域資源を活用したユニークなコンテンツの提供を通じて、観光客の満足度向上と地域経済への貢献を目指しています。

（代表的な意見）

- 伊勢にある古市街道も昔の街道の一つですが、現在はその面影はほぼ無くただの生活道路になってしまっています。（中略）例えば片側1車線（一方通行）の道路にしてその分歩道を広く取り、案内板をもっと充実させて、天気のいい日には観光客が外宮から内宮まで歩いて昔の気分を味わう、そんな道にできないものでしょうか。
- 分散型ホテルの拡大（商店街の活用）
- リゾート展開する宿泊施設誘致
- キングダムとの協力による、二見旅館街を取り入れた江戸時代体験（修学旅行生や海外の旅行客などに、街全体を江戸・戦国時代にした二見を体験宿泊してもらい、日本の昔を体感してもらうもの）
- 二見町の夫婦岩や海水浴場近辺も、昔は多数の旅行者や修学旅行で賑わっていたが、今は全くと言ってよいほど人がいません。少し前、ネットゲームのお陰で、人が増えましたが、その様なイベントをメーカーとコラボする事を検討してみては。

● その他の意見

- ・ 「また伊勢に会いにくる」をテーマに、滞在型観光の促進と地域回遊の仕組みをつくります。まず、「伊勢と言えばこのキャラクター！」と言われるようなシンボルキャラクター創出します。（中略）季節ごとの街並みの演出、香り・シンボルキャラクターを使った名産品とのコラボ展開を行い、訪れるたびに異なる“伊勢の顔”と出会える仕掛けをつくります。このキャラクターをハブにして、観光・宿泊・地域産業が連動することで、「一度では語り尽くせない伊勢」を体感できる持続的な観光モデルを実現します。
- ・ 勢田川の水質を改善しましょう。吹上ポンプ場から日によっては黄土色、茶色、銀紫色、その他形容できないような汚い水が流されており、潮の満引きによっては小田橋あたりまで逆流し、酷い悪臭を放つ時もあります。（中略）最近では河崎に高級ホテル（旅館）も開業したようで、国内外から宿泊客が訪れているはずですが、伊勢の汚い部分を見せているようで、市民として非常に悔しい思いです。
- ・ 伊勢神宮を中心とした、完成されたメジャーな観光は従来通り推進の必要はあるが、近年の価値観の多様化を受け、マイナーな観光も推進した方が良い。（中略）マイナー志向の観光客は少数であると推測されるが、（メジャーな観光客が完成された価値を消費するのと違い）観光客自身が価値を見出すその能動性によって、より深く町と関わることとなる。関係人口を産み出す可能性が高く、その関係人口はメジャーな観光にも繋がる好循環が期待できる。
- ・ 太平洋岸自転車道の利用を推進する（ツールドジャパン）
- ・ 伊勢市駅で待つ所が無い。駅構内にカフェ（パン屋とか）を作りたい。唯一の参道カフェは10:00オープンで其れ迄用事で行き待っている場所がない
- ・ 外宮勾玉池の有効活用。例えば季節の花をもっと沢山植える。周囲を散策出来る様にする。

(6) 課題のまとめ

これまでの調査をもとに、本市をめぐる内部環境でのプラス要因（強み）とマイナス要因（弱み）、および外部環境でのプラス要因（機械）とマイナス要因（脅威）を、以下のフレームワークに従って分類しました。

【強み】 <ul style="list-style-type: none">・ 伊勢神宮の存在、伊勢神宮に付隨する歴史・文化<ul style="list-style-type: none">- 内宮外宮を中心に年間数百万人が訪れる、日本屈指の観光地。- 令和 6（2024）年には外国人参拝者数が 110,439 人と、コロナ前（令和元（2019）年）より増。- 通年で安定したインバウンドの来訪がある。・ 伊勢のおもてなし文化<ul style="list-style-type: none">- 観光客の満足度は非常に高く、再訪意向も強い。- 特に「景観・雰囲気」「おもてなし」「飲食施設」に高評価が集まっている。・ 多様な観光地と名産品<ul style="list-style-type: none">- おかげ横丁、夫婦岩、伊勢河崎商人館など、歴史・文化・自然が融合した観光地が点在。・ 物語性でつなぐことのできる地域<ul style="list-style-type: none">- 神宮を中心に古くから受け継がれてきた本市独自の精神性をもとにしたストーリー構築ができる。・ 繙続的なリピーターの獲得に成功<ul style="list-style-type: none">- 本市を訪れる観光客の大部分がリピーター。10回以上本市を訪れる人も多い。	【弱み】 <ul style="list-style-type: none">・ 宿泊施設の課題と滞在時間の少なさ<ul style="list-style-type: none">- 宿泊施設が近隣市町に比べて少なく、宿泊者は鳥羽市や志摩市に流れしており、夜の賑わいが少ない- 市内宿泊者の平均宿泊数は 1.25 泊と短く、滞在型観光への課題あり。- ラグジュアリー施設やインバウンド対応に遅れ。・ 交通の利便性<ul style="list-style-type: none">- 交通と情報案内の満足度が低い。近年は改善傾向。- バリアフリー対応や案内板の充実も求められている。- 内宮、外宮、二見以外への周遊が少ない・ 情報発信力の不足<ul style="list-style-type: none">- 訪日外国人向けの情報発信に課題が残る。インバウンドにおける認知度が低い。・ 季節波動<ul style="list-style-type: none">- 年末年始等特定の時期に観光客が集中し、駐車場の不足や交通渋滞などが生じている。・ 観光消費額が全国平均を下回る・ 観光人材が不足	【機会】 <ul style="list-style-type: none">・ 第 63 回神宮式年遷宮関連行事に向けた盛り上がり<ul style="list-style-type: none">- 令和 15（2033）年に式年遷宮を控えており、観光客数の増加が見込まれる。・ インバウンド観光の拡大<ul style="list-style-type: none">- 訪日インバウンドの急増により、外国人向けの体験型観光やガイドツアーの需要が高まっている。- 駅観光案内で JNTO 認定観光案内所カゴリー II 取得、市内 4か所に遠隔案内機設置など、英語対応を強化中。・ 地域連携による広域観光<ul style="list-style-type: none">- 伊勢志摩、熊野、関西等との連携で、周遊型観光の促進が可能。・ 観光庁 高付加価値旅行者の誘客に向けて集中的な支援等を行う「モデル観光地 11 地域」として、伊勢志摩及び周辺エリアが選定。	【脅威】 <ul style="list-style-type: none">・ 人口減少と高齢化<ul style="list-style-type: none">- 国内観光需要の減少が長期的な課題。- 若年層の旅行スタイルの変化に対応する必要あり。- 今後、さらに観光産業を支える人材の不足が顕著となり、安定的な経営が困難に。・ 自然災害・感染症・経済のリスク<ul style="list-style-type: none">- 地震や台風などの災害リスクが観光業に大きな影響を与える可能性。- 物価・人件費などの高騰による経営環境の悪化・ 競合地域との比較<ul style="list-style-type: none">- 京都・奈良など、歴史文化を持つ地域との競争が激化。特にインバウンド客の奪い合いが予想される。・ 持続可能な観光への対応<ul style="list-style-type: none">- 観光客のマナーをめぐる地域住民との軋轢の懸念- 観光振興への地域住民の理解・連携が不足している
---	--	--	---

上記の分類をもとに、今後の本市が採用すべき戦略は、以下の通りです。

【強み×機会 攻めの戦略】 <ul style="list-style-type: none">・ 神宮式年遷宮を契機とした誘客・ 地域の物語性とおもてなし文化を生かし、広域連携による滞在型観光を促進（伊勢志摩地域等との連携）・ 伊勢神宮や観光施設などの資源を生かし、インバウンド向け体験型観光を強化	【弱み×機会 改善・改革戦略】 <ul style="list-style-type: none">・ 宿泊施設の不足を補うため、観光客の多様なニーズへの対応や多様な施設の誘致・整備・ 情報発信力の強化（SNS・観光ウェブサイト・AIチャット）によりインバウンドへの訴求力を向上し、市内周遊を促進・ 交通案内・バリアフリー対応を進め、観光満足度を底上げ
【強み×脅威 防衛戦略】 <ul style="list-style-type: none">・ 伊勢神宮のブランド力を生かし、競合地域との差別化・ 地元の物語性と文化を生かした持続可能な観光モデルの構築・ 地域住民との協働による災害時対応力の強化（観光と防災の融合）	【弱み×脅威 回避戦略】 <ul style="list-style-type: none">・ 観光人材の育成・確保を急務としつつ、観光産業の持続的な発展に向けた、観光振興に対する地域住民の理解促進や、学校教育での郷土愛の醸成などの長期的な取り組み・ 季節波動への対応として、閑散期のイベントやキャンペーンの企画・ 高齢化に対応したユニバーサルツーリズムの推進・ 新たな財源の検討

第4章 伊勢市観光が目指す姿

1 伊勢市の観光における大切にしたい考え方

(1) 基本理念

伊勢市は、古くから「日本人の心のふるさと」と呼び親しまれてきた神宮がご鎮座する観光都市であり、豊かな自然に恵まれ、伝統と文化を継承し続けてきた歴史あるまちです。この地で育まれてきた、常に若々しく新しくあることを意味する「常若の精神⁶」は、持続可能な社会の実現を目指す SDGs の考え方にも通じるものであり、伊勢市の観光振興において最も大切にすべき価値観の一つです。

本計画では、以下の 5 つの基本理念を掲げ、伊勢市の観光振興を推進します。

① 常若の精神の継承と発信

神宮が 20 年に一度の式年遷宮を通じて古くから培ってきた「常若の精神」は循環型の文化として伊勢市の市民生活に息づいています。「常若の精神」は、単に伝統を守るだけでなく、常に新しく若々しくあることを願い、古いものや伝統を大切にしながらも、未来へつなげていく、SDGs の考え方にも通じる普遍的な価値を持っています。その精神を市民一人ひとりが大切にし、将来の世代に継承し、国内外に発信していきます。

② 地域一体となった観光地経営

観光振興は、特定の事業者や行政機関のみが担うものではなく、地域全体の未来を形作る「まちづくり」そのものです。伊勢市が持続的に発展する観光地であるためには、市民、観光事業者、行政、各種団体など、多様な主体が共通の目標を掲げ、一体となって観光地を「経営」していく視点が不可欠です。地域に暮らす人々が「自分たちのまち」を誇りに思い、来訪者をもてなす心を育むとともに、観光が地域経済に貢献し、住民の生活の質向上につながるような仕組みを構築し、地域全体で観光振興に取り組むことで、伊勢市の持続可能な発展を追求します。

③ 観光消費額の増加と地域経済の活性化

観光は本市の経済をけん引する重要な産業の 1 つであり、観光振興は地域全体の活性化にも直結します。観光消費額の増加は、宿泊業や飲食業、小売業などの観光産業に直結する産業だけでなく、農業、漁業、製造業、運送業など幅広い産業に波及効果をもたらします。観光客の滞在時間延伸や周遊促進を通じて消費額の増加を図り、観光産業だけでなく、関連するあらゆる産業の活性化と雇用創出に貢献します。

④ 住む人も訪れる人も安全・安心・快適に過ごせるまち

伊勢市が国内外から選ばれ続ける観光地であるためには、住民と来訪者双方にとって、安全で安心、そして快適に過ごせる環境を整備することが不可欠です。また、高齢者や障がい者、外国人など、多様な背景を持つ人々が安心して快適に移動し、観光を楽しめるよう、バリアフリー環境の整備や多言語対応などを推進します。多様なニーズに対応できるユニバーサルな環境整備や、災害・感染症などあらゆる危機に対応できる体制を構築し、市民と観光客双方にとって安全・安心・快適なまちを実現します。

⁶ 伊勢の地で 20 年に一度繰り返される遷宮は、古（いにしえ）と今と未来がつながる神宮の行事です。そこには、古いものや伝統を大切にしながら、常に若々しく生き、その精神を子孫へ伝えたいと願う人々の思いが重なっています。

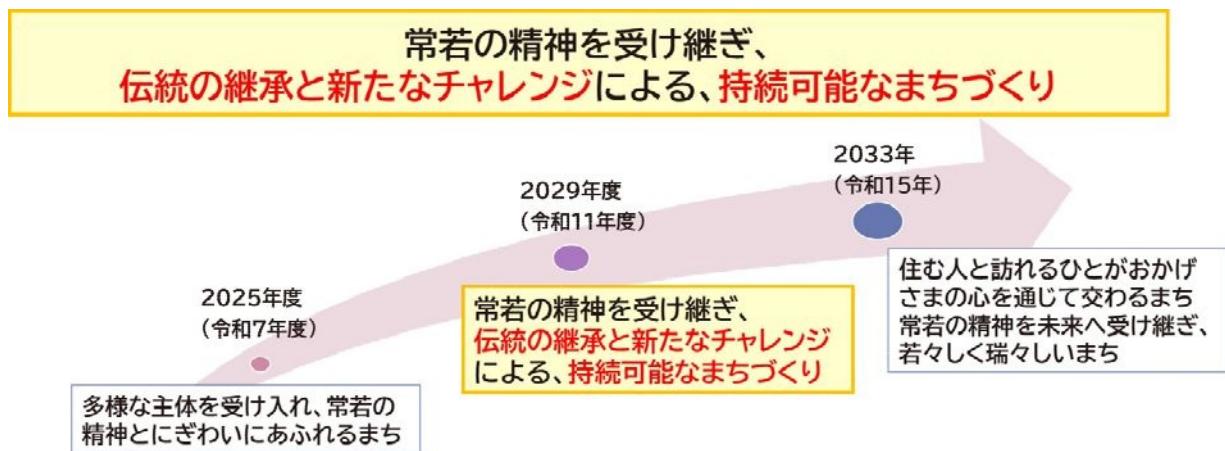
⑤ 観光の価値を高め、何度も訪れたくなるまち

本市は、神宮をはじめとする豊かな歴史、文化、自然といった地域資源に恵まれています。これらの既存の魅力を深く掘り起こし、磨き上げるだけでなく、常に新しい価値を創造し、何度も足を運びたくなるようなまちを目指して、本市やその周辺の多様な地域資源を活用した魅力的なコンテンツ開発を促進します。伊勢市ならではの地域資源を磨き上げ、新たな魅力や体験価値を創出することで、観光客に「また訪れたい」と感じてもらえるまちを目指します。

(2) 伊勢市のありたい姿

本計画では、第 63 回神宮式年遷宮の年である令和 15（2033）年度の伊勢市が目指すべき「ありたい姿」を、「住む人と訪れるひとがおかげさまの心を通じて交わるまち 常若の精神を未来へ受け継ぎ、若々しく瑞々しいまち」と定めます。この長期目標の実現に向け、本計画の最終年度である令和 11（2029）年度には、「常若の精神を受け継ぎ、伝統の継承と新たなチャレンジによる、持続可能なまちづくり」を目指します。

このありたい姿には、神宮を中心に発展してきた本市が、これまで大切にしてきた精神性を受け継ぎつつも、大きく変化する世の中にあわせて変化を恐れずにチャレンジすることで、将来にわたって市民や観光客の期待やニーズに応え続けるまちでありたいとの願いを込めています。



2 計画の全体目標（KGI 指標）

令和 11（2029）年度の「ありたい姿」の実現に向け、本計画の進捗状況を測るための主要な目標指標（KGI : Key Goal Indicator）を以下の通り設定します。

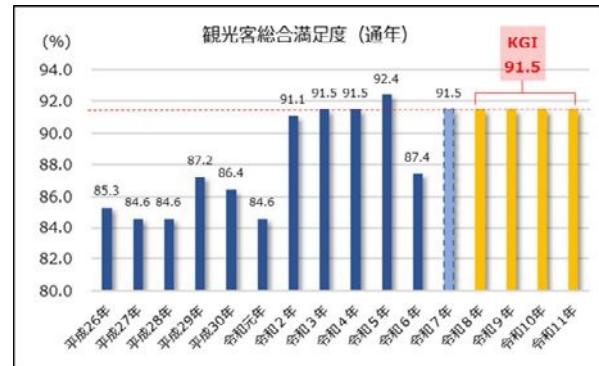
(1) 観光客総合満足度

現状値 令和 7（2025）年 ※暫定	目標値 令和 11（2029）年
91.5%	91.5%

目標：地域一体的な取り組みによって、高水準の観光客満足度（91.5%）を維持する（※前計画の目標水準を維持）

DATA：伊勢市観光客実態調査

選定理由：伊勢市が持続可能なまちとなる上で、「地域一体となった観光地経営」を推進し、伊勢市全体で観光客に満足いただくことが重要であるため、観光客総合満足度を採用します。コロナ禍以降、伊勢市の観光客満足度は高い水準で推移しているため、伊勢の文化や景観、食など、いつ来ても発見がある町として、高い水準の満足度を維持することを目指します。



※令和7年は、計画値もしくはトレンドから推計される暫定値を表示している

(2) 観光消費額

現状値 令和 7（2025）年 ※暫定	目標値 令和 11（2029）年
680 億円	870 億円

目標：誘客×単価アップによって、令和 11 年（2029）までに、190 億円の増加を目指す

DATA：伊勢市観光客実態調査

選定理由：観光はすそ野が広い産業であり、観光客が増え市内での消費額も増えることで、市内の幅広い産業に好影響をもたらします。市内の産業への影響の大きさを端的に表す指標として観光消費額を採用します。国内外来訪者の観光消費額を高め、将来的にはインバウンドにも波及させていくことを目指します。



※令和7年は、計画値もしくはトレンドから推計される暫定値を表示している

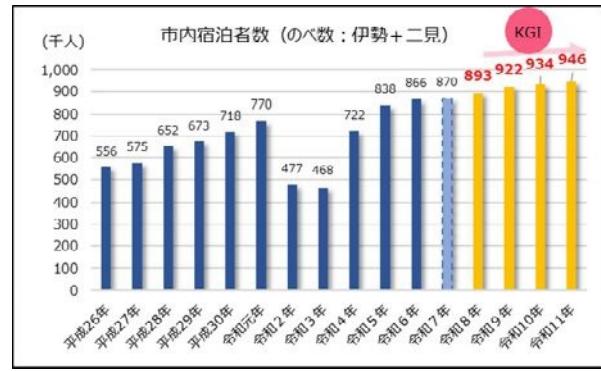
(3) 市内宿泊者数

現状値 令和7（2025）年 ※暫定	目標値 令和11（2029）年
870千人	946千人

目標：「お木曳」の話題性と好調なインバウンドを背景に、宿泊客を獲得。年間延べ946千人を目指す

DATA：伊勢市観光統計

選定理由：前項の観光消費額の増加に向けては、観光客数を増やすことと1人あたりの観光消費額を増やすとの2通りのアプローチが考えられます。オーバーツーリズム等の問題に配慮し、持続可能な観光地域づくりをしていくうえでは、後者の1人あたりの観光消費額の増加が望ましいです。そこで一般に日帰り客よりも消費単価が高い市内宿泊客の増加に向けた指標として、市内宿泊者数を継続して採用します。宿泊者数を把握する際は、インバウンドの宿泊者数も併せて把握します。宿泊が増え立ち寄りスポットが多くなることで、市内の産業振興だけでなく、まちのにぎわい創出にもつなげていきます。



※令和7年は、計画値もしくはトレンドから推計される暫定値を表示している

いきうえでは、後者の1人あたりの観光消費額の増加が望ましいです。そこで一般に日帰り客よりも消費単価が高い市内宿泊客の増加に向けた指標として、市内宿泊者数を継続して採用します。宿泊者数を把握する際は、インバウンドの宿泊者数も併せて把握します。宿泊が増え立ち寄りスポットが多くなることで、市内の産業振興だけでなく、まちのにぎわい創出にもつなげていきます。

第5章 伊勢市の観光施策

1 基本方針と具体的事業着目点

本計画で定める令和11（2029）年度の「ありたい姿」を実現するため、以下の7つの基本方針に基づき、具体的な施策を展開します。

基本理念	ありたい姿	基本方針・具体的方針・KPI
①常若の精神の継承と理解・発信	【次期式年遷宮（2033年）におけるありたい姿】 住む人と訪れるひとがおかげさまの心を通じて交わるまち 常若の精神を未来へ受け継ぎ、若々しく瑞々しいまち	①神宮式年遷宮を契機とする「伊勢の物語性」の継承と展開 具体的方針1「地域資源の活用」 具体的方針2「魅力発信に向けた体制づくり」 ②データに基づくマーケティング視点による観光戦略 具体的方針1「来訪者の実態把握・分析」 具体的方針2「顧客の獲得のための分析と展開」 ③ターゲット別の施策・プロモーション展開 具体的方針1「ターゲット別戦略」 具体的方針2「情報発信手段の整備」 ④安全・安心・快適な受入環境整備 具体的方針1「観光危機管理への対応」 具体的方針2「交通利便性の向上」 具体的方針3「多様な主体の受け入れ」 ⑤「共生と共創」による観光資源の磨き上げ 具体的方針1「伊勢市域による価値創出」 具体的方針2「伊勢志摩地域連携による価値創出」 具体的方針3「広域連携による価値創出」 ⑥市民・地域の「おかげさまの心」による迎え入れ 具体的方針1「市民参加型のおもてなし」 具体的方針2「持続可能な観光地域づくり」 ⑦インバウンド誘致の拡大による経済的・社会的效果の創出 具体的方針1「重点市場の設定」 具体的方針2「日本文化を体験できる地としてのブランド確立」 具体的方針3「インバウンド宿泊者数増加に向けた施策の展開」
②地域一体となった観光地経営		
③観光消費額の増加と地域経済の活性化		
④住む人も訪れる人も安全・安心・快適に過ごせるまち		
⑤観光の価値を高め、何度も訪れたくなるまち		

基本方針① 神宮式年遷宮を契機とする「伊勢の物語性」の継承と展開

神宮式年遷宮を契機とし、伊勢市が持つ「伊勢の物語性」を継承し、さらに発展させることで、伊勢市ならではの魅力を国内外に発信します。

方針における目標指標

KPI①-1 神宮参拝者数

現状値	7,574 千人
目標値	8,190 千人

目標：令和 15 年（2033）の式年遷宮に向けて日本文化と伝統が継承される「常世の波の寄せる国」伊勢の世界観と価値観を広く発信する

DATA：伊勢市観光統計



KPI②-2 神宮式年遷宮の認知度

現状値	63.0%
目標値	75.0%

目標：式年遷宮に向けて、さまざまなメッセージを発信。伊勢ブランドの向上を図る

DATA：伊勢市観光客実態調査



具体的方針 1「地域資源の活用」

事業着目点

(1) 遷宮とまちづくり

伊勢のまちに根付く遷宮と関連した文化や景観を地域資源として捉え、その価値を伝承・承継します。

(2) 文化観光の推進

伊勢の豊かな文化資源を生かした観光を推進します。

(3) 民俗伝統行事の推進

地域に伝わる民俗行事や伝統行事を観光資源として活用し、継承・発展させます。

具体的方針 2「魅力発信に向けた体制づくり」

事業着目点

(1) ガイドの育成

伊勢に伝わってきた歴史・文化・価値観などを深く理解し、その魅力を伝えることができる人材を育成し、国内外を問わず、観光客のニーズに応じた情報提供体制づくりを推進します。

基本方針② データに基づくマーケティング視点による観光戦略

データに基づいたマーケティング視点を取り入れ、ターゲットを明確にしたPRを展開し、「交流人口⁷」と「関係人口⁸」の創出・拡大を目指します。

方針における目標指標

KPI② 一人当たり観光消費額

現状値	日帰り：8,600円 宿泊：28,000円
目標値	日帰り：10,100円 宿泊：32,800円

目標：来訪者データの収集と分析に基づいた戦略的マーケティングの展開によって、消費単価年率+4%年率を目指す
DATA：伊勢市観光客実態調査



※令和7年は、計画値もしくはトレンドから推計される暫定値を表示している

具体的方針 1「来訪者の実態把握・分析」

事業着目点

(1) 来訪者の属性、宿泊者数、観光消費額、満足度などの継続的なデータ収集

継続的なデータ収集により、現状と課題を把握し、分析と効果検証を行うことでその後の施策に反映していきます。

(2) 来訪者の属性や嗜好に合わせたサービス

個々の観光客の特性に合わせたきめ細かなサービス提供を目指します。

(3) 施策効果の適宜・適切な評価と見直し

実施した施策の効果を客観的に評価し、改善に繋げます。市場や社会の変化に対応し、柔軟な事業展開を推進します。

具体的方針 2「顧客の獲得のための分析と展開」

事業着目点

(1) ターゲット市場のニーズ調査・分析

ターゲットニーズを把握し、それに応じた事業を展開します。

(2) データに基づく事業展開

収集したデータを活用し、効果的な事業展開を行います。

(3) ロイヤルカスタマー⁹（優良顧客）のデータ収集

伊勢市を繰り返し訪れる優良顧客の情報を収集・分析し、関係性を強化します。

⁷ その地域に訪れる人々のことと、その地域に住んでいる人（定住人口又は居住人口）に対する概念です。通勤・通学、買い物、習い事、観光、レジャーなど、特に内容を問わずさまざまな目的で訪れる人のことを指します。

⁸ その土地に住んでいる、または移住した「定住人口」でも、観光などで訪れた「交流人口」でもない、居住地と離れた地域を行き来して、地域活動への参加やふるさと納税による地域づくりへの貢献など、地域の人々と多様に関わる人々のことを指します。一般に交流人口よりも関係人口の方が、その地域とより密接なつながりを持つとされます。

⁹ 企業の商品・サービスやその企業自体への信頼や愛着が深い顧客のことを指します。ここでは本市に愛着を持ち、観光で本市を定期的に何度も訪れている旅行者のこととします。

基本方針③ ターゲット別の施策・プロモーション展開

ターゲットを明確にしたうえで、それぞれのターゲットにあわせた施策・プロモーションを展開することで、地域全体の活性化と、持続的な発展を目指します。

方針における目標指標

KPI③ 伊勢市観光協会ホームページアクセス数

現状値	160.0 万件
目標値	187.1 万件

目標：観光協会ホームページからの情報発信の量・質を引き続き高めることによって、+3%～+5%の増加を目指す

DATA：伊勢市観光統計



※令和7年は、計画値もしくはトレンドから推計される暫定値を表示している

具体的方針 1「ターゲット別戦略」

事業着目点

(1)効果的な観光情報発信と提供

リピーター、初来訪者、ロイヤルカスタマー、地域、年代、利用交通、人数、旅行者構成など、ターゲットに合わせた情報発信を行います。

(2)来訪時期・時間・場所の平準化

季節や曜日を問わず観光客が訪れるよう、観光の分散化を図ります。

(3)各種集大会の誘致やイベントの開催

MICE¹⁰やスポーツ・文化合宿、各種イベントの誘致・開催による需要を創出します。

(4)各種メディアを活用した情報発信

SNSなどのデジタルメディアや伝統メディアなど、多様な媒体を効果的に活用した情報発信を行います。

具体的方針 2「情報発信手段の整備」

事業着目点

(1)デジタル技術の活用による来訪者満足度の向上

デジタル技術を活用し、観光客への情報提供やサービスを推進します。

(2)多様な情報媒体の活用

紙媒体、ウェブサイト、アプリなど、多様な情報媒体を活用し、情報アクセスの利便性を高めます。

¹⁰ Meeting（会議・研修・セミナー）、Incentive（報償・招待旅行）、Convention/Conference（大会・学会・国際会議）、Event（イベント）/Exhibition（展示会）の頭文字をとった造語です。一般的な観光旅行に比べ、参加者が多く消費額も大きいことから、インバウンド振興の一環として、各地で誘致活動が盛んに行われています。

基本方針④ 安全・安心・快適な受入環境整備

観光客が安心して伊勢市を訪れ、安全、快適に過ごすことができるよう、受入環境と基盤整備を推進します。

方針における目標指標

KPI④-1 移動・交通の満足度

現状値	79.0%
令和 7 (2025) 年※暫定	79.0%
目標値	83.0%
令和 11 (2029) 年	83.0%

目標：公共交通機関の利便性向上、二次交通の整備、交通情報の発信強化等により、旅行客の満足度向上を図る

DATA：伊勢市観光客実態調査



※令和7年は、計画値もしくはトレンドから推計される暫定値を表示している

KPI④-2 伊勢神宮車椅子利用参拝者数

現状値	16,000 人
令和 7 (2025) 年※暫定	16,000 人
目標値	17,000 人
令和 11 (2029) 年	17,000 人

目標：バリアフリー化や情報提供の充実によって多様な旅行者、参拝者に安全・安心な旅を提供する

DATA：伊勢市観光統計



※令和7年は、計画値もしくはトレンドから推計される暫定値を表示している

具体的方針 1「観光危機管理への対応」

事業着目点

(1) 自然災害への対応

自然災害発生時の情報提供や、来訪者の安全確保と避難・滞在支援の整備を行います。

(2) 感染症等への対応

観光地における熱中症や感染症等の対策に取り組みます。

(3) 風評被害等への対応

デマや風評被害への対策、正しい情報発信、観光地における受け入れ対応などを適切に行います。

具体的方針 2「交通利便性の向上」

事業着目点

(1)交通利便性の向上

公共交通機関の路線、数、接続などの改善や、ライドシェア¹¹、自動運転¹²といった新たな移動手段の導入により利便性を高めます。また、レンタサイクル拠点の拡充やサイクルルートの整備などのサイクルツーリズムを推進します。

(2)デジタル技術を活用した交通情報の発信

リアルタイムの交通情報や混雑状況をデジタルで提供し、スムーズな移動を支援します。

(3)主要駅や周辺駅の利便性向上

駅の施設改善や案内体制、駅周辺の整備により利用者の利便性を高め、周遊・回遊向上を進めます。

(4)主要道路、遊歩道などの整備

観光地のアクセス道路や歩行者空間、街路の整備を進めます。

(5)公共サイン計画に基づく誘導案内整備

統一されたデザインと多言語対応の誘導案内など、分かりやすい情報提供を行います。

具体的方針 3「多様な主体の受け入れ」

事業着目点

(1)ユニバーサルツーリズムの促進

高齢者、障がい者、乳幼児連れなど、誰もが旅行を楽しむことができるよう、バリアフリー対応や情報提供を推進します。

(2)インバウンドの受入環境整備

多言語対応、決済環境の整備、食文化への対応など、インバウンドが快適に過ごせる環境整備を推進します。

(3)観光マナー等の向上

観光客に対して、騒音やごみ、喫煙、私有地への立ち入りなどのマナー意識啓発に取り組みます。

(4)観光案内所の機能強化

観光案内所の機能強化やデジタル化を進め、質の高い情報提供とサービスを提供します。

(5)新たなニーズ、価値への対応

多様化する旅行ニーズに対応したサービスや受入環境整備を推進します。

¹¹ 一般的のドライバーが自家用車等を用いて、乗客を目的地まで有償で運ぶサービスです。特に「日本版ライドシェア」では、タクシー事業者等の管理のもと、地域の自家用車・一般ドライバーが有償で運送サービスを提供し、地域交通の「担い手」「移動の足」不足を解消することが期待され、本市でも令和6（2024）年度から実証実験を行っています。

¹² 人に代わりシステムが、運転に関わる認知、予測、判断、操作の一部またはすべてを代行して行い、車両を自動で走らせることです。本市ではバスの運転士不足への対応として、特定条件下での完全自動運転を実現する「レベル4」による大型バスでの有償運行を実現すべく、令和6（2024）年度から自動運転バスの実証実験に取り組んでいます。

基本方針⑤ 「共生と共創」による観光資源の磨き上げ

伊勢市単独だけではなく、伊勢志摩地域全体、さらには広域での連携を強化し、地域資源の相互補完と新たな価値創出を図ります。

方針における目標指標

KPI⑤ 伊勢市再訪意向率・伊勢志摩地域再訪意向率

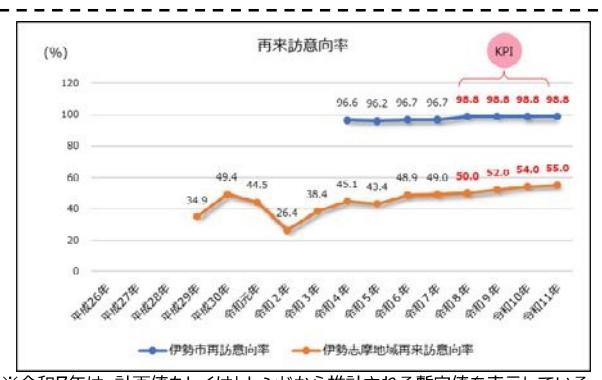
現状値 令和 7 (2025) 年※暫定	伊勢市 : 96.7% 伊勢志摩地域 : 49.0%
目標値 令和 11 (2029) 年	伊勢市 : 98.8% 伊勢志摩地域 : 55.0%

目標：伊勢市再訪意向率は、現行計画の目標水準

(98.8%) を継続。三重県による伊勢志摩地域の再来

訪意向率は、着実なアップを目指す

DATA：伊勢市観光客実態調査・三重県観光客実態調査報告書



具体的方針 1「伊勢市域による価値創出」

事業着目点

(1) 地域ならではの資源活用と相互補完・連携

歴史、文化、自然、食など、伊勢市内の多様な地域資源の再発見や地域間連携により、多様化するニーズなど新たな伊勢の魅力開発につなげます。

(2) 神宮以外の観光魅力向上

遷宮に向けた盛り上がりを柱にしつつも、神宮や遷宮以外の隠れた魅力や、新たなサービスを発掘・展開します。

具体的方針 2「伊勢志摩地域連携による価値創出」

(1) 地域資源活用と相互補完・連携

歴史、文化、自然、食など、伊勢志摩地域の多様な地域資源を連携させ、地域全体での魅力向上を図ります。

(2) 神宮や遷宮と地域のかかわり

神宮や遷宮を共通点としたプロモーションや受入環境整備、機運醸成を図ります。

具体的方針 3「広域連携による価値創出」

事業着目点

(1) 歴史的つながりによる相互補完

伊勢市と歴史的に関係の深い地域との連携による、広域での周遊観光に取り組みます。

(2) 事業目的の同一性による相互補完

共通の目的を持つ自治体や団体と連携し、共同観光プロモーションなどを行います。

基本方針⑥ 市民・地域の「おかげさまの心」による迎え入れ

伊勢市に古くから根付く神宮への感謝から生まれる心が来訪者に伝わる「おかげさまの心」を次世代へ継承し、市民が主体的に観光振興に参加する体制を強化します。

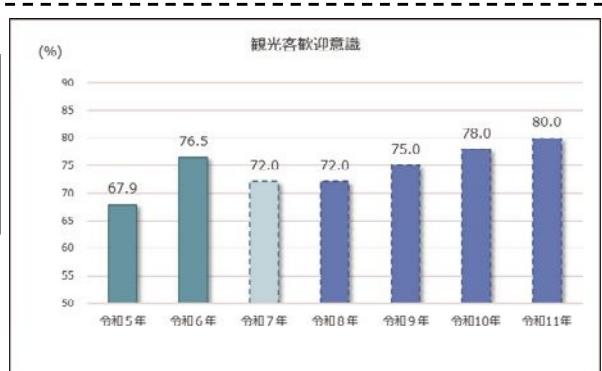
方針における目標指標

KPI⑥ 観光客に対する市民の「歓迎意識度」

現状値	72.0%
令和 7 (2025) 年※暫定	72.0%
目標値	80.0%
令和 11 (2029) 年	80.0%

目標：観光に対する地域の理解を広げ、恩恵を感じている割合 80%を目指す

DATA：オンライン市民アンケート



※令和7年は、計画値もしくはトレンドから推計される暫定値を表示している

具体的方針 1「市民参加型のおもてなし」

事業着目点

(1)来訪者への温かい迎え入れ文化の醸成

観光交流が地域経済の発展に繋がっていることを知り、市民一人ひとりが観光客を温かく迎え入れる意識を高めます。

(2)市民の地域への愛着醸成

各地から伊勢市に多くの旅行者が訪れる事を市民が誇りに思い、一層の地域振興へつなげます。

具体的方針 2「持続可能な観光地域づくり」

事業着目点

(1)市民・来訪者の双方が満足する地域づくり

観光客の満足度向上だけでなく、市民の生活環境との調和を図り、双方にとって良い地域づくりを進めます。

(2)観光産業の人材確保・育成

観光産業を担う人材の確保と、質の高いサービスを提供できる人材の育成を支援します。

(3)文化、観光関連施設などの保全、整備

伊勢市の文化財や観光施設を適切に保全・整備します。

(4)DMO の組織強化

地域 DMO（観光地域づくり法人）の組織体制を支援し、観光振興の中核的な役割を担えるようにします。

(5)財源の獲得

ふるさと納税などの促進や宿泊税導入の検討など、観光振興に活用できる安定的な財源の確保に努めます。

基本方針⑦ インバウンド誘致の拡大による経済的・社会的效果の創出

国際的な視点を取り入れ、インバウンド誘致を推進することで、伊勢市の経済的・社会的な効果拡大を目指します。

方針における目標指標

KPI⑦ 外国人推計宿泊者数（延べ宿泊者数）

現状値	27,000人
令和7（2025）年※暫定	27,000人
目標値	38,000人
令和11（2029）年	38,000人

目標：重点市場でのプロモーション展開、コンテンツ開発などによって、7%～10%水準までの増加を目指す

DATA：外国人推計宿泊者数



※令和7年は、計画値もしくはトレンドから推計される暫定値を表示している

具体的方針 1「重点市場の設定」

事業着目点

(1) 重点市場の訪日動向などを踏まえた企画立案

特定の国や地域の訪日観光客の動向を分析し、日本文化や伊勢に対して関心が高く、知的好奇心を持っている人をターゲットにした企画を推進します。

(2) 現地観光関連事業者・団体と連携した誘客の推進

海外の旅行会社やメディアなどと連携し、日本文化への知的好奇心を有する人に届く情報を発信します。

具体的方針 2「日本文化を体験できる地としてのブランド確立」

事業着目点

(1) 上質な体験商品の開発

訪日観光客のニーズに応じた、伊勢ならではの上質な体験型観光商品を開発・展開します。

(2) 伊勢の文化への理解を促進するプロモーション

プロモーション活動において、現地の事業者と協力し、効果的な情報発信を行います。また、文化理解に関するプロモーションにも取り組みます。

具体的方針 3「インバウンド宿泊者数増加に向けた施策の展開」

事業着目点

(1) ナイトコンテンツ・早朝コンテンツの充実

夜間や早朝に楽しむことができるコンテンツを開発するなど、滞在時間の延伸と宿泊を促進します。

(2) 季節や曜日を問わない来訪の促進

特定の時期や曜日に集中しないよう、年間を通して訪日観光客が訪れるプロモーションを展開します。

(3) 宿泊施設・飲食店などのインバウンド対応力の強化

訪日観光客のニーズに対応した利便性や快適性を向上する取り組み支援を推進します。

(仮称) 伊勢市地域公共交通計画について

1. 背 景

地域公共交通の活性化及び再生に関する法律に基づき、本市の交通に関する施策を総合的かつ計画的に推進するために策定するものであり、令和 2 年 3 月に策定した「伊勢市地域公共交通網形成計画」の次期計画となるものである。

2. 経 過

地域公共交通の活性化及び再生に関する法律第 6 条に基づく学識経験者、公共交通事業者、住民等で構成される伊勢地域公共交通会議による審議を経て素案を作成。

令和 6 年 11 月 26 日	第 3 回 伊勢地域公共交通会議
令和 6 年 12 月 25 日	第 4 回 伊勢地域公共交通会議
令和 7 年 3 月 11 日	第 5 回 伊勢地域公共交通会議
令和 7 年 6 月 6 日	第 1 回 伊勢地域公共交通会議
令和 7 年 9 月 1 日	第 2 回 伊勢地域公共交通会議
令和 7 年 11 月 21 日	第 3 回 伊勢地域公共交通会議

3. 計 画 (案)

(1) 期 間

令和 8 年度から令和 12 年度までの 5 年間

(2) 内 容

別添資料 3-2 「【概要版】(仮称) 伊勢市地域公共交通計画 (案)」参照

4. 今後のスケジュール

令和 7 年 12 月 18 日～	パブリックコメント実施 (1 か月程度)
令和 8 年 1 月下旬	伊勢地域公共交通会議へ報告
令和 8 年 2 月頃	産業建設委員協議会へパブリックコメント等の報告
3 月中	(仮称) 伊勢市地域公共交通計画策定

【概要版】(仮称)伊勢市地域公共交通計画(案)

産業建設委員協議会 資料3-2

令和7年12月17日

担当 : 都市整備部交通政策課

■ 本市の公共交通の課題

課題①	地域の実情やニーズに応じた、使いやすく利便性のある路線への再編とその維持が必要である。	課題②	公共交通をうまく利用してもらうために、利用促進のための啓発・情報発信やニーズの把握、わかりやすい乗車案内を進めていく必要がある。
課題③	R15年の式年遷宮に向けて、二次交通を含む観光交通の更なる充実や、外国人も含めた観光客の公共交通の利用を促進する取り組みが必要である。	課題④	地域交通の担い手を確保し、持続性のある公共交通のあり方を交通事業者や地域の人と共に考え、実践する必要がある。

■ 将来像と基本理念

目指す将来像

行きたい時に、行きたい場所へ、
住む人と訪れる人の自由な移動を叶える地域公共交通

基本理念

私たちで「創り」「活かし」「楽しみ」「育てる」
持続可能な地域公共交通網の構築

■ 基本方針と目標

基本方針1

創る

～持続可能な公共交通を創って、
人と環境に優しい伊勢を実現する～

- ・鉄道やバス、タクシーなど様々な公共交通の連携を図り、地域ニーズにあった円滑で利便性の高い公共交通網を形成します。
- ・SDGsの実現やドライバー不足解消に向け、次世代交通の導入に向けた取組を継続します。

基本方針2

活かす

～公共交通を利用して気がねなく
おでかけできる、楽しい伊勢を実現する～

- ・地域イベントとも連携した広報やわかりやすい乗車案内、料金負担軽減策等を通じて、これまで公共交通を利用する機会のなかつた方にも利用してもらえるよう、公共交通が使いやすい環境を形成します。

基本方針3

楽しむ

～公共交通利用によって
観光も生活も充実する伊勢を実現する～

- ・第63回式年遷宮に向けた交通環境の整備、MaaSへの取組などを通じて、マイカーによる「ショートカット観光」から公共交通による「地域を味わう観光」への転換を進めます。
- ・飲食店や商業施設への移動など、住民が快適に外出できる公共交通網を形成し、回遊性の高い地域づくりを目指します。

基本方針4

育てる

～みんなで考え、地域で公共交通を支える
伊勢を実現する～

- ・持続可能な公共交通を実現するため、市、交通事業者、住民の方々が一体となって公共交通を考える環境づくりを進めます。

目標①

路線網の維持・改善

重点目標

- (1)路線の維持・改善
- (2)ダイヤ調整
- (3)交通空白の解消
- (4)周辺市町との連携強化
- (5)運賃体系の見直し

目標②

周辺環境の改善

- (1)わかりやすい案内環境の整備
- (2)バス待ち環境の改善

目標③

次世代公共交通の導入

重点目標

目標①

利用するきっかけの創出

重点目標

- (1)公共交通への興味喚起
- (2)公共交通を利用したお出かけを促進
- (3)利用促進に向けた料金負担軽減策の推進

目標②

わかりやすい情報発信による利用促進

- (1)積極的な広報の実施
- (2)わかりやすい乗車案内

目標①

観光客の公共交通利用を増やす

重点目標

- 目標② 観光満足度を上げ、何度も訪れたいと思える公共交通観光の提案

目標③

外国人観光客の公共交通の使いやすさ向上

- 目標④ 住民の快適な外出環境の整備による回遊性の高い地域づくり

目標①

担い手確保

重点目標

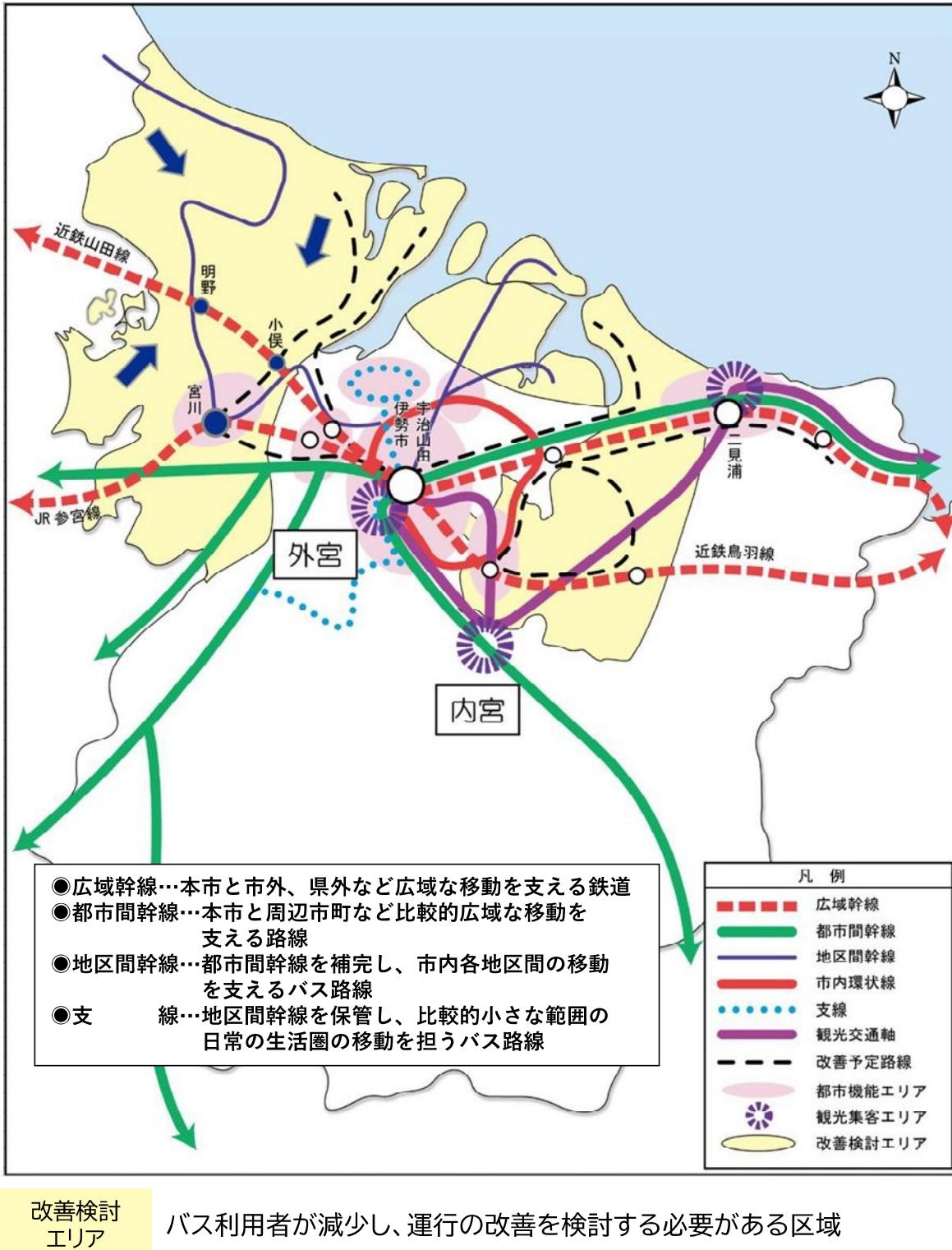
- 目標② 収入源の確保

目標③

公共交通を考える

- (1)公共交通会議の活用
- (2)地域自らが公共交通を考える機会の創出

■ 5年後の本市地域公共交通体系のイメージ



■ 再編の方向性

利用者が減少しているおかげバス(鹿海・朝熊線、二見線)やおかげバスデマンドについては、地域との対話を通じてニーズを把握し、ニーズにあった運行路線、運行時間、バス停位置などを検討し、運行の改善を図ります。

また、利用者の減少や運転手不足により都市間幹線や地区間幹線等の路線バスの廃止が検討される地域については、多様な選択肢を提供しながら新たな移動手段について検討します。

1 はじめに

1-1 計画策定の背景

伊勢市では、H19年4月からコミュニティバス「おかげバス」の運行を開始し、H26年5月からは、沼木地区での自家用有償旅客運送による「沼木バス」の運行を開始するなど、住民の交通手段の確保に努めてきました。

また、少子高齢化が進むなかで高齢者や子どもを含めた自家用自動車等の移動手段を持たない人の移動手段を確保し、地域における公共交通に対する主体的な取り組み及び創意工夫を総合的、一体的かつ効率的に推進するため、H28年3月に「伊勢市地域公共交通網形成計画」(以下「前計画」という。)を策定し、R2年3月には状況の変化に合わせて内容の改訂を実施しました。前計画では「日常生活で利用できる公共交通を目指す」「公共交通を利用した観光交流人口の増加を目指す」「地域の関係者が協働・連携しながら自ら公共交通を支える」という3つの基本方針のもと、様々な取組を行ってきました。

しかし、R2年以降の新型コロナウイルス感染症拡大に伴う移動需要の減少は、本市にも大きな影響を与え、公共交通利用者数は、R2年以前の水準に戻っていません。加えて2024年問題*に伴う乗務員不足の問題は本市においても発生しており、燃料費高騰によって運行経費が嵩むなど、地域公共交通は厳しい状況にあります。

一方、国においては、R2年に地域公共交通の活性化及び再生に関する法律が改正され、地域公共交通網形成計画を「地域公共交通計画」と改め、地方公共団体の作成を努力義務としました。また、収支や行政負担額などの定量的な目標の設定と毎年度の評価が必要となりました。

このような背景のもと、本市においても新たな法改正に即した計画を策定する必要があるとともに、新型コロナウイルス感染症による影響や少子高齢社会の進行、乗務員不足や燃料費高騰の中にあっても将来のまちづくりを見据え、あらゆる関係者と連携しながら交通に係わる環境負荷の低減や、日常の楽しいおでかけと円滑な移動、観光振興等を実現する持続可能な公共交通ネットワークを維持するため、本計画を策定します。

本計画のもと、地域住民、交通事業者、行政が一体となり、より一層の取り組みを推進し、まちづくりや地域住民の生活を支える身近で使いやすい地域公共交通を将来にわたって確保、維持していきます。

※2024年問題

R6(2024)年4月から働き方改革関連法の施行により時間外労働の上限規制等が適用され、トラックドライバーやバス乗務員の不足が発生していること。

1-2 計画期間と計画区域

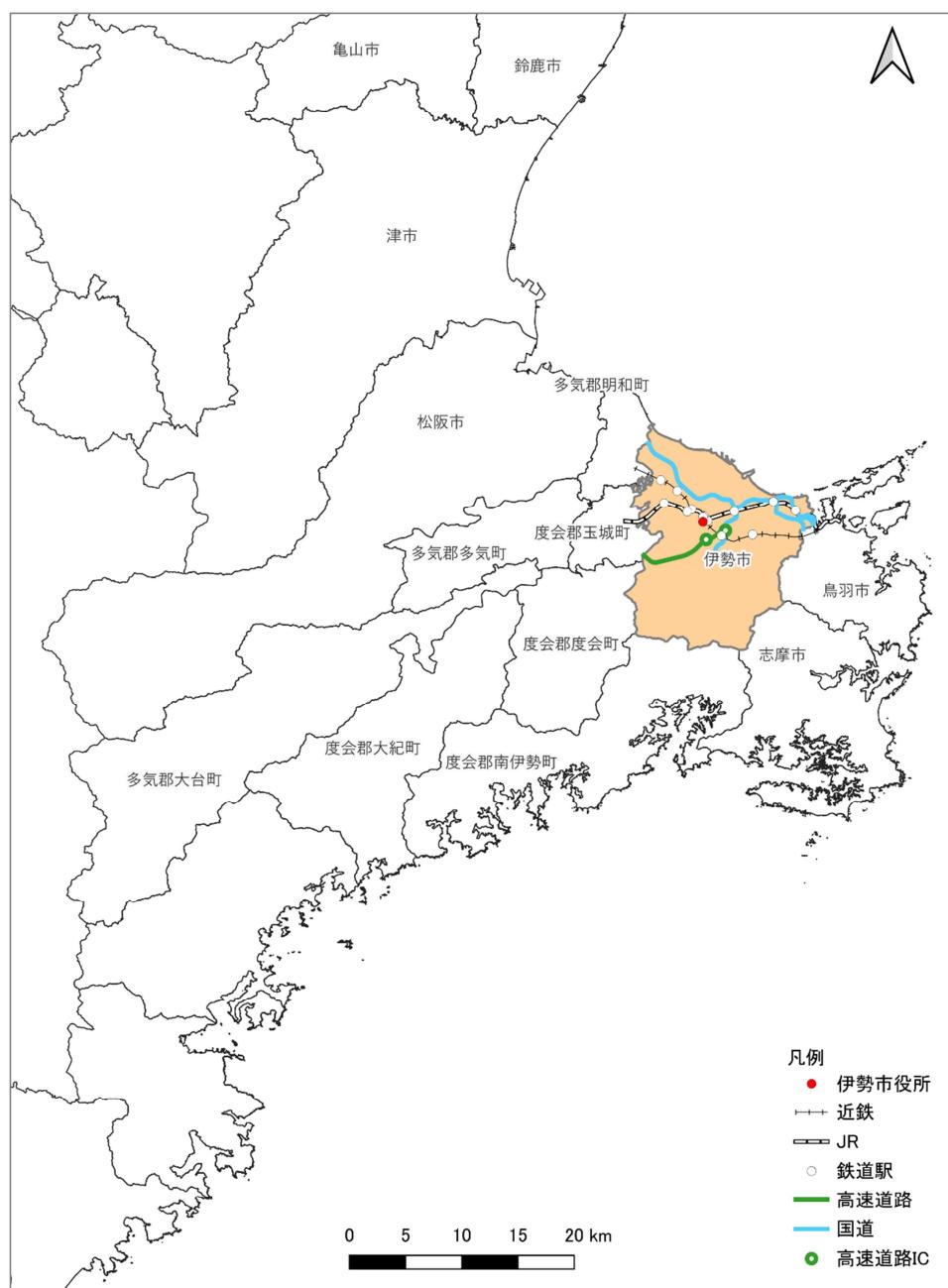
本計画はR8年度からの5年間を計画期間とし、本市全域を対象とします。ただし、隣接する市町に乗り入れているバス路線等については、乗り入れ先も考慮した検討を行います。

計画期間

R8年度～R12年度(5年間)

計画区域

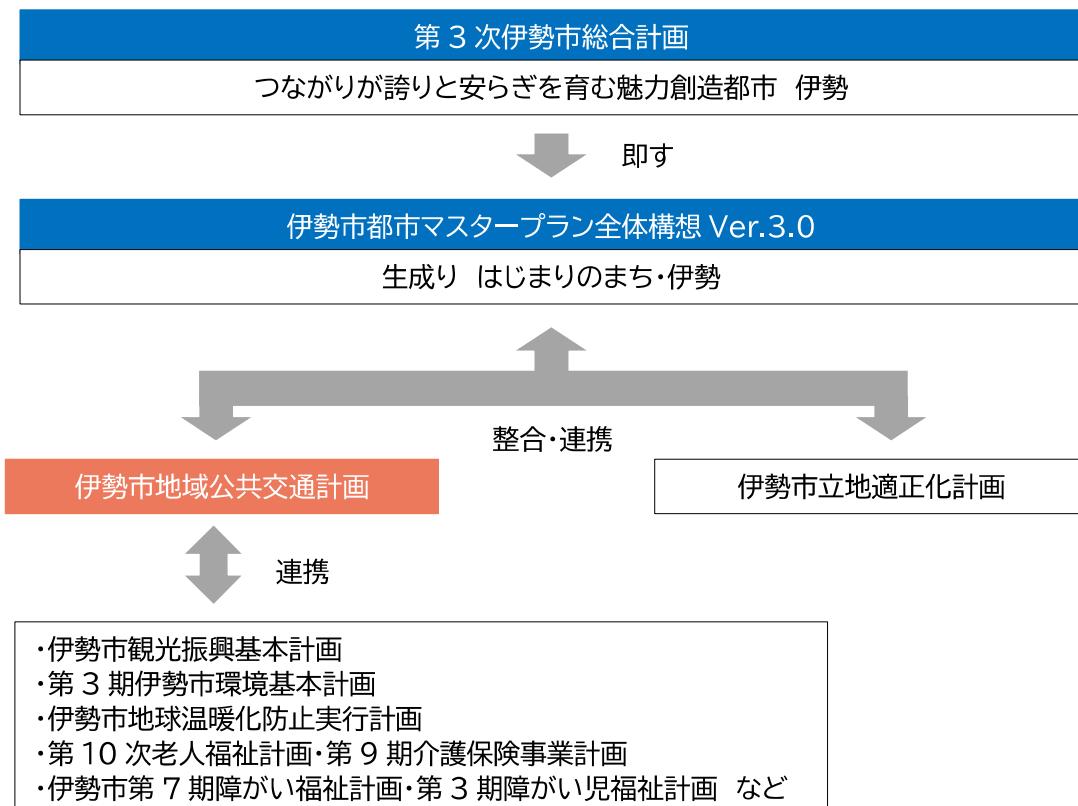
伊勢市内



1-3 計画の位置づけ

本計画は、交通政策基本法の理念を受けて、地域公共交通の活性化及び再生に関する法律の改正に基づき、まちづくりの方針である第3次伊勢市総合計画、伊勢市都市マスターplan、伊勢市立地適正化計画などの上位関連計画を踏まえて策定します。

本計画の位置づけ



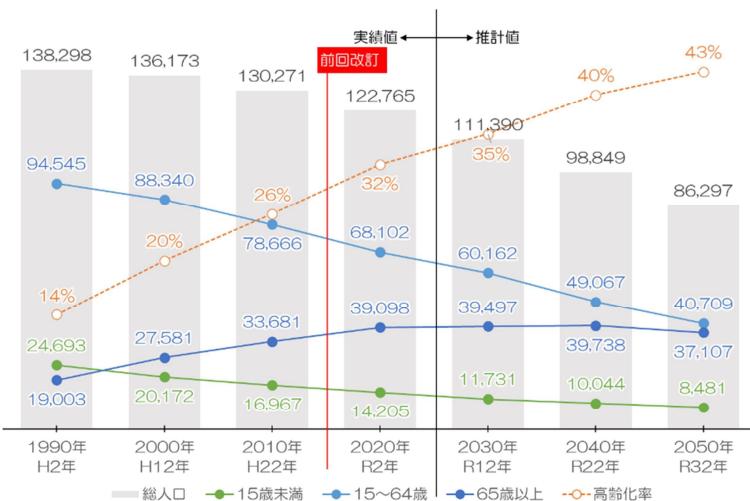
2 伊勢市の現状

2-1 地域特性

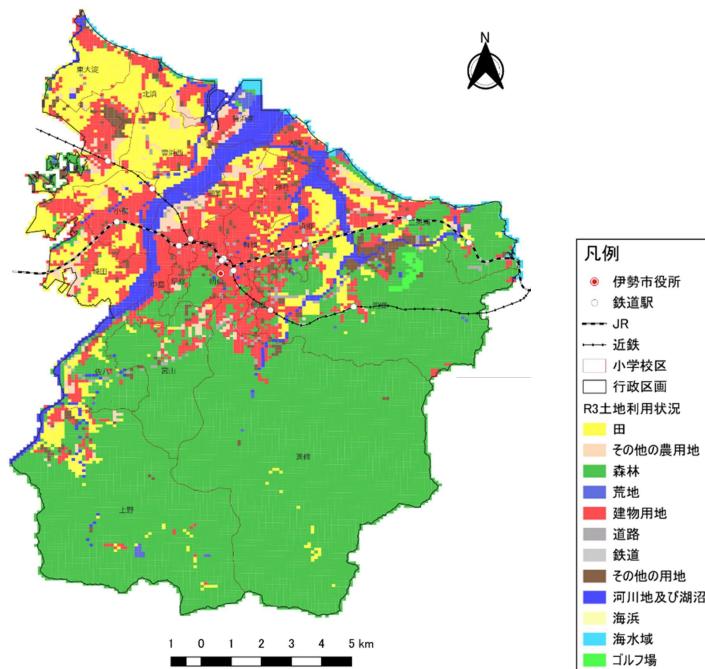
本市の総人口は年々少子高齢化傾向にあり、伊勢市人口ビジョンによると、H2年からR32年の60年間で総人口は約40%減少すると予測されています。R12年以降は65歳以上の人口が減少しますが、総人口の減少率の方が高いため、高齢化率は増加し続け、R32年には43%に達すると予測されています。

また、本市の地域特性として、市域面積の約60%を森林が占め、市街地は市の北部に広がっています。宮川より西側を中心に田が広がり、宮川と五十鈴川に囲まれた範囲に建物用地が広がっています。

人口・高齢化率の推移と土地利用状況



資料：国勢調査(H2～R2)、伊勢市人口ビジョン(R12～R32)



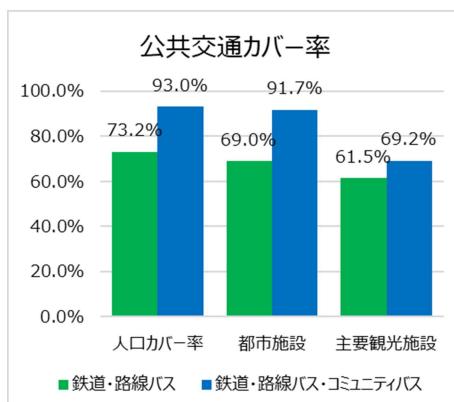
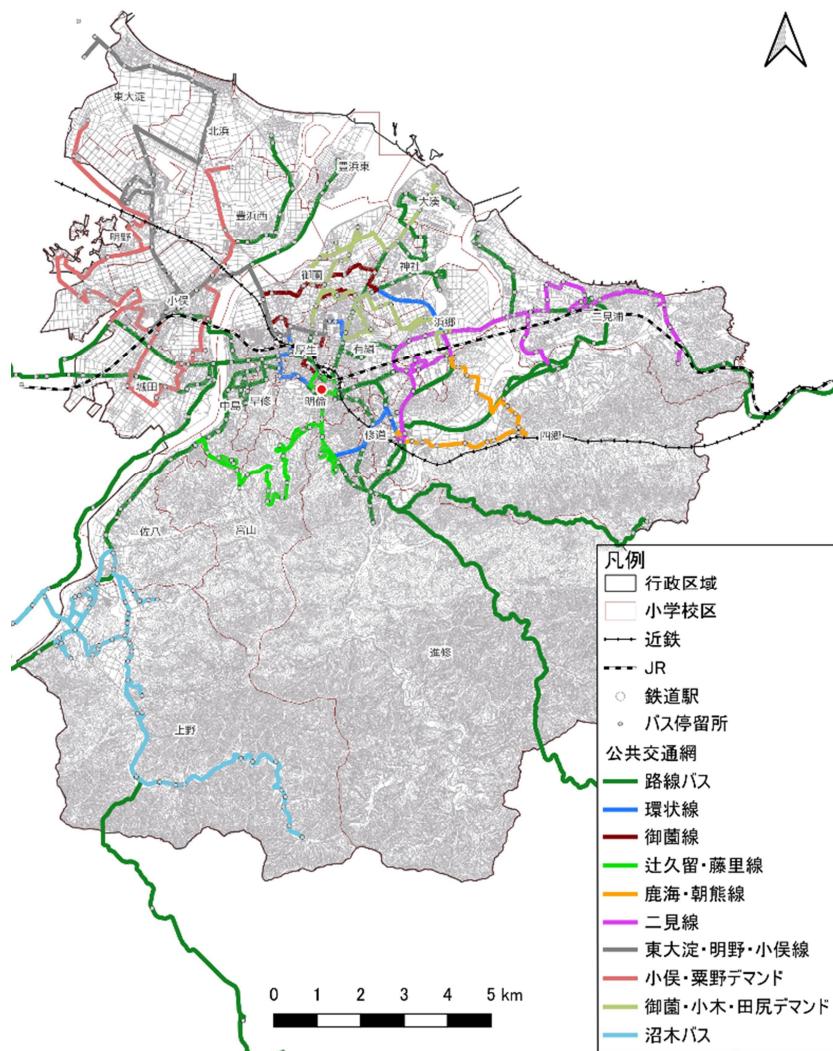
資料：国土数値情報(R3)

2-2 公共交通特性

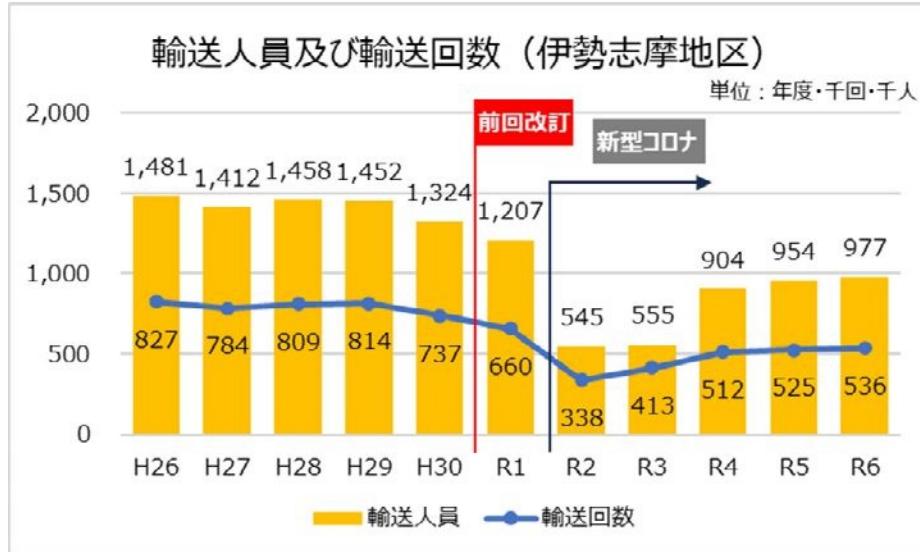
本市ではJR、近鉄、路線バスと、市のコミュニティバスであるおかげバス、おかげバスデマンド、沼木バスデマンド、自家用有償旅客運送である沼木バスが運行されています。

公共交通のカバー圏域(鉄道駅・バス停から300m圏内)は、鉄道や路線バスでカバーできていない圏域を中心にコミュニティバス路線網が構築され、それによって多くの地域をカバーしています。

公共交通網図



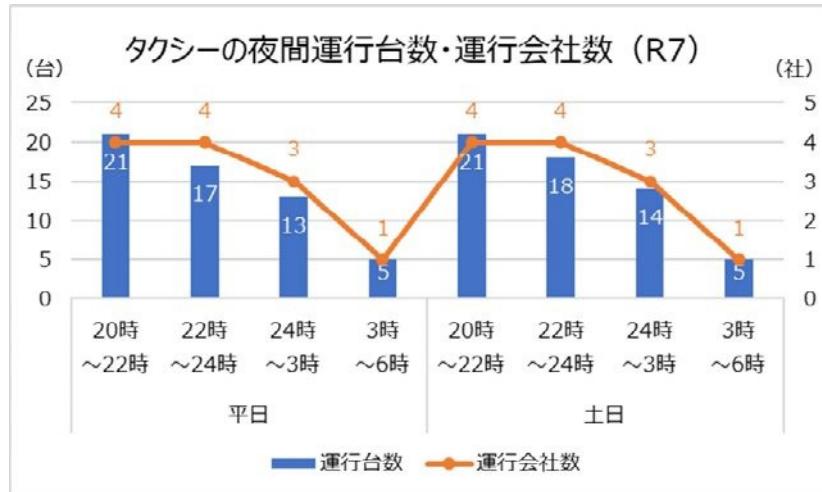
本市におけるタクシー事業者は6社で計145台が運行しています。近年2社が廃業し運行台数が46台減少しました。本市を含む伊勢志摩地区の輸送人員と輸送回数は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により大きく減少しましたが、近年は増加傾向にあります。登録運転者の平均年齢は62.6歳で、ドライバーの高齢化が進んでいます。



資料:三重県タクシー協会提供データ

※「前回改訂」とは「(改訂)伊勢市地域公共交通網形成計画」に示されている時点のことです(以下同じ)

R5年度にタクシーの週末(木曜日～土曜日)夜間(20時～24時)の利用者調査を行ったところ、タクシーを手配(乗車)できた人の割合は55.6%で、手配から到着までの時間が15分以内であったのは約50%でした。なお、配車依頼に対応できなかった理由の70%以上が「配車可能なタクシーがない」でした(第2期:R5年11月～R6年2月)。



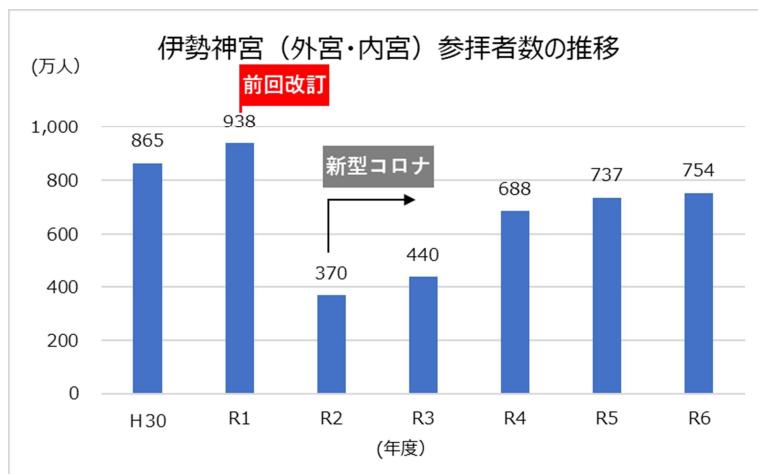
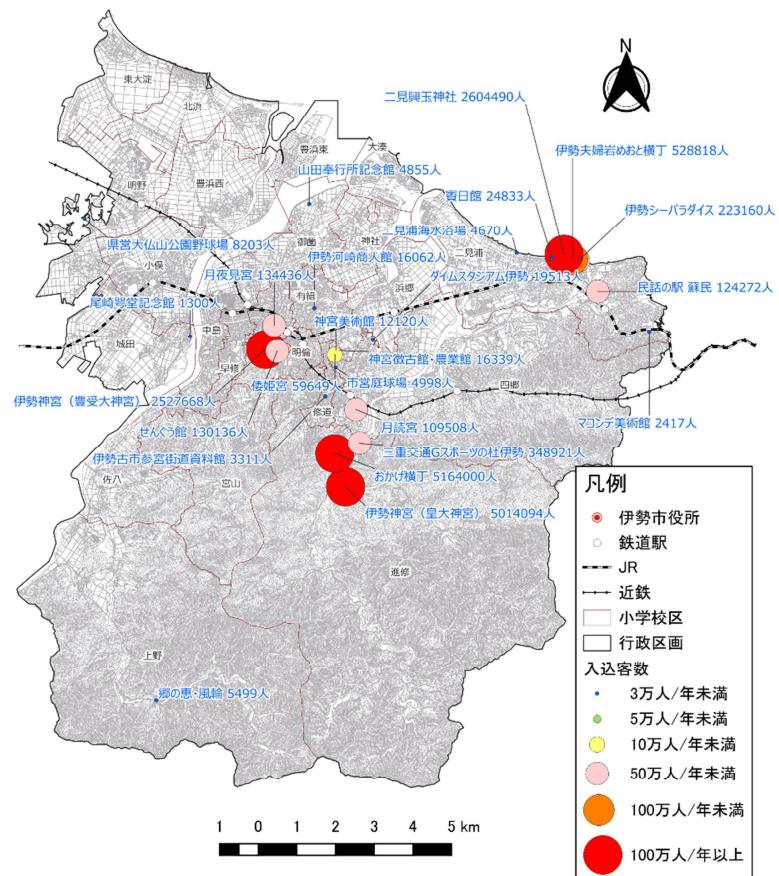
本市では、これらの状況を踏まえてタクシー利用の利便性向上のため、夜間の増車配備の実証事業やライドシェアの実証事業を実施しています。

2-3 観光特性

本市には、厚生・明倫地区の外宮や進修地区の内宮、おかげ横丁のほか、二見地区の二見興玉神社など多くの観光施設が点在しています。伊勢神宮(内宮・外宮)、おかげ横丁、二見興玉神社には、年間100万人以上の観光客が訪れています。

伊勢神宮参拝者数は、R1年度には約900万人/年を記録しましたが、R2年度からの新型コロナウイルス感染症拡大により370万人/年まで落ち込みました。R4年度以降は増加傾向に転じています。

主要施設の観光入込客数(R6年)と観光客数の推移



資料：伊勢市観光統計

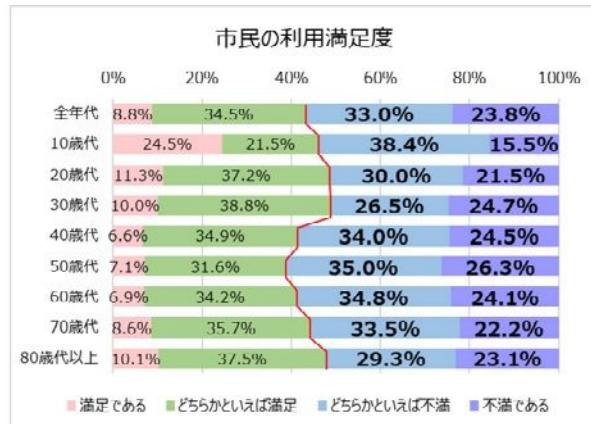
2-4 公共交通利用実態

本市の公共交通網は市域全体をカバーするように広がっていますが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、路線バスと鉄道の利用者数はコロナ前の水準まで戻っていません。

また、市民の公共交通に対する満足度(R2～R6の平均)は「満足」「どちらかといえば満足」と回答した方が約40%、「不満」「どちらかといえば不満」と回答した方が約60%となっています。年代別では30歳代、20歳代、80歳代以上の順に満足度が高くなっています。



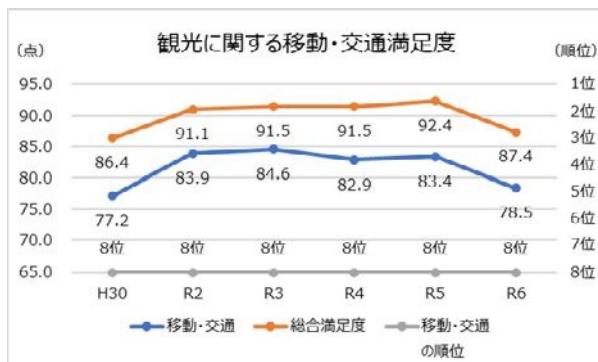
資料:三重交通提供データ、市データ、市勢統計要覧



資料:市民アンケート(R2～R4)

オンライン市民アンケート(R5、R6)

本市を訪れた観光客の満足度をみると、「移動・交通」に対する満足度は全8項目中※最下位となっています。



	H30	R2	R3	R4	R5	R6
景観・雰囲気	90.3	93.0	93.1	93.2	94.2	90.0
宿泊施設	81.1	87.3	88.4	87.3	86.4	82.6
観光施設	87.2	91.4	91.5	91.6	92.5	85.7
飲食施設	86.3	89.3	90.2	89.9	91.1	85.1
物産施設	83.8	87.9	89.0	88.0	89.5	84.1
移動・交通	77.2	83.9	84.6	82.9	83.4	78.5
情報・案内	81.2	85.0	86.7	85.1	87.2	80.7
おもてなし	84.5	90.3	90.6	90.8	91.5	85.3
総合満足度	86.4	91.1	91.5	91.5	92.4	87.4

単位:年・点

※8項目

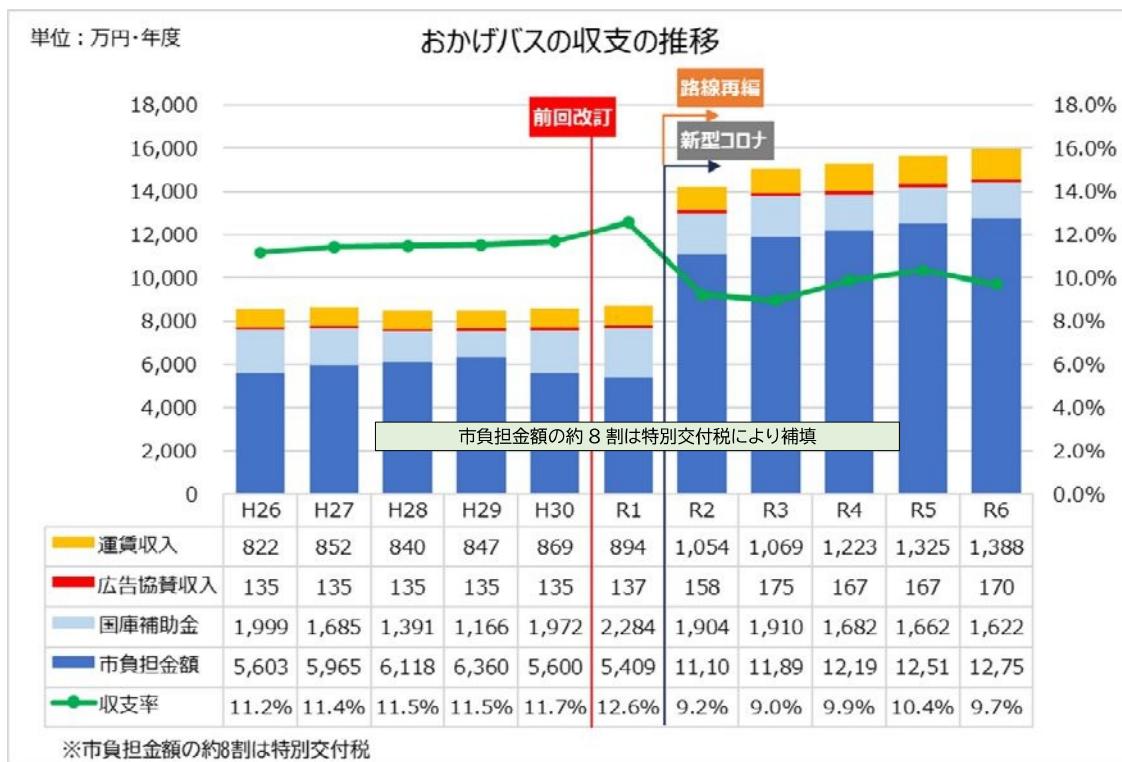
①景観・雰囲気、②宿泊施設、③観光施設、④飲食施設、⑤物産施設、⑥移動・交通、⑦情報・案内、⑧おもてなしの8項目。

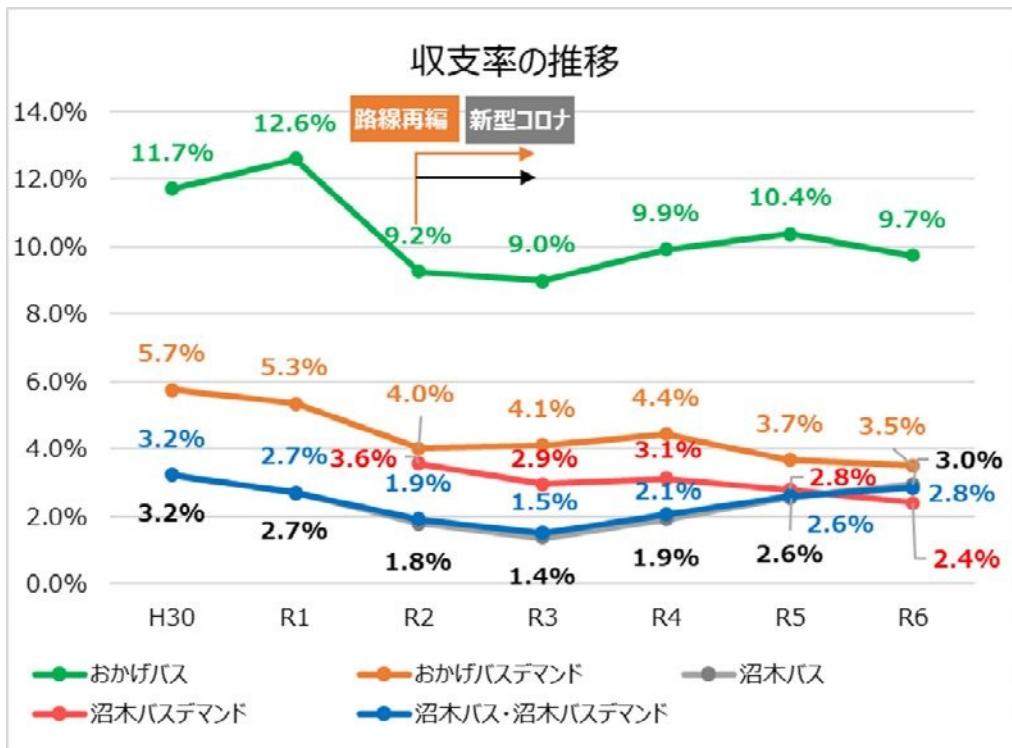
資料:伊勢市観光客実態調査

2-5 コミュニティバスの収支状況

おかげバスの運賃収入と広告協賛収入は、R1年度までは横ばい傾向でしたが、環状線の運行が開始されたR2年度以降は増加しました。

収支率は運行経費がどれだけ収入でまかなわれているかを示す指標です。H26年以降11～12%で推移していましたが、路線再編等による市負担金額の増加により9%まで低下しました。その後、徐々に回復していますが、新型コロナウイルス感染症拡大以前の水準には戻っていません。





※収支率=(運賃収入+広告協賛収入)／運行経費

資料:市データ

3 伊勢市地域公共交通網形成計画(R2年3月改訂)の目標達成状況

本市では、R2年3月に改訂した前計画により、地域住民、交通事業者、行政が一体となり、まちづくりや地域住民の生活を支える身近で使いやすい地域公共交通を将来にわたって確保、維持していくことを目指してきました。

前計画では、3つの基本方針と7つの目標、10の具体的な指標(重複除く)を掲げており、10の指標のうち、6指標で目標未達成となっています(R6年度時点)。日常利用に関する「基本方針1」と、観光利用に関する「基本方針2」は、おかげバス・おかげバスデマンドの利用者数をのぞく全ての項目で目標未達成となっています。特に「基本方針2」は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を大きく受けたことが考えられます。一方で「基本方針3」は全ての項目で目標を達成しています。

	現況値							目標値	
	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6		
基本方針1 日常生活で利用できる公共交通を目指す									
目標① 路線バスの運行維持・改善									
外宮内宮線・CAN ばす・二見サンアリーナ線を除く路線バスの利用者数	1,584,300人	1,491,500人	989,300人	1,043,900人	1,129,400人	1,128,900人	1,138,200人	158万人	
目標② コミュニティバスの運行継続・改善の指標と目標値									
おかげバス・おかげバスデマンドの利用者数	81,654人	120,886人	101,367人	103,744人	115,754人	123,024人	128,563人	89,000人	
沼木バスの利用者数(スクール用を除く)	3,722人	3,113人	2,074人	1,581人	1,865人	2,345人	2,677人	3,700人	
年間利用者数72名未満のコミュニティバス停留所の割合	31%	34%	29%	25%	28%	20%	23%	21%	
目標③ 公共交通の利便性向上									
外宮内宮線・CAN ばす・二見アリーナ線を除く路線バスの利用者数	1,584,300人	1,491,500人	989,300人	1,043,900人	1,129,400人	1,128,900人	1,138,200人	158万人	
おかげバス・おかげバスデマンドの利用者数	81,654人	120,886人	101,367人	103,744人	115,754人	123,024人	128,563人	89,000人	
沼木バスの利用者数(スクール用を除く)	3,722人	3,113人	2,074人	1,581人	1,865人	2,345人	2,677人	3,700人	
市民アンケートの交通環境満足度(満足・どちらかといえば満足)	49%	47%	51%	50%	42%	31%	32%	59%	
基本方針2 公共交通を利用した観光交流人口の増加を目指す									
目標① 公共交通を利用した観光振興の推進									
内宮参拝者の公共交通工具利用率	31%	34%	9%	17%	25%	26%	26%	35%	
外宮内宮線・CAN ばす・二見サンアリーナ線路線バスの利用者数	2,676,600人	2,769,900人	1,130,500人	1,229,400人	1,576,900人	1,653,600人	1,783,300人	300万人	
基本方針3 地域の関係者が協働・連携しながら自ら公共交通を支える									
目標① 利用するきっかけの創出									
公共交通の啓発・利用促進事業に参加した人数	857人	838人	187人	351人	1,302人	980人	986人	940人	
目標② わかりやすい情報提供の展開									
おかげバス・おかげバスデマンドのページ(伊勢市ホームページ)アクセス数	3,876件	51,930件	24,906件	35,181件	72,368件	79,481件	64,719件	42,000件	
目標③ 公共交通を地域で支え、育てる									
伊勢地域公共交通会議の開催数	5回/年	4回/年	4回/年	3回/年	4回/年	4回/年	5回/年	4回/年	
※薄字は重複項目	前回改訂		新型コロナウイルス		路線再編				
目標値を下回る									

それぞれの目標に対する施策の実施状況は以下のとおりです。

基本方針 1 日常生活で利用できる公共交通を目指す

目標① 路線バスの運行維持・改善

目標	施策実施状況
(1)路線バスの運行維持・改善	三重交通(株)、まちづくり協議会などの関係者と路線バスやコミュニティバスの利用状況や要望などを共有し、既存の運行路線を維持
(2)路線バス網の再編	R2 年度に大湊線・神社線の再編を実施（※1）
(3)周辺市町との連携促進	三重県地域公共交通協議会地域別ワーキンググループ（伊勢志摩地域）で関係市町と情報共有を実施（直近 R6.8.22 開催）

目標② コミュニティバスの運行継続・改善

目標	施策実施状況
(1)おかげバス、おかげバスデマンドの運行維持・改善	バスの乗り方教室、バスポスタークール開催、伊勢まつりでの出展、GTFS リアルタイムの導入、おかげバス 1 日乗車券デジタルチケットの販売などを実施 R2 年度におかげバス、おかげバスデマンド（7 路線）の再編を実施（※2） R5 年 10 月環状線のダイヤ変更・バス停新設、R6 年 4 月辻久留・藤里線のダイヤ変更など適宜実施
(2)市内環状バスの運行維持・改善	ホームページでダイヤ変更や時刻表・路線図、おでかけ乗車券の情報などを発信 おかげバス環状線乗り継ぎ割引の実施（金銭的負荷の軽減）
(3)地域主体の自家用有償旅客運送の運行維持・改善	R2 年度に沼木バスの再編を実施し、利用が少ないバス停を結ぶ系統については、沼木バスデマンドとして分離
(4)地域が自ら検討し運営する地域交通の導入	R2 年 8 月より進修おでかけタクシーの運行開始（修道地区は運行開始に向け検討中） R2 年 6 月より「地域運営乗合タクシー運行事業補助金」を導入
(5)IC カードの導入による利便性向上	R3 年 9 月より全国交通系 IC カード、三重交通 IC カード（エミカ）を導入、利用者は料金 1 割引き
(6)地域や施設との連携による利用促進	「おかげバスええとこめぐり」を実施（伊勢市二十歳のつどい実行委員会・有志団体） 伊勢まつり出展

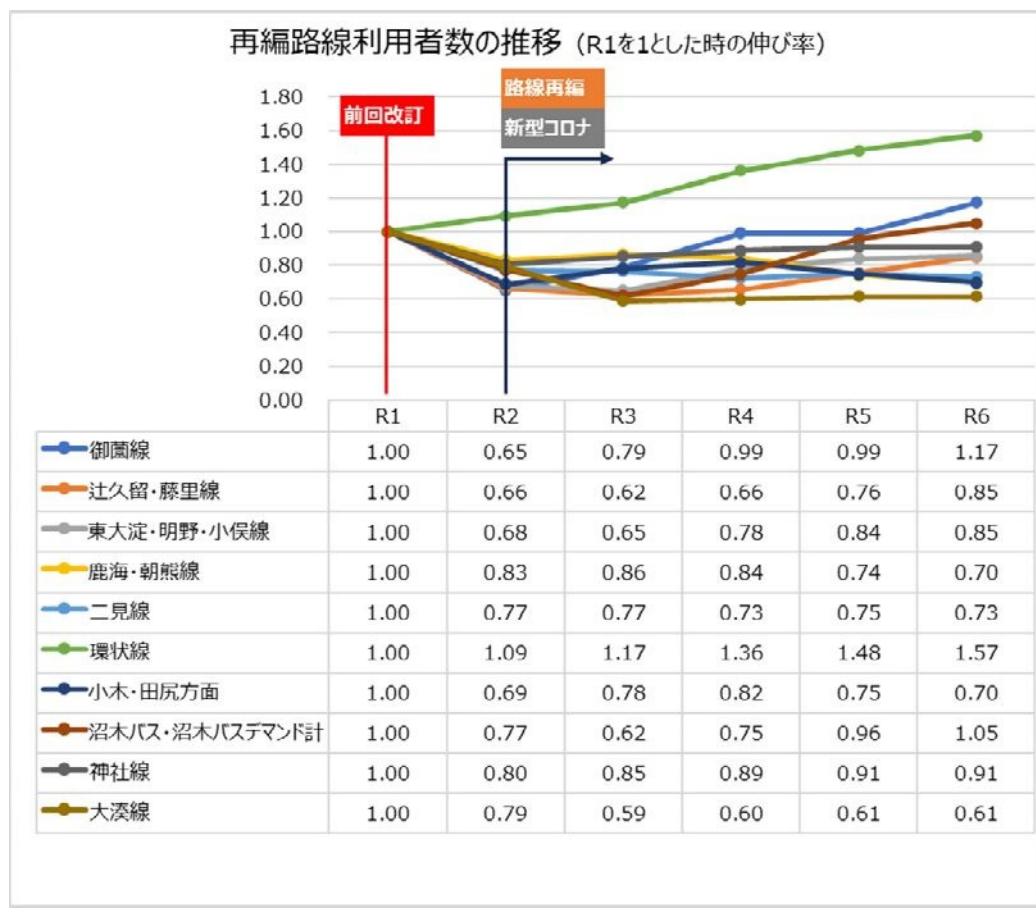
目標③ 公共交通の利便性向上

目標	施策実施状況
(1)乗継割引制度の継続	おかげバス環状線乗り継ぎ割引（おかげバス環状線 ⇄ 路線バス・おかげバス（デマンド含む）・鉄道・地域運営乗合タクシーを乗り継ぐと、おかげバス環状線の運賃が 100 円割引）を実施（※3） 「観光 MaaS を活用した地域周遊促進モデルの実証事業」を実施（伊勢まちづくり（株））
(2)「公共交通ネットワーク見える化」事業の推進	R6 年 10 月より GTFS リアルタイムを導入し、Google 検索から実際の運行状況を反映した経路検索が可能となった

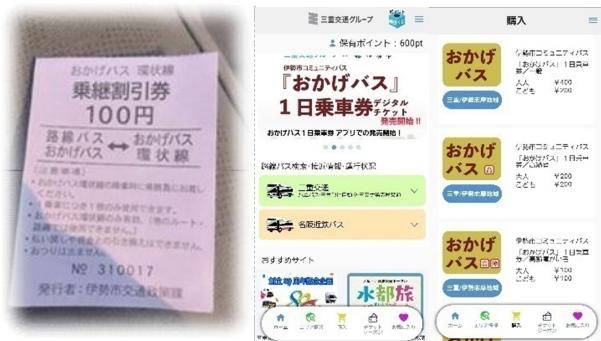
目標	施策実施状況
(3)バスロケーションシステムの導入	R2年11月より三重交通バスロケーションシステム「Bus-Vision」の運用を開始
(4)バス停環境の改善	R2年に「ミタス伊勢北」の上下線、「伊勢図書館」の上下線、「市役所正面」の法務局側の上屋を整備 R3年に「ララパーク」の店側の上屋を整備(費用は三重交通と1/2ずつ負担) 「外宮前」のバスロケ、料金案内を整備 「内宮前」「伊勢市駅前」「宇治山田駅前」「五十鈴川駅前」は上屋、バスロケ、バス乗場案内を整備
(5)わかりやすい公共交通利用環境への改善	GTFSリアルタイムの導入、伊勢市公式LINEアカウントによるチャットボットの「公共交通案内」を導入(※4)

■再編路線の利用者数の推移について(※1、※2)

- ・R2年3月の計画策定以降、再編を行った路線のうち、環状線の利用者数は毎年増加傾向にあります。その他の路線は新型コロナウィルス感染症拡大時に大きく落ち込んだのち、「鹿海・朝熊線」をのぞき横ばい～微増傾向となっています。
- ・R3年から利用者が減少し続けている「鹿海・朝熊線」については、地域との意見交換を行い、利用者が使いやすいダイヤや、バス停の位置の見直しなどを検討する必要があります。



■乗継割引制度の継続（※3）



▲おかげバス環状
線乗継割引券

▲おかげバス 1日乗車券
デジタルチケット

■わかりやすい公共交通利用環境への改善（※4）

公共交通の案内チャットボット「公共交通案内」をLINEで!!

バスや電車の時刻表などを調べられるチャットボット「公共交通案内」がLINEで利用できるようになりました。

[利用手順]

- 伊勢市LINE公式アカウントから、「公共交通案内」を選択

- 調べたい項目を選ぶ

- 画面の案内に従って進む
(例) 公共交通時刻表⇒バス時刻表⇒おかげバス⇒環状線

▲LINE アカウントからの公共交通案内

基本方針 2 公共交通を利用した観光交流人口の増加を目指す

目標① 公共交通を利用した観光振興の推進

目標	施策実施状況
(1)観光施設との連携による公共交通の利用促進	さわやかウォーキングのイベントで啓発活動を実施 R4年9月より松阪駅～賢島駅間のサイクルトレインを本格実施
(2)観光交通軸での連節バス運行による利用促進	R2年12月よりハイブリッド連節バス「神都ライナー」を導入
(3)多様な交通手段の組み合わせによる公共交通の利用促進	ゴールデンウィーク、初参りなどの大型連休時にパークアンドバースライド(シャトルバス運行)を実施(年10日程度) 主要観光施設と鉄道、路線バスを案内する「7カ国8言語マップ」を作成 R4年から駅周辺に民間のシェアサイクルポートを設置 伊勢市公共交通総合時刻表において市内の鉄道駅の時刻表と主要なバス停のバス時刻表を掲載 R5年度「観光地における夜間のタクシー増車配備の実証事業」を実施 R6年度「伊勢市「日本版ライドシェア」実証事業」を実施 R5年よりおでかけ乗車券のタクシー利用を開始
(4)企画きっぷによる利用促進	「観光型MaaS(ぶらりすと)」による企画きっぷの販売、クーポン発行による周遊促進 まわりゃんせ、デジタルまわりゃんせ、伊勢鳥羽みちくさきっぷ、デジタル伊勢鳥羽みちくさきっぷ、みちくさきっぷ、デジタルみちくさきっぷを販売 R6年1月からJALMaaS(セントレアから高速船と貸切タクシーで伊勢市内へ)「観光型MaaS(ぶらりすと)」の運用開始
(5)マイカー観光から公共交通観光への転換促進	らくらく伊勢もうでホームページに公共交通でのアクセス方法を公開 R6年2月に、「公共交通でゆく 神宮125社めぐり帖」のコンテンツを立ち上げ、二見エリアを公開
(6)電気自動車等の活用による公共交通の利用促進	R5年4月からおかげバスで2台の小型電気バス(みえ応援ポケモンの「ミジユマル」をラッピング)を導入

■観光交通軸での連節バス運行による利用促進



資料:三重交通ホームページ

基本方針 3 地域の関係者が協働・連携しながら自ら公共交通を支える

目標① 利用するきっかけの創出

目標	施策実施状況
(1)公共交通の利便性、実用性等の情報発信	バスポスタークール、バスの乗り方教室、伊勢まつりへの出展等を実施 時刻情報提供サイトでの情報提供、GTFSリアルタイムの導入
(2)クルマと公共交通のかしこい使い方の周知とその支援	バスの乗り方教室、時刻表の無料配布
(3)高齢者等の外出機会の増進	運転免許返納割引定期券“セーフティーパス”、運転免許返納割引(三重交通) 寿バス券を配布(~R4年度まで) R5年度からおでかけ乗車券(名称変更)を配布、タクシーへの利用を開始
(4)みえエコ通勤デーによる利用促進	H27年10月よりノンステップバスを導入 毎週水曜日「みえエコ通勤デー」に協力(三重交通) ノーマイカーウィーク(各月第3週目)の実施

目標② わかりやすい情報提供の展開

目標	施策実施状況
(1)時刻表の発行	市内の全世帯に毎年無料で配布
(2)広報誌や市ホームページ等多様な媒体による情報提供	ホームページ、広報誌などを活用した周知を継続 GTFSリアルタイムの導入によりスマートフォン、パソコンからバスの運行状況を確認可能に

目標③ 公共交通を地域で支え、育てる

目標	施策実施状況
(1)地域公共交通会議の活用	R1年度以降、3~4回/年実施 各会議の要旨、資料をホームページで公表
(2)地域意見交換会の実施	沼木バス委員会への出席(2回/年)等
(3)広告協賛金事業等多様な収入源の確保	コミュニティバスのバス停副名称のネーミングライツ実施 バス停副名称のネーミングライツ協賛企業の伊勢市公共交通総合時刻表への広告掲載の実施

■近年の取組

①自動運転バスの実証実験

- ・R6年11月30日～12月13日に、市営浦田B2駐車場～宇治橋前ロータリー間で自動運転の実証実験を実施しました。
- ・バスにはお伊勢さん観光案内人が同乗し、片道約15分の乗車時間中に伊勢や神宮にまつわる話をして乗客を楽しませました。
- ・自動運転は、乗務員不足が課題となっている中、新たな公共交通としての役割が期待されています。



②日本版ライドシェアの実証実験

- ・R6年12月5日～R7年3月1日の期間、日本版ライドシェアの実証実験を行いました。
- ・日本版ライドシェアとは、タクシーが不足している地域や時間帯において、タクシーの代わりに一般の人が自家用車等を活用して有償で送迎を行うサービスです。



③公共交通でゆく 神宮125社めぐり帖

- ・公共交通の利用促進を図るため、レンタサイクルやシェアサイクルを含む公共交通機関と、徒歩を組み合わせてめぐる神宮125社のモデルコースをエリアごとに設定し、ホームページなどで発信する取り組みをR7年2月より開始しました。



4 公共交通の目指す姿

4-1 公共交通の課題

本市では前ページまでに整理したように、公共交通を将来にわたって確保、維持していくために利用促進に向けた様々な取り組みを行ってきましたが、新型コロナウィルス感染症の影響などもあり、設定した目標が未達成のものもある状況です。

また、公共交通網の人口カバー率や施設カバー率が高いにもかかわらず、鉄道や路線バスの利用者数はコロナ禍以前の水準を下回っており、市民の公共交通に対する満足度や観光客の移動・交通に対する満足度が低迷していることから、「公共交通がうまく利用されていない」という実態が見えてきます。

このほか、R15年に第63回式年遷宮を迎えるにあたり、多くの方の来訪が想定されるなか、観光交通の充実が求められることや、少子高齢化、人口減少、バス・タクシーの運転士不足など、公共交通を取り巻く環境の変化による課題もあります。

このような公共交通の現状等を踏まえて、本市の公共交通の課題を以下のとおり整理します。

課題①	地域の実情やニーズに応じた、使いやすく利便性のある路線への再編とその維持が必要である。
課題②	公共交通をうまく利用してもらうために、利用促進のための啓発・情報発信やニーズの把握、わかりやすい乗車案内を進めていく必要がある。
課題③	R15年の第63回式年遷宮に向けて、二次交通を含む観光交通の更なる充実や、外国人も含めた観光客の公共交通の利用を促進する取り組みが必要である。
課題④	地域交通の担い手を確保し、持続性のある公共交通のあり方を交通事業者や地域の人と共に考え、実践する必要がある。

4-2 公共交通の目指す姿

4-2-1 まちづくりの主要課題

「第3次 伊勢市総合計画(基本構想)」では、まちづくりの課題として、①子どもを産み育てやすい環境づくり、②超高齢社会への対応、③地域のつながりの再生、④集約型都市構造の促進と公共交通体系の整備、⑤選ばれるまちづくりがあげられています。

これらの課題に対して、公共交通では以下の役割が求められます。

まちづくりの課題	公共交通での対応
子どもを産み育てやすい環境づくり	子育て世代や学生のニーズに即した公共交通網の整備
	子育て世代が利用しやすい公共交通環境の整備
超高齢社会への対応	高齢者ニーズに即した公共交通網の整備
	高齢者が利用しやすい公共交通環境の整備
地域のつながりの再生	地域で考え、地域のニーズにあった公共交通の確保
集約型都市構造の促進と公共交通体系の整備	公共交通の運行維持
	地区内・地区間における回遊性の向上
	移動ニーズの把握による移動手段への不安解消
選ばれるまちづくり	子育て支援や教育環境の充実につながる公共交通網の確保
	住民に加え、観光客が何度も「訪れたい」と思えるまちづくり推進のため、観光施設と公共交通網の連携強化

4-2-2 将来像と基本理念

本市の公共交通の現状や、総合計画等を踏まえて、本計画の目指す将来像を次のとおり設定します。

目指す 将来像	行きたい時に、行きたい場所へ、 住む人と訪れる人の自由な移動を叶える地域公共交通
------------	---

また、将来像の実現に向け、以下の基本理念のもと、事業を推進します。

基本 理念	私たちで「創り」「活かし」「楽しみ」「育てる」 持続可能な地域公共交通網の構築
----------	--

4-2-3 基本方針

本計画が目指す将来像や基本理念を実現するために、4つの基本方針を定め、事業の推進を図ります。

基本方針 1	創る ～持続可能な公共交通を創って、人と環境に優しい伊勢を実現する～
--------	---------------------------------------

- ・ 鉄道やバス、タクシーなど様々な公共交通の連携を図り、地域ニーズにあった円滑で利便性の高い公共交通網を形成します。
- ・ SDGsの実現やドライバー不足解消に向け、次世代交通の導入に向けた取組を継続します。

基本方針 2	活かす ～公共交通を利用して気がねなくおでかけできる、楽しい伊勢を実現する～
--------	---

- ・ 地域イベントとも連携した広報やわかりやすい乗車案内、料金負担軽減策等を通じて、これまで公共交通を利用する機会のなかつた方にも利用してもらえるよう、公共交通が使いやすい環境を形成します。

基本方針 3	楽しむ ～公共交通利用によって観光も生活も充実する伊勢を実現する～
--------	--------------------------------------

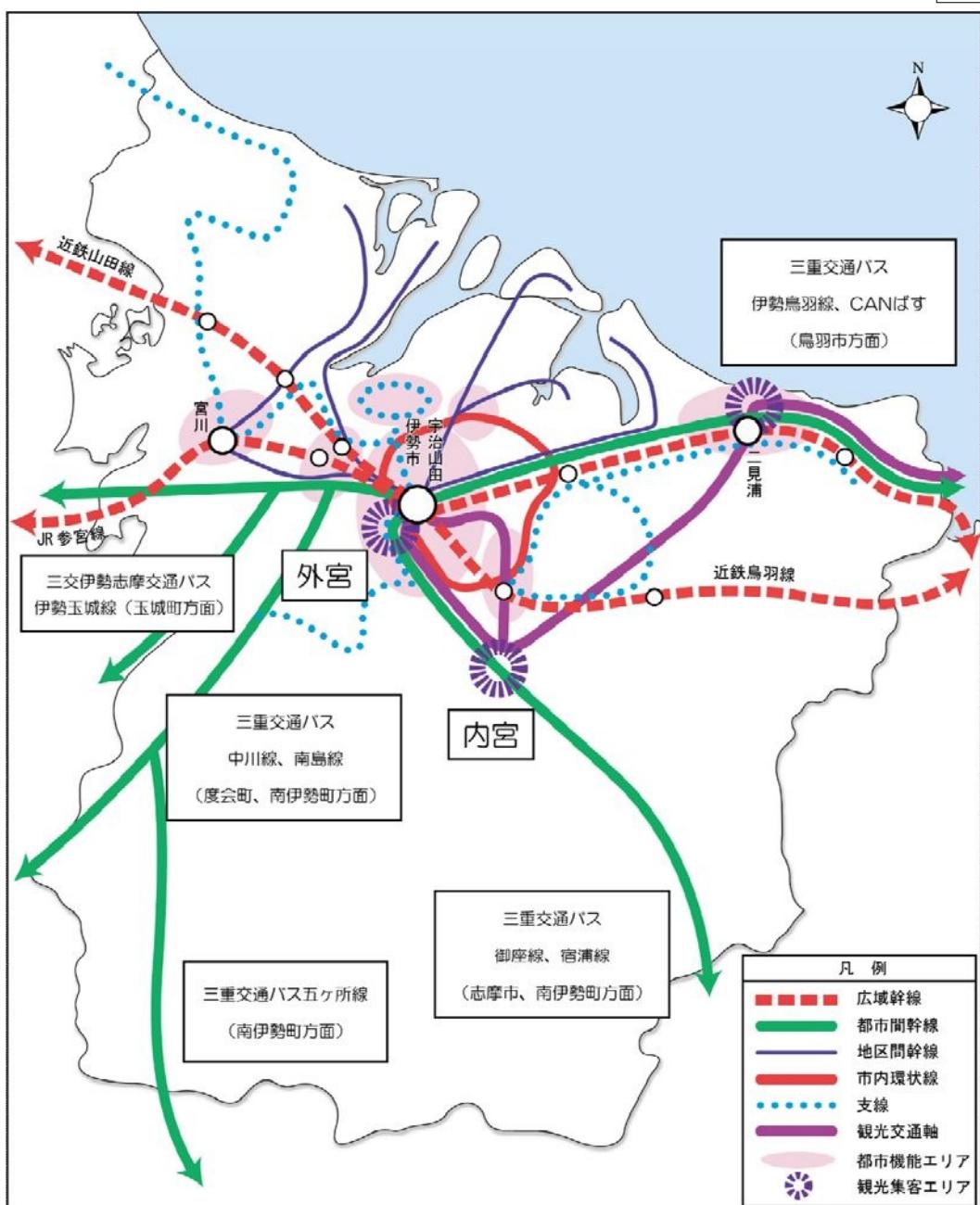
- ・ 第63回式年遷宮に向けた交通環境の整備、MaaSへの取組などを通じて、マイカーによる「ショートカット観光」から公共交通による「地域を味わう観光」への転換を進めます。
- ・ 飲食店や商業施設への移動など、住民が快適に外出できる公共交通網を形成し、回遊性の高い地域づくりを目指します。

基本方針 4	育てる ～みんなで考え、地域で公共交通を支える伊勢を実現する～
--------	------------------------------------

- ・ 持続可能な公共交通を実現するため、市、交通事業者、住民の方々が一体となって公共交通を考える環境づくりを進めます。

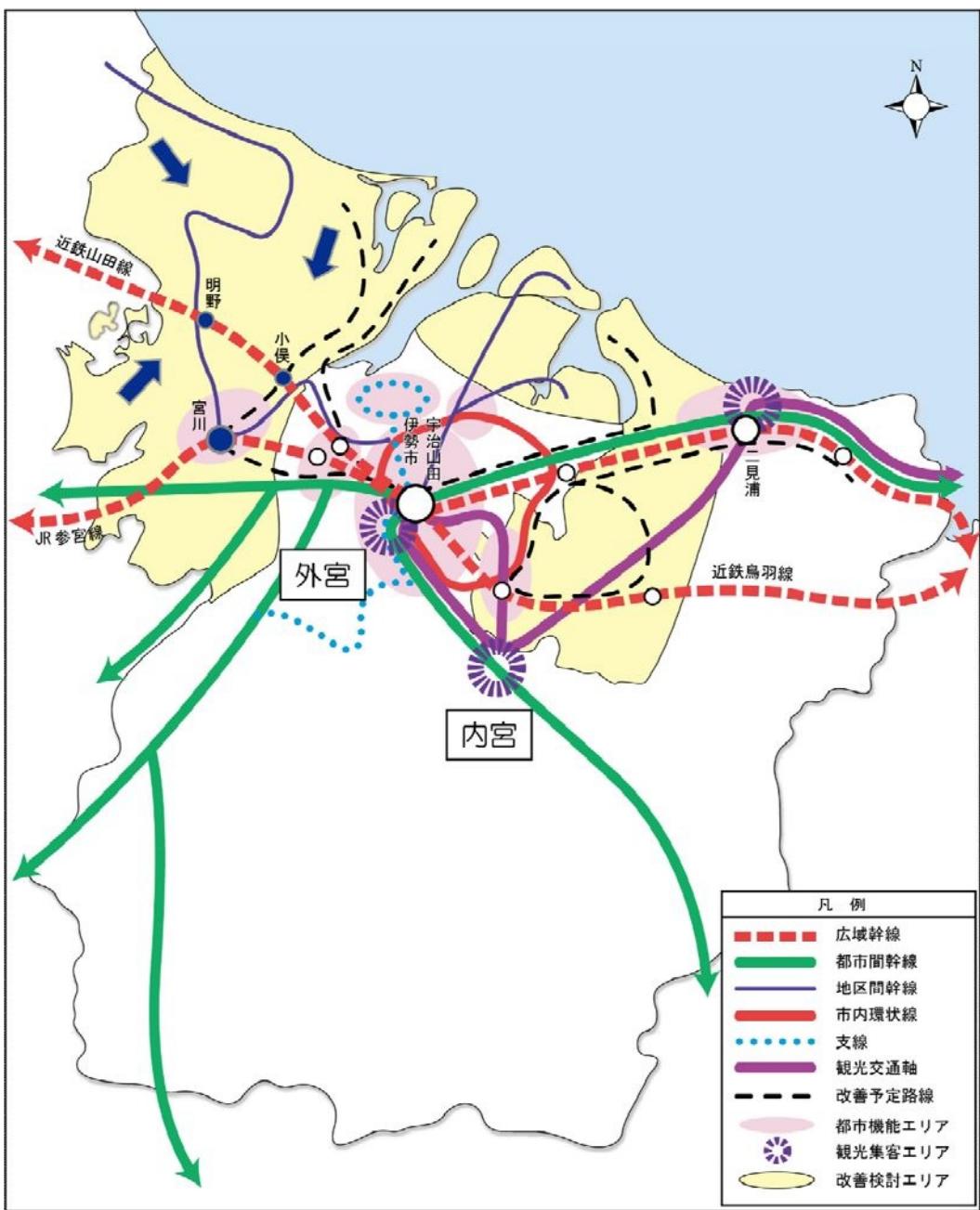
4-2-3 伊勢市地域公共交通体系のイメージ

現況



広域幹線	本市と市外・県外など広域的な移動を支える鉄道
都市間幹線	本市と周辺市町など比較的広域的な移動を支えるバス路線
地区間幹線	都市間幹線を補完し、市内各地区間の移動を支えるバス路線 ※土路今一色線は「地域旅客運送サービス継続事業」に位置づけ、運行を継続
市内環状線	各幹線と支線等を結び、主に本市の中心部を環状に運行するバス路線
支線	地区間幹線を補完し、周辺地区間や地区外の最寄り駅など比較的小さな範囲の日常の生活圏の移動を担うバス路線
観光交通軸	伊勢市駅・宇治山田駅と観光集客エリアを結ぶバス路線
都市機能エリア	伊勢市立地適正化計画において都市機能区域として位置づけられている区域
観光集客エリア	観光入込客数が多く、伊勢市都市マスターplanにおいて豊かな自然と歴史文化を伝える拠点として位置づけられている区域

5年後



改善検討エリア バス利用者が減少し、運行の改善を検討する必要がある区域

利用者が減少しているおかげバス(鹿海・朝熊線、二見線)やおかげバスデマンドについては、地域との対話を通じてニーズを把握し、ニーズにあった運行路線、運行時間、バス停位置などを検討し、運行の改善を図ります。

また、利用者の減少や運転手不足により都市間幹線や地区間幹線等の路線バスの廃止が検討される地域については、多様な選択肢を提供しながら新たな移動手段について検討します。

下表の路線については、地域公共交通確保維持事業により、国や県の補助を活用して引き続き運行を維持していきます。

地域間幹線系統路線(事業主体:三重交通(株)・三交伊勢志摩交通(株))

位置づけ	路線名	運行 態様	運行区間		
			起点	主な経由地	終点
都市間幹線	(31)南島線	路線定期運行	伊勢市駅前	大倉うぐいす台、中村	南島道方
	(25、26)中川線		伊勢市駅前	度会橋	度会町役場前
	(24)伊勢玉城線		伊勢市駅前	度会橋、上地／掛橋、田丸駅前	田丸城跡 (玉城町役場前)
	(60、62)御座線		伊勢市駅前	磯部バスセンター、鵜方駅前	御座港
	(70)宿浦線		伊勢市駅前	磯部バスセンター、鵜方駅前	宿浦
	(80)五ヶ所線		宇治山田駅前	上野	五ヶ所バスセンター

※伊勢玉城線のみ三交伊勢志摩交通(株)が運行

下表の路線については、地域公共交通確保維持事業(フィーダー系統)により、国の補助を活用して引き続き運行を維持していきます。

地域内フィーダー系統路線(事業主体:伊勢市)

位置 づけ	路線名	運行 態様	運行区間		
			起点	主な経由地	終点
市内 環状線 支線	おかげバス	路線定期運行	伊勢市駅前	伊勢赤十字病院、伊勢病院前	伊勢市駅前
			大倉うぐいす台	伊勢やすらぎ公園、ベリー藤里店、勢田町	伊勢市役所正面
			いせトピア	朝熊町	いせトピア
			松下広場	プライスカット伊勢二見店、浜郷小学校前	五十鈴川駅前
			伊勢赤十字病院	近鉄明野駅前、三重八ートセンター	山大淀
地区間 幹線	沼木バス		床ノ木	横輪口、沼木神社北	神薗
			床ノ木	横輪口、津村	度会町役場前

※は改善予定路線として、地域内フィーダー系統路線としての運行を維持しつつ、改善を進めていく予定の路線

下表の路線については、利用の減少が大きいことから、計画期間の 5 年で特に改善を検討することとし、適切な方法で公共交通を維持していく予定の路線です。

改善予定路線(事業主体:伊勢市、三重交通等の運行事業者)

現況の位置づけ	路線名	運行態様	運行区間		
			起点	主な経由地	終点
地区間幹線	有滝線 土路今一色線 ※	路線定期運行	イオン伊勢店	いせトピア・伊勢学園前、伊勢市駅前、小俣	有滝
			土路	宮町駅口、伊勢市駅前、宇治山田駅前、通り口	今一色
支線	(7)鹿海・朝熊線 (8)二見線	おかげバス	いせトピア	朝熊町	いせトピア
			松下広場	プライスカット伊勢二見店、浜郷小学校前	五十鈴川駅前

※土路今一色線は、「地域旅客運送サービス継続事業」に位置付け、運行を継続する。

以下の路線は、地域住民にとって必要不可欠な路線であり、地域公共交通確保維持事業により運行を確保・維持する必要がある。

各路線の補助事業の必要性

路線名	当該系統の必要性
(31)南島線	・県道伊勢南島線沿いや沼木地区の住民にとって中心市街地への交通手段として重要な役割を担う。 ・沿線の小学校(佐八小学校、中島小学校)への通学利用、小学校及び高等学校への通学や地域住民の通院利用。
(25、26)中川線	・県道伊勢大宮線沿い(城田地区)の住民にとって中心市街地への交通手段として重要な役割を担う。 ・沿線に立地する高等学校への通学や病院への通院利用。
(24)伊勢玉城線	・小俣地区、城田地区の住民にとって中心市街地や MEGA ドン・キホーテなど商業施設への交通手段を担う。 ・沿線住民の通勤や沿線に立地する病院への通院、中心市街地への買物、観光地へのレジャー等の利用。
(60、62)御座線	・伊勢市内や志摩方面から中心市街地や市内の高等学校への通学及び伊勢赤十字病院に通院するための交通手段として重要な役割を担う。
(70)宿浦線	・志摩方面から中心市街地や市内の高等学校への通学及び伊勢赤十字病院に通院するための交通手段として重要な役割を担う。
(80)五ヶ所線	・県道伊勢南島線沿いや沼木地区の住民にとっては、中心市街地への交通手段として重要な役割を担う。 ・沿線の小学校(佐八小学校、中島小学校)への通学利用。 ・沿線に立地する小学校の児童や高等学校の生徒の通学等の利用。
おかげバス環状線	・市内の各幹線や支線等、かつ、地域の生活拠点である商業施設、医療施設及び公共施設等を結び、地域内の移動を担う路線、幹線を補完。 ・市や運行事業者の運営努力だけでは路線の維持が困難。
おかげバス (2)辻久留・藤里線	・伊勢市大倉町、辻久留町、前山町、旭町、藤里町、勢田町鷹泊・千寿台団地から鉄道駅(宇治山田駅、伊勢市駅)、公共施設(伊勢市役所、三重県伊勢庁舎等)、藤里町の個人医院への通院、商業施設等への移動手段のほか、令和 6 年 5 月に廃止となった無料送迎バスに代わる、鉄道駅から「伊勢やすらぎ公園」へのアクセス手段となる。

路線名	当該系統の必要性
おかげバス (7)鹿海・朝熊線	<ul style="list-style-type: none"> 市や運行事業者の運営努力だけでは路線の維持が困難。
おかげバス (8)二見線	<ul style="list-style-type: none"> 伊勢市朝熊町、一宇田町、鹿海町等からの四郷小学校への通学、伊勢総合病院への通院、近鉄五十鈴川駅、商業施設、公共施設(生涯学習センター)等への移動手段となる。 市や運行事業者の運営努力だけでは路線の維持が困難。 利用者数が減少傾向であるため、路線の改善を予定。
おかげバス(10)東大淀・明野・小俣線	<ul style="list-style-type: none"> 伊勢市二見町地区からの伊勢総合病院への通院、近鉄五十鈴川駅、商業施設、公共施設(生涯学習センター)等への移動手段となる。 市や運行事業者の運営努力だけでは路線の維持が困難。 利用者数が減少傾向であるため、路線の改善を予定。
沼木バス 市内連絡用(1)/市内連絡・買物用(1)	<ul style="list-style-type: none"> 明和町大淀地区、伊勢市東大淀町、村松町、小俣町明野地区、野村町等からの鉄道駅(近鉄明野駅・JR宮川駅)、公共施設(小俣郵便局・小俣図書館・小俣総合支所等)、伊勢赤十字病院、小俣町中心部、明和町大淀地区的個人医院への通院、商業施設等への移動手段となる。 市や運行事業者の運営努力だけでは路線の維持が困難。

下表の路線は、市や事業者が互いに情報共有等の連携をしつつ、それぞれの事業主体によつて運行する路線です。

その他の路線(事業主体:伊勢市、三重交通等の運行事業者)

位置づけ	路線名	運行態様	運行区間		
			起点	主な経由地	終点
広域幹線	JR 参宮線 近鉄山田線 近鉄鳥羽線	定期運行	多気駅	伊勢市駅、二見浦駅	鳥羽駅
			伊勢中川駅	松阪駅、伊勢市駅	宇治山田駅
			宇治山田駅	五十鈴川駅	鳥羽駅
都市間幹線	(41)伊勢鳥羽線	定期路線運行	伊勢市駅前	宇治山田駅前、夫婦岩東口	鳥羽バスセンター
地区間幹線	(01、02、07、08) 伊勢市内線 (03)大湊線 (04)神社線	路線定期運行	大倉うぐいす台/ 伊勢赤十字病院	伊勢市駅前、宇治山田駅前、古市/山商口/松尾観音	浦田町/内宮前
			伊勢市駅前	桧尻(、ララパーク)	大湊
			伊勢市駅前	桧尻、ララパーク	一色町
支線	おかげバス	路線定期運行	伊勢市駅前	伊勢赤十字病院、ララパーク、ハートプラザみその	伊勢赤十字病院
	沼木バス		床ノ木		横輪口
	市内連絡用(2)		床ノ木	横輪口	津村口
	市内連絡用(3) 南伊勢高校度会校舎前連絡		川口		南伊勢高校度会校舎前
観光交通軸	(44)二見サンアリーナ線 (51、55)外宮内宮線 CAN ばす	路線定期運行	五十鈴川駅前	サンアリーナ、光の街	夫婦岩東口
			内宮前	神宮徵古館前/庁舎前、外宮前	内宮前
			宇治山田駅前	内宮前、夫婦岩東口・伊勢シーパラダイス前、鳥羽水族館・ミキモト真珠島	鳥羽シーサイドホテル
	参宮バス		近鉄五十鈴川駅	浦田町、金剛證寺	山上広苑

上記の表のほか、地区内または隣接地区同士の商業施設や公共施設等を連絡する予約制のデマンド交通として、伊勢市が事業主体で「おかげバスデマンド(小俣・粟野方面、御園・小木・田尻方面)」と「沼木バスデマンド」を、進修地区ではまちづくりの会が事業主体で「進修おでかけタクシー」を運行しています。

5 計画目標と実施事業

4つの基本方針にそって具体的な目標を定め、官民連携して事業を推進していきます。また、目標ごとに具体的な数値目標を設定し、達成状況を評価していきます。なお、本市の公共交通の現状を踏まえ、特に重点的に取り組むべき5つの目標を「重点目標」として設定しました。

5-1 基本方針1 創る

基本方針1

創る

～持続可能な公共交通を創って、人と環境に優しい伊勢を実現する～

目標① 路線網の維持・改善

重点目標

- (1)路線の維持・改善
- (2)ダイヤ調整
- (3)交通空白の解消
- (4)周辺市町との連携強化
- (5)運賃体系の見直し

目標② 周辺環境の改善

- (1)わかりやすい案内環境の整備
- (2)バス待ち環境の改善

目標③ 次世代公共交通の導入

重点目標

基本方針1の重点目標の1つ目は「路線網の維持・改善」です。地域の実情やニーズに応じた使いやすく利便性のある路線へと再編し、その維持に努めます。また、今後県立高校の統廃合や、「高等学校等修学支援金制度（高校無償化）」の導入等の社会背景の変化により、公共交通に対する地域ニーズが異なってくることが想定されます。必要なタイミングでニーズを把握し、その時のニーズに応じた利用しやすい公共交通を目指します。また、近年の入件費や物価の高騰を踏まえた運賃体系の見直しについても検討します。

2つ目は「次世代公共交通の導入」です。ドライバー不足解消のため自動運転の本格導入に向けた取組の推進や、大量輸送を可能とする連節バスの導入、環境負荷低減に繋がる小型電気バスの導入などに引き続き取り組みます。

5-1-1 目標①の達成に向けた実施事業

目標① 路線網の維持・改善

重点目標

- (1)路線の維持・改善
- (2)ダイヤ調整
- (3)交通空白の解消
- (4)周辺市町との連携強化
- (5)運賃体系の見直し

本目標の達成のためには、市と交通事業者が連携し、適切な役割分担のもとで、地域ニーズにあった路線再編やダイヤ調整を行っていく必要があります。予約制のデマンド交通については、電話以外での予約方法への対応や予約時間の改善等を検討します。特に、利用者が減少している宮川左岸のおかげバスデマンドや鹿海・朝熊線、有滝線、土路今一色線、二見線などの路線や運行ダイヤの見直し、地域ニーズの高い場所へのバス停の設置に取り組みます。

また、2つの重点目標に加えて「交通空白の解消」を重点事業とし、特に積極的に取り組んでいきます。本市ではバス停や駅から300m圏外となる地理的な交通空白と、夜間の移動手段が

少ないという時間的な交通空白が存在します。また、将来のドライバー不足によって新たな交通空白が生じる可能性があります。これらの交通空白の解消に向けて、路線網の改善に加え、ドライバー確保に向けた取組推進、夜間のタクシー不足解消に向けたライドシェアの継続など市、交通事業者、地域が連携して対策を進めています。

なお、市内を走行するバス路線の一部は周辺市町へも接続していることから、利用促進に向けて周辺地町とより一層の連携強化を図ります。

実施事業	
(1)路線の維持・改善	1)市と交通事業者が連携し、適正な役割分担のもとで、地域ニーズにあった路線再編を実施 2)路線バスの運行維持・改善 3)おかげバス・おかげバスデマンドの運行維持・改善 4)おかげバス環状線の運行維持・改善
(2)ダイヤ調整	1)ICカード利用履歴等のモビリティ・データを活用したダイヤ調整 2)おかげバス、路線バス、鉄道が連携した乗り継ぎ利便性を確保
(3)交通空白の解消	1)交通事業者が連携し交通空白地帯の解消に向けた取組を推進 2)市、交通事業者、地域が連携した地域交通の導入・維持・改善
(4)周辺市町との連携強化	1)周辺市域と連携した、より効果的なバス路線の構築
(5)運賃体系の見直し	1)社会情勢に合わせた運賃体系の見直し 2)使いやすい定期券制度・内容の構築

5-1-2 目標①に関する事業の実施主体とスケジュール

(1) 路線の維持・改善

■実施主体:伊勢市、バス事業者、地域

■実施スケジュール

事業	実施スケジュール				
	R8	R9	R10	R11	R12
1)地域ニーズにあった路線再編		調査・再編内容検討		本格運行	
2)路線バスの運行維持・改善		調査・再編内容検討		本格運行	
3)おかげバス・おかげバスデマンドの運行維持・改善		調査・再編内容検討		本格運行	
4)おかげバス環状線の運行維持・改善			継続的なモニタリングと運行内容改善		

(2) ダイヤ調整

■実施主体:伊勢市、交通事業者

■実施スケジュール

事業	実施スケジュール				
	R8	R9	R10	R11	R12
1)ICカード利用履歴等のモビリティ・データを活用したダイヤ調整		履歴調査		ダイヤ調整	
2)乗り継ぎ利便性の確保		対策の検討			

(3) 交通空白の解消

■実施主体:伊勢市、交通事業者、周辺市町、地域

■実施スケジュール

事業	実施スケジュール				
	R8	R9	R10	R11	R12
1)交通事業者が連携した取組の推進	課題共有	内容検討		実施	
2)市、事業者、地域が連携した地域交通の導入・維持	課題共有	内容検討		実施	

(4) 周辺市町との連携強化

■実施主体:伊勢市、周辺市町、バス事業者

■実施スケジュール

事業	実施スケジュール				
	R8	R9	R10	R11	R12
1)周辺市町との連携強化		継続的な協議と連携策推進			

(5) 運賃体系の見直し

■実施主体:伊勢市、交通事業者、地域

■実施スケジュール

事業	実施スケジュール				
	R8	R9	R10	R11	R12
1)運賃体系の見直し		検討・協議		導入	
2)使いやすい定期券制度・内容の構築	検討		実施		

目標指標	現況値 (R6 年度)	目標値 (R12 年度)
①観光路線をのぞく路線バスの利用者	113.8 万人	114 万人
②おかげバスの利用者(環状線をのぞく)	65,292 人	70,000 人
③おかげバス環状線の利用者	60,611 人	70,000 人
④おかげバスデマンドの利用者	2,660 人	3,000 人
⑤沼木バスの利用者	2,677 人	2,700 人
⑥沼木バスデマンドの利用者	594 人	650 人
⑦地域運営乗合タクシーの利用者数	198 人	200 人
⑧年間利用者数 72 名未満のコミュニティバス停留所の割合	23%	18%
⑨公的資金投入額	16,192 万円	現状維持
⑩収支率	9.0%	現状維持

5-1-3 目標②の達成に向けた実施事業

目標② 周辺環境の改善

- (1)わかりやすい案内環境の整備
- (2)バス待ち環境の改善

公共交通を利用しやすい環境を創出するため、時間の案内や、場所の案内などわかりやすい案内環境の整備を進めていく必要があります。特に、停留所や行き先表示については、デジタルだけではなくアナログによる案内の充実や、経由する施設や方面を掲示する等の分かりやすい案内の整備を進めています。

また、迷わず乗り継ぎが出来るような案内表示の整備や、季節を問わず快適にバスを待つことのできる環境の整備を進めていきます。

実施事業

(1)わかりやすい案内環境の整備

- 1)バスロケーションシステムを活用した案内サイネージの設置を推進(時間の案内)
- 2)路線バスとコミュニティバスのバス停名統一、鉄道駅や主要バス停までの案内表示を実施(場所の案内)

(2)バス待ち環境の改善

- 1)主要バス停の乗り継ぎ案内表示、上屋・ベンチ等の整備推進

5-1-4 目標②に関する事業の実施主体とスケジュール

(1) わかりやすい案内環境の整備

■実施主体:伊勢市、バス事業者

■実施スケジュール

事業	実施スケジュール				
	R8	R9	R10	R11	R12
1)バスロケーションシステムを活用した案内サイネージ設置		現況調査	→	設置方法検討・設置	
2)わかりやすいバス停環境への改善		内容検討	→	対策実施	

(2) バス待ち環境の改善

■実施主体:伊勢市、バス事業者、道路管理者

■実施スケジュール

事業	実施スケジュール				
	R8	R9	R10	R11	R12
1)主要なバス停の環境改善				対策実施	

目標指標	現況値 (R6 年度)	目標値 (R12 年度)
①公共交通利用満足度	32%	40%
②新たに設置した上屋、ベンチ等の個数	—	10 基

5-1-5 目標③の達成に向けた実施事業

目標③ 次世代公共交通の導入

重点目標

地球規模での温暖化が懸念される中、公共交通においては CO₂ 排出量の削減等に取り組んでいく必要があり、本市では電気バスやハイブリッドバスの導入を進めてきました。今後もこれらの取組をより一層推進するとともに、新たな交通システム導入に向けた研究を実施し、持続可能な公共交通を創っていきます。

また、ドライバー不足が懸念される中、大量輸送が可能な連節バスや自動運転バスの導入、ライドシェアの実施など、様々な運行形態への取組を推進していく必要があります。自動運転バス、ライドシェアについては R6 年度に実証事業を行い、利用者満足度も高かったことから引き続き国や交通事業者、地域の方々と連携して検証を継続していきます。

実施事業

- (1)「小型電気バス」、「ハイブリッド連節バス神都ライナー」の導入促進による、CO₂ の削減推進
- (2)自動運転バスの本格導入に向けた実証実験を実施
- (3)自転車・シェアモビリティと公共交通との連携やグリーンスローモビリティなど、新たな交通システム導入について研究推進

5-1-6 目標③に関する事業の実施主体とスケジュール

■実施主体:伊勢市、交通事業者、国

■実施スケジュール

事業	実施スケジュール				
	R8	R9	R10	R11	R12
1)小型電気バス、ハイブリッド連節バス神都ライナーの導入促進	導入の継続				
2)自動運転バスの導入に向けた実証実験の実施と本格導入	実証・本格導入に向けた取組み				
3)新たな交通システム導入に向けた研究の実施	研究の実施				

目標指標	現況値 (R6 年度)	目標値 (R12 年度)
①電気バス及びハイブリッド連節バスの台数	4 台	維持
②自動運転バスの導入台数	0 台	1 台
③EV バス活用による CO ₂ 削減量	52 トン	58 トン
④環境市域における温室効果ガス排出量	818,000 トン-Co ₂ (R2 年度)	641,000 トン-Co ₂

5-1-7 計画期間中の目標値目安

R12年度の目標達成に向けて、計画期間中の各年度の数値の目安を整理しました。

	現況値	目標値					
		R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	
基本方針1 創る～持続可能な公共交通を創つて、人と環境に優しい伊勢を実現する～							
目標① 路線網の維持・改善 【重点目標】							
観光路線をのぞく路線バスの利用者	1,138,000	1,140,000人	1,140,000人	1,140,000人	1,140,000人	1,140,000人	
おかげバスの利用者（環状線をのぞく）	65,292人	66,000人	67,000人	68,000人	69,000人	70,000人	
おかげバス環状線の利用者	60,611人	62,000人	64,000人	66,000人	68,000人	70,000人	
おかげバスデマンドの利用者	2,660人	2,730人	2,800人	2,870人	2,940人	3,000人	
沼木バスの利用者	2,677人	2,680人	2,680人	2,690人	2,690人	2,700人	
沼木バスデマンドの利用者	594人	610人	620人	630人	640人	650人	
地域運営乗合タクシーの利用者数	198人	190人	190人	195人	195人	200人	
年間利用者数72名未満のコミュニティバス停留所の割合 (減少率)	23%	22%	21%	20%	19%	18%	
公的資金投入額	16,192万円	物価変動を踏まえて現状維持	物価変動を踏まえて現状維持	物価変動を踏まえて現状維持	物価変動を踏まえて現状維持	物価変動を踏まえて現状維持	
収支率	9.0%	物価変動を踏まえて現状維持	物価変動を踏まえて現状維持	物価変動を踏まえて現状維持	物価変動を踏まえて現状維持	物価変動を踏まえて現状維持	
目標② 周辺環境の改善							
公共交通利用満足度	32%	34%	35%	37%	38%	40%	
新たに設置した上屋、ベンチ等の個数	0基	2基	4基	6基	8基	10基	
目標③ 次世代公共交通の導入 【重点目標】							
電気バス及びハイブリッド連節バスの台数	4台	4台	4台	4台	4台	現状維持(4台)	
自動運転バスの導入台数	0台	0台	1台	1台	1台	1台	
EVバス活用によるCO ₂ 削減量	52 t	52 t	56 t	56 t	58 t	58 t	
環境市域における温室効果ガス排出量	818,000t-Co ₂	711,800t-Co ₂	694,100t-Co ₂	676,400t-Co ₂	658,700t-Co ₂	641,000t-Co ₂	

5-2 基本方針 2 活かす

基本方針 2

活かす

～公共交通を利用して気がねなくおでかけできる、楽しい伊勢を実現する～

目標① 利用するきっかけの創出

- (1)公共交通への興味喚起
 - (2)公共交通を利用したお出かけを促進
 - (3)利用促進に向けた料金負担軽減策の推進
- 目標② わかりやすい情報発信による利用促進
- (1)積極的な広報の実施
 - (2)わかりやすい乗車案内

重点目標

基本方針 2 の重点目標は「利用するきっかけの創出」です。多くの方に公共交通を利用していくだけるよう「乗ってみよう」と思っていただけるような啓発・広報を展開するとともに、料金負担軽減策にも引き続き取り組みます。

5-2-1 目標①の達成に向けた実施事業

目標① 利用するきっかけの創出

重点目標

- (1)公共交通への興味喚起
- (2)公共交通利用によるお出かけを促進
- (3)利用促進に向けた料金負担軽減策の推進

重点目標である「利用するきっかけの創出」を実現するための施策の中で、「公共交通への興味喚起」を重点事業とし、特に積極的に取り組んでいきます。これまで「バスの乗り方教室」や「バスポスターコンクールの開催」「伊勢まつりへの出展」、ホームページなどコミュニティバスの利用促進に向けた広報活動を行ってきましたが、今後もこれらの活動を継続するとともに、料金負担軽減策を継続し、これまで公共交通を利用する機会のなかった方にも「利用してみよう」と思っていただけるような取組を推進します。

また、公共交通を利用しない方にその理由を伺うと「運行本数が少ない」「行きたい場所に行けない」という声が聞かれます。「利用してみよう」と思っていただけるよう、利用者ニーズ調査を行い、ニーズに合った路線網の再編を実施します。ニーズ調査は、特に重点的に利用促進を図る対象(子育て世代、高齢者、学生)のニーズや、現在路線バスを利用していない方々のニーズ(潜在ニーズ)を把握するために実施し、公共交通を利用したお出かけができる交通網の構築に取り組みます。

また、料金負担軽減策の推進については、運転免許返納者が公共交通を利用することで、外出機会の増加や健康増進につながる取組について検討します。例えば、三重交通グループのバス路線では運転免許証を自主返納した場合、路線バス運賃が半額になるなどの割引措置があります。これらの割引措置について積極的に周知することで、運転免許証の自主返納を推奨します。あわせて、自主返納を前向きに考えられるよう、返納前からバスに乗る習慣をつけてもらうためのきっかけづくりを進めます。

このほかにも、学生に使いやすい定期券の内容についても検討を行います。

実施事業	
(1)公共交通への興味喚起	
1)バスポスター・コンクール、乗り方教室、伊勢まつりでの利用促進など「楽しさ」を届ける啓発活動の実施	
2)みえ応援ポケモン「ミジュマル」の電気バスを活用した啓発活動の実施	
3)さわやかウォーキングなどのイベント、啓発活動を通じた鉄道利用の促進	
(2)公共交通を利用したお出かけを促進	
1)学生・子育て世代・高齢者の公共交通に対する利用ニーズを調査し、ニーズに合った利用促進策を実施	
2)地域イベントや施設との連携による公共交通の利用促進	
(3)利用促進に向けた料金負担軽減策の推進	
1)セーフティーパスやおでかけ乗車券など多様な交通手段で利用出来る料金負担軽減策を推進	

5-2-2 目標①に関する事業の実施主体とスケジュール

(1) 公共交通への興味喚起

■実施主体:伊勢市、交通事業者、警察、地域

■実施スケジュール

事業	実施スケジュール				
	R8	R9	R10	R11	R12
1)「楽しさ」を届ける啓発活動の実施	内容のブラッシュアップ・継続実施				
2)みえ応援ポケモン電気バスを活用した啓発活動の実施	内容のブラッシュアップ・継続実施				
3)イベント、啓発活動を通じた鉄道利用の促進	継続実施				

(2) 公共交通を利用したお出かけを促進

■実施主体:伊勢市、交通事業者、地域、商業施設・福祉施設

■実施スケジュール

事業	実施スケジュール				
	R8	R9	R10	R11	R12
1)子育て世代、高齢者、学生のニーズ調査と利用促進策実施	調査▶利用促進の実施				
2)イベント、施設との連携による公共交通利用促進	内容の検討▶利用促進の実施				

(3) 利用促進に向けた料金負担軽減策の推進

■実施主体:伊勢市、交通事業者、地域

■実施スケジュール

事業	実施スケジュール				
	R8	R9	R10	R11	R12
1)料金負担軽減策の推進	事業の継続				

目標指標	現況値 (R6 年度)	目標値 (R12 年度)
①ポスター・コンクール応募者	314 人	児童数の 7%
②利用啓発イベント参加者数	986 人	1,100 人
③おでかけ乗車券の利用率	32.6%	40%
④子育て世代、高齢者、高校生・大学生の公共交通満足度 (10 代～30 代・70 代以上の満足度)	36%(R5)	50%

5-2-3 目標②の達成に向けた実施事業

目標② わかりやすい情報発信による利用促進

- (1)積極的な広報の実施
- (2)わかりやすい乗車案内

公共交通を積極的に利用していただくためには、わかりやすい乗車案内が重要です。多様な手段を用いた広報を積極的に実施し、利用しやすい公共交通環境を整えていきます。

実施事業
(1)積極的な広報の実施
1)地域のイベントと連携した公共交通利用促進の広報を実施
2)ホームページや SNS、チラシ配布など多様な媒体を活用した広報を実施
3)周辺市町と情報の共有、連携した周知活動の実施
(2)わかりやすい乗車案内
1)GTFS リアルタイム、LINE アカウントによるチャットボットの公共交通案内、総合時刻表の配布など多様な手段を用いた乗車案内を実施
2)鉄道・バスによるアクセス方法や料金等の周知を実施
3)「三重県内の公共交通ネットワーク見える化」プロジェクトとの連携

5-2-4 目標②に関する事業の実施主体とスケジュール

(1) 積極的な広報の実施

■実施主体:伊勢市、交通事業者、周辺市町、地域

■実施スケジュール

事業	実施スケジュール				
	R8	R9	R10	R11	R12
1)イベントと連携した利用促進広報の実施	内容の検討				実施
2)多様な媒体を活用した広報の実施					実施
3)周辺市町との情報共有、周知活動実施					課題共有、周知活動実施

(2) わかりやすい乗車案内

■実施主体:伊勢市、交通事業者、三重県

■実施スケジュール

事業	実施スケジュール				
	R8	R9	R10	R11	R12
1)多様な手段を用いた乗車案内の実施	定期的な広報の実施				
2)アクセス方法、料金等の周知	※公開型 GIS 整備		周知の実施		
3)「三重県内の公共交通ネットワーク見える化」プロジェクトとの連携	県との連携による情報提供の継続実施				

※市が R8 に導入する公開型 GIS を用いる

目標指標	現況値 (R6 年度)	目標値 (R12 年度)	
		R8年度	R9年度
①伊勢市交通政策課ホームページの PV 数	64,719 件	71,000 件	
②LINE チャットボットの起動回数	5,163 回	6,000 回	
③SNS フォロワー数	0 人	1,000 人	

5-2-5 計画期間中の目標値目安

R12 年度の目標達成に向けて、計画期間中の各年度の数値の目安を整理しました。

	現況値	目標値					
		R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	
基本方針2 活かす ~公共交通を利用して気がねなくおでかけできる、楽しい伊勢を実現する~							
目標① 利用するきっかけの創出【重点目標】							
ポスター・コンクール応募者	314 人			(児童数による)			
(児童数に占める応募者の割合)	5.5%	5.8%	6.1%	6.4%	6.7%	7%	
利用啓発イベント参加者数	986 人	1,010 人	1,030 人	1,050 人	1,070 人	1,100 人	
おでかけ乗車券の利用率	32.6%	34%	35%	36%	37%	40%	
子育て世代、高齢者、高校生・大学生の公共交通満足度（10代～30代・70代以上の満足度）	36%	39%	42%	44%	47%	50%	
目標② わかりやすい情報発信による利用促進							
伊勢市交通政策課ホームページのPV数	64,719 件	66,000 件	67,000 件	69,000 件	70,000 件	71,000 件	
(増加率)		2%増	4%増	6%増	8%増	10%増	
LINEチャットボットの起動回数	5,163 回	5,300 回	5,400 回	5,500 回	5,600 回	6,000 回	
(増加率)		2%増	4%増	6%増	8%増	10%増	
SNSフォロワー数	0 人	200 人	400 人	600 人	800 人	1,000 人	

5-3 基本方針 3 楽しむ

基本方針 3

楽しむ

～公共交通利用によって観光も生活も充実する伊勢を実現する～

目標① 観光客の公共交通利用を増やす

重点目標

目標② 観光満足度を上げ、何度も訪れたいと思える公共交通観光の提案

目標③ 外国人観光客の公共交通の使いやすさ向上

目標④ 住民の快適な外出環境の整備による回遊性の高い地域づくり

基本方針 3 の重点目標は「観光客の公共交通利用を増やす」です。本市では観光施設の約 70%が鉄道駅やバス停から 300m圏内に位置していますが、内宮参拝者の公共交通利用率が 30%未満に留まり、観光客の移動・交通に関する満足度も低い状況です。R15 年の第 63 回式年遷宮に向けて R7 年から様々な行事が開始されるなか、多くの観光客が本市を訪れることが想定されることから、初めて本市を訪れる人でも公共交通を利用する観光を楽しめるような環境づくりを行います。

5-3-1 目標①の達成に向けた実施事業

目標① 観光客の公共交通利用を増やす

重点目標

重点目標である「観光客の公共交通利用を増やす」を実現するための施策の中で、「遷宮に向けた交通環境の整備」と「二次交通の充実」を重点事業とし、特に積極的に取り組んでいきます。

本市は、伊勢神宮御鎮座のまちとして栄えてきた歴史を有し、多くの観光客が訪れています。観光客の方々にも公共交通を利用していただき、市内に点在する観光地を周遊し、より本市での観光を楽しんでいただくことは、公共交通の利用促進に加えて、リピーターの確保など観光振興にも寄与することとなります。

そのため、シェアサイクル等も含めた多様な交通手段の組み合わせによって、駅から観光地へのアクセス性をより向上させるとともに、公共交通の積極的な利用促進を呼びかけていきます。また、市内の店舗や宿泊施設と連携した新たなサービスの展開について検討を進めます。

また、R15 年に予定される第 63 回式年遷宮に向けて、本計画の計画期間中には様々な行事が行われ、多くの人が本市を訪れることが想定されることから、伊勢志摩観光型 MaaS の更なる充実による周遊観光の促進、宿泊施設と店舗を結ぶアクティビティの開発等、公共交通を利用する楽しい伊勢観光を実現します。また、オーバーツーリズム対策として、京都市や鎌倉市、高山市などの他市の事例を研究し、その対応策を検討します。併せて、自動運転技術やライドシェアの実証実験を継続し、地理的・時間的な交通空白の解消を図ることで、移動が楽しくなる交通環境の整備を進めています。

実施事業

- (1)遷宮に向けた交通環境の整備
- (2)シェアサイクル・レンタサイクルなど多様な交通手段の組み合わせによる二次交通の充実
- (3)伊勢志摩観光型 MaaS の取り組み継続による周遊観光の促進
- (4)店舗・宿泊施設と公共交通が連携した新たなサービスの展開
- (5)ゴールデンウィーク・初参り時に、公共交通の積極的な利用を促進

5-3-2 目標①に関する事業の実施主体とスケジュール

■実施主体:伊勢市、交通事業者、観光施設・店舗・宿泊施設、伊勢地域観光交通対策協議会

■実施スケジュール

事業	実施スケジュール				
	R8	R9	R10	R11	R12
1)遷宮に向けた交通環境の整備			関係者との内容検討		整備
2)二次交通の充実		内容検討・対策実施			
3)MaaS の取組継続		継続実施			
4)店舗、宿泊施設と連携した新たなサービス展開	対策検討		連携実施		
5)公共交通の積極的な利用促進		継続実施			

目標指標	現況値 (R6 年度)		目標値 (R12 年度)
①伊勢市観光の満足度(移動・交通)	78.5%		84%
②近鉄、JR 主要駅の乗客数	3,963,644 人		4,900,000 人
③外宮内宮線・CAN ばす・二見サンアリーナ線の利用者数	1,783,300 人		2,318,300 人
④サイクルトレインの利用者数、レンタサイクルの利用台数	サイクルトレイン	157 人／月 (R5)	180 人／月
	レンタサイクル	4,488 台／年 (R4)	6,300 台／年
⑤内宮参拝者の公共交通利用率	26%		35%
⑥「公共交通でゆく 神宮 125 社めぐり帖」ホームページアクセス数	2,000PV		30,500PV

5-3-3 目標②の達成に向けた実施事業

目標② 観光満足度を上げ、何度も訪れたいと思える公共交通観光の提案

「令和6(2024)年伊勢市観光客実態調査報告書」によると、R6年に市内を訪れた観光客の総合満足度は87.4点ですが、移動・交通に関する満足度は78.5点と8つの調査項目の中で最も低い点数となっています。

本市を訪れた方々の移動・交通に関する満足度を向上させ、公共交通を利用する「地域を味わう観光」への転換を促進すべく、モデルルートの提案など情報提供を行います。

実施事業
(1)マイカーによる「ショートカット観光」から、公共交通を利用する「地域を味わう観光」への転換を促進
(2)観光施設へのアクセスを円滑化するため、モデルルートの提案などSNS等による情報提供を実施

5-3-4 目標②に関する事業の実施主体とスケジュール

■実施主体:伊勢市、交通事業者、観光施設

■実施スケジュール

事業	実施スケジュール				
	R8	R9	R10	R11	R12
1)公共交通を利用する「地域を味わう観光」への転換促進			内容検討・実施		
2)モデルルート提案などSNSによる情報提供実施			実施		

5-3-5 目標③の達成に向けた実施事業

目標③ 外国人観光客の公共交通の使いやすさ向上

日本を訪れる外国人旅行者数はR6年に3,687万人と過去最高を記録しました。本市を訪れる外国人旅行者もR6年に約11万人(神宮参拝者数)となり、R1年以降で最高を記録しています。

そのため、本市を訪れる外国人旅行者が快適に公共交通を利用できるよう、多言語表示や多言語案内コンテンツを作成するなど、外国人観光客の公共交通の使いやすさ向上を図っていきます。

実施事業
(1)多言語表示、多言語案内コンテンツの作成等、外国人観光客の公共交通の使いやすさの向上

5-3-6 目標③に関する事業の実施主体とスケジュール

■実施主体:伊勢市、交通事業者

■実施スケジュール

事業	実施スケジュール				
	R8	R9	R10	R11	R12
1)外国人観光客の公共交通の使いやすさ向上		調査・事業実施			

目標指標	現況値 (R6 年度)	目標値 (R12 年度)
①新たに整備する外国人向けの公共交通案内表示、動画、ウェブサイト等のコンテンツ数	0	10

5-3-7 目標④の達成に向けた実施事業

目標④ 住民の快適な外出環境の整備による回遊性の高い地域づくり

通勤や通学、買い物、通院など生活に必要な移動だけでなく、飲食店や近郊の商業施設への移動など、レジャー・娯楽を目的とした移動にも公共交通を利用してもらえるよう、二次交通を含めた交通網を整備するとともに、夜間の移動手段の確保にも取り組みます。

実施事業
1)シェアサイクル・レンタサイクルなど多様な交通手段の組み合わせによる二次交通の充実(再掲)
2)ライドシェアによる夜間の移動手段の確保

5-3-8 目標④に関する事業の実施主体とスケジュール

■実施主体:伊勢市、交通事業者、商業施設、福祉施設、地域

■実施スケジュール

事業	実施スケジュール				
	R8	R9	R10	R11	R12
1) 二次交通の充実（再掲）	内容検討・対策実施				
2) ライドシェアの実施	実証	本格実施			

目標指標	現況値 (R6 年度)		目標値 (R12 年度)
①サイクルトレインの利用者数、レンタサイクルの利用台数(再掲)	サイクルトレイン (R5)	157 人／月	180 人／月
	レンタサイクル (R4)	4,488 台／年	6,300 台／年
②観光路線をのぞく路線バスの利用者(再掲)		113.8 万人	114 万人
③おかげバスの利用者(環状線をのぞく)(再掲)		65,292 人	70,000 人
④おかげバス環状線の利用者(再掲)		60,611 人	70,000 人
⑤おかげバスデマンドの利用者(再掲)		2,660 人	3,000 人
⑥沼木バスの利用者(再掲)		2,677 人	2,700 人

目標指標	現況値 (R6年度)	目標値 (R12年度)
⑦沼木バスデマンドの利用者(再掲)	594人	650人
⑧公共交通利用満足度(再掲)	32%	40%

5-3-9 計画期間中の目標値目安

R12年度の目標達成に向けて、計画期間中の各年度の数値の目安を整理しました。

	現況値	目標値					
		R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	
基本方針3 楽しむ～公共交通利用によって観光も生活も充実する伊勢を実現する～							
目標① 観光客の公共交通利用を増やす【重点目標】							
目標② 観光満足度を上げ、何度も訪ねたいと思える公共交通観光の提案							
伊勢市觀光の満足度	78.5%	80%	81%	82%	83%	84%	
近鉄、JR主要駅の乗客数	3,963,644人	4,151,000人	4,338,000人	4,525,000人	4,712,000人	4,900,000人	
外宮内宮線・CAN ばす・二見サンアリーナ線の利用者数 (増加率)	1,783,300人 10%増	1,961,600人 15%増	2,050,800人 20%増	2,140,000人 25%増	2,229,100人 30%増	2,318,300人	
サイクルトレインの利用者数、レンタサイクルの利用台数							
サイクルトレイン (増加率)	157人/月 3%増	160人/月 6%増	170人/月 9%増	170人/月 12%増	180人/月 15%増	180人/月	
レンタサイクル (R8年度比増加率)	4,488台/年 －	5,500台/年 3%増	5,700台/年 6%増	5,900台/年 9%増	6,100台/年 12%増	6,300台/年	
内宮参拝者の公共交通利用率	26%	28%	30%	31%	33%	35%	
「公共交通でゆく 神宮125社めぐり帖」ホームページアクセス数	2,000PV	25,200PV	26,500PV	27,800PV	29,200PV	30,500PV	
目標③ 外国人観光客の公共交通使いやすさの向上							
新たに整備する外国人向けの公共交通案内表示、動画、ウェブサイト等のコンテンツ数	0	2	4	6	8	10	
目標④ 住民の快適な外出環境の整備による回遊性の高い地域づくり							
サイクルトレインの利用者数、レンタサイクルの利用台数（再掲）							
サイクルトレイン (増加率)	157人/月 3%増	160人/月 6%増	170人/月 9%増	170人/月 12%増	180人/月 15%増	180人/月	
レンタサイクル (R8年度比増加率)	4,488台/年 －	5,500台/年 3%増	5,700台/年 6%増	5,900台/年 9%増	6,100台/年 12%増	6,300台/年	
観光路線をのぞく路線バスの利用者（再掲）	1,138,000	1,140,000人	1,140,000人	1,140,000人	1,140,000人	1,140,000人	
おかげバスの利用者（環状線をのぞく）（再掲）	65,292人	66,000人	67,000人	68,000人	69,000人	70,000人	
おかげバス環状線の利用者（再掲）	60,611人	62,000人	64,000人	66,000人	68,000人	70,000人	
おかげバスデマンドの利用者（再掲）	2,660人	2,730人	2,800人	2,870人	2,940人	3,000人	
沼木バスの利用者（再掲）	2,677人	2,680人	2,680人	2,690人	2,690人	2,700人	
沼木バスデマンドの利用者（再掲）	594人	610人	620人	630人	640人	650人	
公共交通利用満足度（再掲）	32%	34%	35%	37%	38%	40%	

5-4 基本方針 4 育てる

基本方針 4

育てる

～みんなで考え、地域で公共交通を支える伊勢を実現する～

目標① 担い手確保

重点目標

目標② 収入源の確保

目標③ 公共交通を考える

(1)公共交通会議の活用

(2)地域自らが公共交通を考える機会の創出

基本方針 4 の重点目標は「担い手確保」です。2024 年問題に伴う乗務員不足への対応や、自家用有償旅客運送(沼木バス)の運行管理や車両管理ノウハウの次世代への引き継ぎなど、公共交通の担い手の確保に努めます。

5-4-1 目標①の達成に向けた実施事業

目標① 担い手確保

重点目標

重点目標である「担い手確保」を実現するための施策の中で、「ドライバー確保に向けた取組推進」を重点事業とし、特に積極的に取り組んでいきます。

本市ではドライバーの高齢化が課題となっており、持続可能な公共交通を実現するため、ドライバー確保に向けた取組を推進していく必要があります。また、車両管理ノウハウなどを次世代に引き継いでいくことも重要です。バスやタクシーのドライバー不足を解消するため、市と交通事業者が一体となって取組を推進していきます。

実施事業

(1)バス・タクシーのドライバー確保に向けた取組を推進

(2)運行管理や点検等を含めた車両管理ノウハウの次世代への引き継ぎを実施

5-4-2 目標①に関する事業の実施主体とスケジュール

■実施主体:伊勢市、交通事業者、地域

■実施スケジュール

事業	実施スケジュール				
	R8	R9	R10	R11	R12
1)ドライバー確保に向けた取組推進	関係者との協議		取組の実施		
2)車両管理ノウハウの次世代への引き継ぎ		取組の実施			

バスやタクシーのドライバー不足を解消するため、市と交通事業者が一体となって取組を推進していきます。

目標指標	現況値 (R6 年度)	目標値 (R12 年度)
①乗合バスの運転手不足による減便を 0 にする	0	0

5-4-3 目標②の達成に向けた実施事業

目標② 収入源の確保

持続可能な公共交通を実現するため、利用促進を図り運賃収入を安定させるとともに、バス停のネーミングライツや車内放送による広告収入など、多様な収入源を確保していく必要があります。

実施事業

- (1)バス停のネーミングライツや車内放送など、公共交通を企業や店舗のPRなど活性化のツールとして活用

5-4-4 目標②に関する事業の実施主体とスケジュール

■実施主体:伊勢市、交通事業者、企業、商業施設

■実施スケジュール

事業	実施スケジュール				
	R8	R9	R10	R11	R12
1)公共交通を企業等のPRツールとして活用				継続実施	

目標指標	現況値 (R6年度)		目標値 (R12年度)
	広告協賛企業数	5社	

5-4-5 目標③の達成に向けた実施事業

目標③ 公共交通を考える

持続可能な公共交通の実現には市や交通事業者が地域の方々と一体となって、要望や課題を共有し、その解決に向けて様々な取組を進めて行くことが重要です。そのため、公共交通会議を定期的に開催することはもとより、新たな課題が発生した場合は、その課題の関係者にも会議に出席していただき課題解決に取り組むなど臨機に開催し、「地域とともにある公共交通会議」を目指します。

また、地域との対話の場を設け、課題が深刻化する前に対応を検討できる関係性を構築し、みんなで公共交通を考える伊勢市を目指します。進修地区では、地域自らが定期的に公共交通に対するニーズをモニタリングし、改善を図る体制・仕組みを構築しています。この取り組みを広く周知し、より地域ニーズに合った公共交通の構築を目指します。

実施事業

(1)公共交通会議の活用
1)定期開催に加えて、地域課題に合わせた臨機な開催により、新たな課題解決の場として公共交通会議を活用
2)高齢化の影響が懸念される地区の公共交通のあり方、将来の交通体系を検討する新たなスキームについて検討
3)公共交通会議での検討状況をホームページなどを通じて定期的に発信
(2)地域自らが公共交通を考える機会の創出
1)地域との意見交換の場を積極的に持ち、地域課題の把握と地域自らが中心となって地域交通の必要性や運行改善などを考える機会を創出
2)沼木バス(沼木バスデマンドを含む)について、地域主体の自主運行バスのあり方を協議し、R9年度を目標に再編を実施

5-4-6 目標③に関する事業の実施主体とスケジュール

(1) 公共交通会議の活用

■実施主体:伊勢市、交通事業者、地域、国、三重県

■実施スケジュール

事業	実施スケジュール				
	R8	R9	R10	R11	R12
1)地域とともにある公共交通会議の開催	会議の継続開催				
2)将来の高齢化を見越した公共交通のあり方検討	路線の再編と合わせて検討				
3)公共交通会議での検討状況の定期的な発信	定期的な発信				

(2) 地域自らが公共交通を考える機会の創出

■実施主体:伊勢市、交通事業者、地域

■実施スケジュール

事業	実施スケジュール				
	R8	R9	R10	R11	R12
1)地域との意見交換の実施	継続的な実施				
2)沼木バスに関する地域との対話とあり方の検討	あり方検討→継続的な対話の実施				

目標指標	現況値 (R6 年度)	目標値 (R12 年度)	
		目標値 (R12 年度)	現況値 (R6 年度)
①伊勢地域公共交通会議の開催 【望ましい方向:4回/年以上の定期開催+地域課題に応じた臨機な開催】	5回/年	—	—
②地域との懇談会等の回数	2回/年	3回以上/年	—

R12 年度の目標達成に向けて、計画期間中の各年度の数値の目安を整理しました。

	現況値	目標値					
		R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	
基本方針4 育てる ~みんなで考え、地域で公共交通を支える伊勢を実現する~							
目標① 担い手確保 【重点目標】							
乗合バスの運転手不足による減便を0にする	0	0	0	0	0	0	
目標② 収入源の確保							
広告協賛企業数	5社	5社	5社	6社	6社	7社	
目標③ 公共交通を考える							
伊勢地域公共交通会議の開催【望ましい方向:4回/年以上の定期開催+地域課題に応じた臨機な開催】	5回/年	—	—	—	—	—	
地域との懇談会等の回数	2回/年	2回/年	2回/年	3回/年	3回/年	3回以上/年	

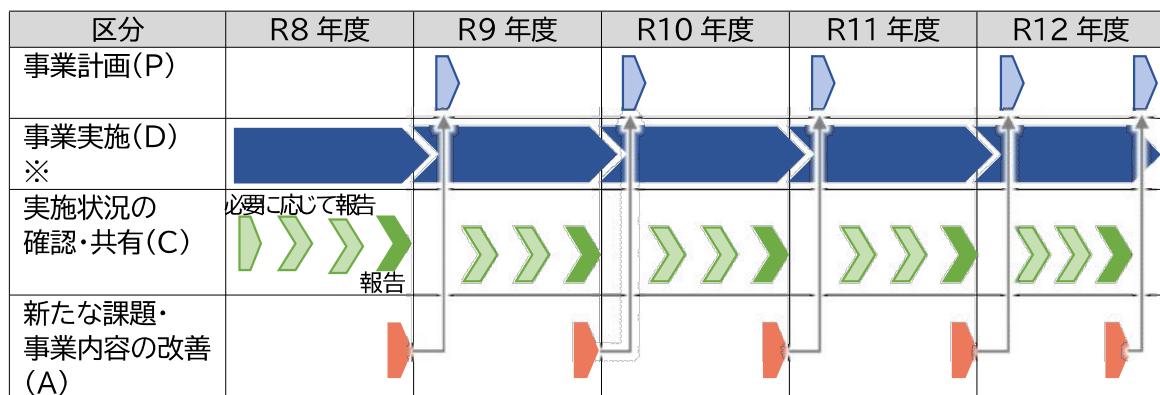
6 目標達成状況の評価

計画期間中は、毎年度、本計画に定めた事業の実施状況に関する調査、分析及び指標に対する評価を行います。具体的には、本計画や事業の立案(Plan)に基づき、本計画に記載する実施主体による実行(Do)、その結果及び効果、課題の確認、分析、共有等(Check)を行い、必要に応じて計画や事業の改善、見直し(Action)を行うなど、年度ごとのPDCAサイクルによる着実な推進を図ります。

また、計画期間の最終年度となるR12年度には、計画期間中の事業実施状況と目標指標達成状況の評価とともに、社会状況も踏まえた次期計画策定に向けた各種調査等を実施します。

毎年の事業実施状況や指標に対する評価は、伊勢地域公共交通会議において関係者間で共有し、一般に公開するとともに、新たな検討課題や事業の改善、見直し(Action)が必要となった場合は、幹事会や専門部会の設置も含めて対応します。

年度単位のスケジュール



年度のスケジュール

区分	N-1年度						N年度												N+1年度					
	1月 10月	2月 11月	1月 12月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
地域公共交通会議の開催	●				●			●				●				●				●				
会議の実施時期は目安であり、議案・報告事項の進捗によって柔軟に開催する。 【議案・報告事項】 C・A・P ・決算・予算の協議 ・事業実施状況の報告 ・各年度評価の報告 ・地域の公共交通課題の共有 ・新規事業計画の報告 等																								
必要に応じて幹事会・専門部会						必要に応じて幹事会・専門部会												必要に応じて幹事会・専門部会						
地域公共交通確保維持事業	□ 補助金交付申請	□ 一次評価	□ 二次評価			□ (会議での承認) 翌年度の計画認定申請			□ 翌年度の計画認定			□ 補助金交付申請			□ 一次評価	□ 二次評価		□ (会議での承認) 翌年度の計画認定申請			□ 翌年度の計画認定			
事業実施	★伊勢まつり ★バスのポスター コンクール					★ダイヤ見直し ★バスのポスター コンクール			★伊勢まつり ★高柳の夜店 ★バスの乗り方教室			★ダイヤ見直し ★高柳の夜店 バスの乗り方教室												
各種事業の実施 D → 各種事業の実施 D → 各種事業の実施 D																								
評価・検証		◎ 対話型評価 (関係者の双方型の コミュニケーション)	◎ 目標指標の評価 目標指標に 関連するデータ	C 目標指標に 関連するデータ	A 目標指標に 関連するデータ											◎ 対話型評価 (関係者の双方型の コミュニケーション)	◎ 目標指標の評価 目標指標に 関連するデータ	C 目標指標に 関連するデータ	A 目標指標に 関連するデータ					

【P : Plan、D : Do、C : Check、A : Action】

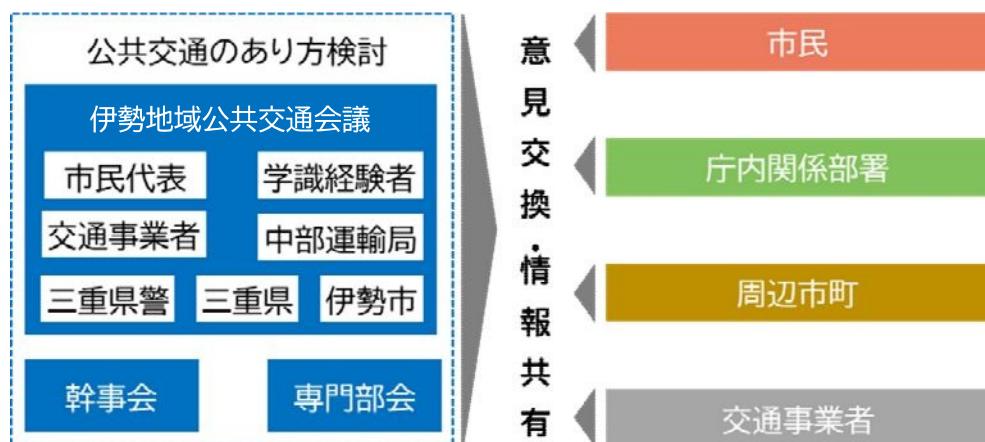
7 計画推進に向けた取組

7-1 機動的・横断的な実行体制

本計画は、伊勢地域公共交通会議により管理を行うものとし、円滑な協議を行うために幹事会を設置するとともに、地域の実情に即した課題や専門的な個別課題について協議を行う必要が生じた場合は専門部会を設置して議論を深めます。

また、計画が目指す将来像や基本理念を実現するために、市民のみなさんや庁内の関係部署、周辺市町と協働・連携して事業を進めます。特に、地域のニーズに即した公共交通ネットワークを形成するためには市民の方々との対話やアンケートによるニーズの掘り起こしを進めるとともに、持続可能な公共交通の確立に向けて交通事業者との定期的な意見交換や情報共有を行います。

伊勢地域公共交通会議と関係者の連携イメージ



庁内関係部署の連携イメージ



7-2 モビリティ・データの活用

国では、「国・都道府県・民間事業者によるデジタル化を一体的に推進することにより、R12（2030）年をめどに交通分野において、情報技術の特徴（自動化・省力化）を最大限に活用した有機的なデジタル連携体制の構築を目指すべき」としています。

本市においても、整備された IC カード情報の活用など、進捗に応じて積極的にデータを活用していきます。



資料：「地域公共交通計画」の実質化に向けた検討会 中間とりまとめ(R6.4)

下水道管路の全国特別重点調査（優先実施箇所）における 本市の結果及び今後の対応について

1 全国特別重点調査の背景

令和7年1月28日、埼玉県において下水道管路に起因する道路陥没事故が発生し、翌29日に国土交通省より、下水処理場に接続する大規模な汚水管及び雨水との合流管を対象とした緊急点検の要請があつたが、本市においては点検対象の管路が無いことを確認した。

その後、令和7年3月18日、雨水管まで範囲を拡大した全国特別重点調査の要請があり、優先実施箇所に該当する桧尻1号雨水幹線の調査を実施した。

2 優先実施箇所の調査結果

施設名	結果	延長(m)
桧尻1号雨水幹線	緊急度 I	434
	緊急度 I ※	81
	緊急度 II	550
	異常なし、対策済	362
調査延長計		1,427

※鉄道事業者と対策について協議中

3 今後の対応について

緊急度 I 判定の延長434mについては、令和7年度補正予算及び令和8年度予算により、令和8年度末までに対策を行う予定である。

令和7年度補正予算案については、速やかに市議会に提出したい。

下水道管路の全国特別重点調査(優先実施箇所) 位置図

桧尻1号雨水幹線

総延長L=2,696mのうち対象延長 L=1,427m

全国特別重点調査…内径2.0m以上かつ1994年度以前に設置・改築された下水道管路(暗渠)

優先実施箇所

- ①埼玉県八潮市の道路陥没現場と類似の条件の箇所
- ②構造的に腐食しやすい箇所または過去の調査で腐食が確認され未対策の箇所
- ③緊急輸送道路で下水道起因の陥没履歴がある箇所
- ④沈砂池の堆積土砂が顕著に増加した処理場・ポンプ場につながる管路

桧尻1号雨水幹線 調査結果 箇所図

施工中 対策済 施行中

対策済

異常なし

調査結果(優先実施箇所) 対象延長L=1,427m

緊急度 I 判定……L=434m

※速やかな対策を実施

緊急度 I 判定……L=81m（鉄道事業者と対策について協議中）

緊急度Ⅱ判定……L=550m (R7施行中148m含む)

※応急措置を実施した上で5年以内に対策を実施

異常なし・対策済……L=362m

第3期伊勢市中心市街地活性化基本計画について

1 パブリックコメントの実施概要

(1) 意見募集した案件

第3期伊勢市中心市街地活性化基本計画（案）

(2) 周知方法

公告、広報いせ、伊勢市ホームページ、CATV文字放送

(3) 計画（案）の閲覧場所（19箇所）

伊勢市役所（本館1階市民ホール、総務部総務課、都市整備部都市計画課）

二見・小俣・御園の各総合支所生活福祉課

神社・大湊・宮本・浜郷・豊浜・北浜・城田・四郷・沼木の各支所

伊勢図書館、小俣図書館

伊勢市生涯学習センター（いせトピア）、二見生涯学習センター

(4) 意見提出の対象者

市内に在住または通勤・通学している方及び利害関係のある方

(5) 意見募集の期間

令和7年9月16日（火）から令和7年10月16日（木）まで

2 意見募集の結果

(1) 意見数 2件

(2) 意見に基づく計画見直し なし

(3) 意見内容

	ご意見	市の考え方
1	<p>世は少子化の時代、伊勢市もそうで、人口は減り続けており、やがて数万人になることは避けられないだろう。とはいえ、他国の移民を大量に受け入れることも非現実的だ。そこで、他の地域から定住してくれる人がいるれば一番いいが、多くなさそうなので、季節限定などの人を受け入れることも必要だろう。今は車等で場所を一日以内で移動できるので、そういったことも可能だろう。</p> <p>一例だが、楠部のイオンの2階の駐車場から見える景色は遠くに山があり、緑の中にビルや民家などの建物があるので、都会から来た人には新鮮に見えるかもしれない。また夏は暑いが、都</p>	<p>市では総合計画に基づき、移住施策や産業観光施策等の事業を進めています。お寄せいただいたご意見を、中心市街地に限らず市全体に係るご意見として、近隣市町と情報共有や連携しながら、今後の市の各事業を進めていくうえで参考とさせていただきます。</p>

	<p>会に比べればマシなので、夏休み等で滞在できるかもしれない。</p> <p>それと、鳥羽や志摩市など、周囲の市町村と観光や第一次産業等の地域連合を組み、経済の発達を推進することも必要。やがて、水陸及び空飛ぶ車も一般化してくるだろうから、知多半島等から伊勢湾を渡って普通に来れるようになるのだろう。これは農業再生にもつながることだが、いつまでも田を潰して掘っ立て小屋みたいな家を建てていないので、おかげ横丁のように、門前町の雰囲気を出した街づくりをすれば観光客も沢山来る。</p>	
2	<p>すでに成功しているのは「おかげ横丁」伊勢市駅から外宮までの商店街は、確かに繁栄しているのは事実です。しかし、新道、明倫商店街はシャッターであるので、やはり、新しい工夫が必要です。</p> <p>明倫商店街のような新しい商店街の改革をしないと、シャッターで衰退しているので、回復を考える必要があります。</p>	<p>伊勢市駅前周辺を中心市街地の活性化については、伊勢商工会議所、伊勢まちづくり株式会社、伊勢市等で構成する「伊勢市中心市街地活性化協議会」において、官民が連携して取り組んでおります。</p> <p>商店街における取り組みとしては、空店舗への出店・改修の支援及び賑わいの創出に対する支援を行っており、商店街の回復につながり、快適に暮らせるまちづくりなど、新たな工夫についても、伊勢市中心市街地活性化協議会で検討し、取り組んでまいります。</p>

第3期伊勢市中心市街地活性化基本計画について

1 第3期基本計画の計画期間
令和8年4月～令和13年3月（5ヵ年）（予定）

2 第3期基本計画の区域
約153haの区域（中心市街地活性化区域図）

3 第3期基本計画のビジョンと基本方針

～働きやすく、暮らしやすい、歴史と文化を感じる
伊勢のまち～

基本方針 1

魅力的な商店街づくりと、回遊性のあるまちづくり

まちなかウォーカブル推進事業や商店街振興対策事業などの取組みにより、各商店街の魅力を上げ、居心地がよく歩きたくなるまちなかを創出することで、伊勢市駅周辺から各商店街への人の流れをつくり、中心市街地全体へ賑わいを広げるまちづくりを推進する。

基本方針 2

歩いて生活しやすく、安全に暮らせるまちづくり

空き家対策や木造住宅の居住安全性の確保を推進する。また、各地域での課題解決や活性化を図るため、自主的な活動を行う自治会等への支援を行い、地域活動の活発化とコミュニケーションの構築を推進する。

基本方針 3

式年遷宮を契機とした誘客の推進と「おもてなしの心」によるまちづくり

第63回神宮式年遷宮を契機に、より一層、伊勢市を全国へPRし、更なる誘客を図るため、世界に誇れる伊勢特有の歴史・伝統・文化行事・食などの魅力的なコンテンツの発信、観光資源の活用、伊勢人と観光客が一体になった、「見る」だけの観光ではなく、「聞く・体験する」といった五感を活かしたイベント等の構築を推進する。

また、新たなまちの魅力発掘と伊勢人がまちに誇りを持ち、愛着を感じられるような地域振興、それらを次世代に繋いでいく担い手の育成を推進する。

4 第3期基本計画の目標指標

目標 1 商業の活性化とまちなか回遊性の向上

目標指標 歩行者通行量（中心市街地活性化区域内の5商店街+伊勢市駅北口+河崎地区）

基準値 R6年度
3,543人

目標値 R12年度
3,822人

目標指標 中心市街地活性化区域内の店舗数の増減

基準値 R2～R6合計
△78店舗

目標値 R8～R12合計
△53店舗

目標 2 都市機能の強化と活発な地域活動によるまちなか居住の促進

目標指標 中心市街地の居住人口の社会増減

基準値 R2～R6合計
△152人

目標値 R8～R12合計
△72人

目標 3 観光の取組による中心市街地のにぎわい向上

目標指標 中心市街地活性化区域内の宿泊施設の宿泊者数

基準値 R6年度
425,382人

目標値 R12年度
497,000人

5 今後の予定

伊勢市中心市街地活性化協議会と連携し、事業の抽出や検討など協議を進めながら、令和7年度末の内閣総理大臣の認定に向け基本計画を作成する。

	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
市議会	●				●			
中活協議会	●			●				
市	案作成	パブコメ			申請		認定	

6 掲載事業一覧

分類	No	事業名	事業主体
市街地の整備改善	1	まちなかウォーカブル推進事業	伊勢市
	2	公園長寿命化事業	伊勢市
都市福利施設の整備	3	文化資源保存活用事業	伊勢市
	4	伊勢市健康福祉ステーション利用促進事業	伊勢市
まちなか居住の推進	5	住宅リフォーム促進事業	伊勢市
	6	移住 PR 事業	伊勢市
	7	木造住宅耐震補強等事業	伊勢市
	8	空家対策事業	伊勢市
	9	空家総合事業	伊勢市
	10	まちなか移住創業促進事業	伊勢まちづくり株式会社ほか
	11	御遷宮誘客伝宣事業	伊勢市
	12	お木曳行事魅力発信事業	伊勢市
	13	経営力向上支援事業利子補給補助金	伊勢市
	14	三重県版経営向上計画実施支援補助金	伊勢市
経済活力の向上	15	二十歳のつどい連携事業	伊勢市
	16	地域ブランド推進支援事業	伊勢市
	17	商店街空き店舗対策支援事業	伊勢市、伊勢まちづくり株式会社
	18	商業魅力アップ支援事業	伊勢市
	19	創業支援事業	伊勢市
	20	伊勢のまつり開催事業	伊勢まつり実行委員会
	21	ふるさと未来づくり事業	伊勢市
	22	観光客への情報提供事業	伊勢市
	23	観光客実態調査事業	伊勢市
	24	伊勢神宮奉納全国花火大会	伊勢神宮奉納全国花火大会委員会
	25	お伊勢さんマラソン	お伊勢さんマラソン実行委員会
	26	駅前等イルミネーション事業	伊勢市
	27	集大会合宿誘致事業	伊勢市
	28	公共交通機関とのタイアップキャンペーン事業	伊勢市
	29	着地型旅行商品造成事業	伊勢市
	30	文化資源保存活用事業	伊勢市
	31	伝統継承行事初穂曳実施事業	伊勢神宮奉仕会
	32	都市機能再生促進事業（伊勢市駅前地区）	伊勢市
	33	ビジネス・移住コミュニティ推進事業	伊勢市
	34	商店街等振興対策事業	伊勢市、伊勢まちづくり株式会社
	35	地域おこし協力隊事業	伊勢市
	36	中小企業サポート事業	伊勢市
	37	ウォーキング普及事業	伊勢市
	38	ペアレント・トレーニング事業	伊勢市
	39	まちなか誘客事業	伊勢商工会議所、伊勢まちづくり会社ほか
	40	河崎まちなか魅力創出事業	伊勢河崎まちづくり衆、河崎本通り活性化会議
	41	中心市街地の魅力創出事業	外宮にぎわい会議、伊勢市東市実行委員会ほか
	42	伊勢市駅前商店街活性化事業	伊勢市駅前商店街振興組合
	43	しんみち未来創造事業	伊勢銀座新道商店街振興組合
	44	繋ぐ高柳希望の風事業	伊勢高柳商店街振興組合
公共交通機関の利便性の増進	45	自動運転バス事業	伊勢市
	46	伊勢市「日本版ライドシェア」長期実証事業	伊勢市
	47	おかげバスの運行事業	伊勢市
	48	レンタサイクル事業	伊勢市観光協会

令和7年8月25日産業建設委員会配布資料

中心市街地活性化区域図

